

アークナイツ 『☆6エ
リートコック！？』 ト
ロフィー獲得RTA

色々不足中ダルク

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

完結寸前の作品がなんか詰まってて(?)終わらないので初投稿です。

飯テロしてえなく俺もな〜

オペレーター? 戦闘描写? (平和的√なのでそんなの) ないです。

(ガバもきつと) ないです。(希望的観測)

某サイトでメツジちゃんつくりましたンゴ (あくまでイメージ)

目次

- プロフィール（更新中）—— 1
- キャラ作成くメニューその1『ちよつとした贅沢』—— 8
- メニューその2『おおきなおやま』—— 19
- メニューその3『ふわとろオムライス』—— 26
- メニューその4『イエラグ風サンドイッチ』—— 36
- メニューその5『甘口ひとくち 前半』—— 45
- メニューその6『甘口ひとくち 後半』——
- メニューその7『犯罪的な旨さ？』—— 55
- 63
- メニューその8『自己満足食』—— 80
- メニューその9『ポトフラーメン』—— 86
- メニューその10『祝杯』—— 97
- メニューその11『ペイクドチーズケーキ』—— 108
- 箸休め『おやつネットワーク』—— 115
- メニューその12『名探偵のお気に入りなのだ！』—— 125
- メニューその13『小さな小さな恩返し』——

メニユーその19 『ぬくもり』	201	メニユーその26 『アイスクリーム』	267
メニユーその18 『メロンパン』	193	メニユーその25 『フルコース(後編)』	253
箸休め『おりようりやさん』	189	メニユーその24 『フルコース(前編)』	244
メニユーその17 『希望を掴む』	179	メニユーその23 『バタースコッチ』	237
メニユーその16 『懐かしい味』	169	メニユーその22 『カスタードプリン』	229
メニユーその15 『クリームパン』	159	メニユーその21 『牛丼』	220
メニユーその14 『「罪」なお味…?』	152	メニユーその20 『賑やかで明るい朝』	209
メニユーその13 『「罪」なお味…?』	142		

プロフィール（更新中）

【基本情報】

【コードネーム】メツジ

【性別】女

【戦闘経験】無し

【出身地】イエラグ

【種族】ヴァルポ

【身長】161cm

【鉱石病感染状況】メデイカルチェックの結果、非感染者に認定。

【能力測定】

【物理強度】標準

【戦場機動】優秀

【生理的耐性】標準

【戦術立案】標準

【戦闘技術】 欠落

【アーツ適正】 優秀

【個人履歴】

イエラグ出身の料理人。アテもなく旅をしている途中でロドスに加入、後にオペレーターとなった。

彼女の作る料理はどれもが絶品ものであり、それを食べると『身体の底から力がみなぎる』『溜まった疲労が抜けていく』等と皆が口を揃える。

また彼女の作る料理やそのレシピを求めて一部オペレーターが何度も彼女の元を訪れているのがよく見かけられており、彼女本人は「偶にならいいけど、毎日は流石に勘弁してほしいかな」と愚痴を漏らしていた。

またシルバーアツシユ家の専属コックでもあつたらしく、彼女は断固として拒否しているものの、オペレーター・シルバーアツシユは彼女を再度身内に引き入れようと模索しているらしい。

【健康診断】

造影検査の結果、臓器輪郭ははっきりとしており、異常陰影も認められない。循環器系源石顆粒検査においても、同じく鉍石病の兆候は見られない。

以上の結果から、現時点では鉍石病未感染と判定。

【源石融合率】 0%

鉍石病の兆候は見られない。

【血液中源石密度】 0.11u/L 0.01u/L

源石と関わる事は極めて少ない。

彼女本人を案じているのは勿論だが、これからの我々の楽しみのためにも、彼女が鉍石病に感染せず幸せであり続けられることを切に願っている。

—— 考えて見れば分かることだったんだ。彼女はイエラグから一人でロドスまで来た。それも回収時はイエラグからは決して近いとは言えない距離だった。

—— つまり源石の脅威に長期間は晒されている筈だ。天災にも巻き込まれた事だろう。その上でコレだ。

—— 彼女は、予防してたんだ。最初から。

【第一資料】

ロドス内にて『料理長』の二つ名を冠したヴァルポの女性。

非常に温厚な性格で、被災地の感染者達に石を投げられても決して怒りの感情を示さず、人々の笑顔が大好きと語る程。

ロドスの厨房の『核』とも言うべき存在であり、実質的ではあるものの、二つ名の通り『料理長』の立ち位置にいる。因みにメニューの三割程は彼女の発案だったりする。

あの子について？まあ、そうね。オペレーターになる前も厨房の方で色々と手伝ってくれたわよ。職員よりはバイトって感じだったわね最初は。でもいざ料理に手をつけるとなると、そりやもうビックリしたわよ。だって今まで食べた事がないくらいには美味しいんだもの。

きつとあれは、才能ってヤツだけでなく、ありえないくらいに重ねてきた努力の賜物ね。流石イエラグのお偉いさんに気に入られてるだけはあると思ったわ。

——ジュナー

俺にとって彼女は、友ですかね。ロドスに来る前までは大した関係もなく、偶に顔を

合わせる程度でしたが、旦那様は彼女を大層気に入られておりました。そう思うと、もっと早くに仲良くしておくべきだったと悔やんで止まないです。

でも、そんなに気にする程でもありませんでした。何故つて？これから仲良くすれば良いだけなのです。彼女もそう仰っておりましたからね。

——マッターホルン

例の嬢ちゃんか？あゝ美味しいよなあ嬢ちゃんの作った料理。つついついつまみ食いたくなるんだが、毎回気付かれちゃうんだよな。勘がいいんだかなんというか。普段は隙だらけなのによオ。

……ああ？最近？キツチリ並んでるよ。忍び込む度に首根っこ掴まれるもんだから諦めもつくさ。でもまあ、並んででも食う価値はあるんじゃないかな？

——イーサン

【第二資料】

上記の通り彼女はロドスの厨房にて職員達の英気を養っているが、本職は医療オペレーター。ヒトを治すことにある。

しかしその医療方法は、奇しくも料理を振る舞うことだった。

彼女の医療アーツは直接人体にアーツを通すよりも、料理に混ぜ込む事で対象の自然治癒力を高めて治す方が、効率はともかく効果が大きかった。

ついでに言うなら長期間に渡る作戦においては特に、隊の士気を維持しつつも高めることが可能な為、能力的な意味合いでなら彼女は遠征等の作戦に最適な人材だろう。

そして何より特筆すべきは、源石に対する浄化能力だろう。

天災等で生成された源石単体には効果が無いものの、人体の中の源石に対して強い浄化効果を有しており、『本当の意味で鉱石病から人々を救える』と世間を大いに沸かせた。

尚このアーツを利用し、ワクチン等を大量に生産することは本人からの強い要望で禁止されている。

【第三資料】

現在非公開。

【第四資料】

現在非公開。

キャラ作成くメニューその1『ちよつとした贅沢』

殺伐とした世界で平和に新料理、大発見！（開発）するRTAはーじまーるよー

さーて前回に引き続き、アークナイツRPGやっていきます。前作？まあ、多分終わるよ。きつとね（ハナホジ）

その前回では、SAN値がごりつごり削れるバグトロフィーのこと『虚無へ』でめっちゃサツバツ！してて（もうやりたく）ないです。ので、今回は平和要素しかないトロフィー『☆6エリートコック!』を最速で取っていきたいと思います。

所得条件はとっても簡単！

・料理図鑑のメニューを全300種作る（裏メニューは含まない）

たったこれだけです。（戦闘する必要）ないです。ラブアンドピース！やっぱり平和が一番だつてはつきりわかるんだね。

メニューの数が多すぎるツピ!?!なんてお思いだとは思いますが、この数はDLCやアップデート、MODで追加されたものを除いた数です。現時点でのこれらを合わせてしまうと、その数まさかの約1200種。

これらを全部作るなんてことになったらいつまで経っても終わりません。もつと言え、走者が飯テロされてウーン（餓死）します。

なんてことはさておき、今回のRTAで最も重要なのは、「素材となる食料をどれだけ早くかつ多く入手できるか」にかかっています。

そのための基礎能力からスキルまでを獲得するのにオペレーター登録は必須ですが、（基本的には戦わないです。携行食の補給、という意味合いでは医療オペレーターが望ましいですね。重装だと、ほら、グムちゃんと立ち位置がダブるからね。

あと、所属はロドスにしておきます。龍門でも構いませんが、あそこだとゴロツキだとかレユニオンだとか、あとチェン氏とかのサブイベントで最終的にロドス行きになる可能性を鑑みれば、最初からロドス入りしての方が都合はいいです。自炊もしやすいしね。レユニオンスタート？（完走できるわけ）ないです。士気を高める要因を先に潰すのは当たり前だよなあ？

スラムスタートも構いませんが、ロドスにたどり着くまでが長いので却下。前線には出ずらいのを逆手にとれますけどね。

とりあえず大雑把には説明できましたかね。補足とか説明不足は後々にでも……まあええわ

じゃあ行くよ（キャラ作成）

まあ最低限必要なの以外はランダムで構いませんので作成シーンはカット！

【コードネーム】メツジ

【性別】女

【戦闘経験】無し

【出身地】イエラグ

【種族】ヴァルポ

【身長】161cm

【鉱石病感染状況】メデイカルチェックの結果、非感染者に認定。

イエラグ出身かあ……カランド勢、特に銀灰ニキとの関係気になるけどままえやろ
（慢心）

そして非感染者。感染者ならレユニオン勢に媚び売れるんですがねえ……限定素材の
【硬いパン】も回収できるかもですしおすし。

あと要らないとは思いますが、ステータスの割り振りもやりましようか。偶によく必要になるステータスもありますあります……ないです。（どっちだよ）

【物理強度】標準

【戦場機動】優秀

【生理的耐性】標準

【戦術立案】標準

【戦闘技術】欠落

【アーツ適正】優秀

うん、普通だな！

アーツ適正は割と重要。(でも卓越レベルまでは要ら)ないです。アイテムの【携帯型アーツコンロ】〔携帯型冷凍BOX(小)〕を常備する予定なので、欠落だと計画が破綻してしまうのでここはきっちりやりましょう。戦闘技術なんて(戦うつもりないから)いらねえんだよ！

あと戦場駆動はおま○け。逃げ足は早い方がいいもんね。

よし！じゃあそろそろ行きましようか。

今回もトロフィー獲得でタイマーストップです。

ほら行くど〜(スタート)

……ふと、目を覚ます。外はまだ暗い。

おっはー！（声だけ迫真）

さあ目覚めましたねホモちゃん。癖っ毛かわいいね♡

時間は…04:00。朝には少し早いかもしれない。

超スピード!?(起床時刻)

ホモちゃんの部屋は…料理出来そうなものが沢山ありますねえ！カセットコンロに小型冷蔵庫、電子レンジまでありますあります！我々から見たらだいぶ旧式ですが、これだけあれば十分です。

冷蔵庫の中身は……うせやろ？ほとんどすっからかんじゃねーか！はーつつかえ。

(でも作れなくは) ないです。

素材としての表記で言えば、【卵】×3、【ベーコン】×2、【レタス】×1、【牛乳】×1といった感じ。

冷蔵庫の外も含めると…【米】×4、【食パン】×3、その他調味料等が各種×6くらいですかね。調味料多くなあいい？とは思いますが、リアルもそんなに多く使わないし、誤差だよ誤差！

あと確認を忘れていましたが、料理図鑑も閲覧しておきましょう。開始前に既に作られてる判定になつてる料理もあるかもです。メニューを開いて、アイテム欄の料理図鑑を選択して…あつ、ふーん(白目)

結論言いますとですね……………

なんの成果も！得られませんでした！

はい、全部未登録でした。いやーキツいつす。

……………少し、お腹が空いたな。

……………ご飯を作ろう。

おつ、ホモちゃんが料理をするみたいですね。

実はこの【料理】にもゲーム要素が詰め込まれてまして：作りたいたい料理に合わせて素材を選び、調理器具の性能次第でも味のランクや付与効果が変わるんですね。モンハンかな？（アイルーキッチン）

そしてその料理ですが、感覚的にはリズムゲーに近いですね。勿論火力調整などのリアテイあふれる要素も多いので、リアル料理よりちよつと難しいかもですね。

ですがそこはご安心！チャートに折り込み済みです！火力調整による焼き加減から素材投入のタイミングまで完璧に作って見せましょう！作ってない料理とかも有ればwikiで確認できますしね。

さてさて気になる料理、第一号はくくく……：

……パンもあるし、ベーコントーストでも作ろう。卵も使って、ほんの少しだけ贅沢してしまおう。

おついいねえ。料理名【ベーコンエッグトースト】、料理ランクは☆2の初級料理ですね。

因みに説明していませんでしたが、オペレーターのランクがあるように、料理にもラ

ンクがあるんですよ。それもオペレーターのとそれと同じく☆1〜6まで。はええ〜細かいっすねえ〜。

本来なら料理シーンはスキップしたいんですが、初めて作る料理の場合はスキップできないという制約がありまして、料理の出来次第だとホモちゃんも元氣出なくてガバになるので、できれば完成度☆6は取りましょう。最低限でも☆4は必須です。周りの評価も影響してきますし。

ではでは飯テロタイムだあ！（走者処刑）

まずはコンロに火をつけてフライパンを温める。中火で30秒あれば良いですね。こ→こ←実はタイム短縮のカギです。リアルはそうでもないですけど。

充分に暖まったら、ベーコンを投入：する前に、卵を投入しましょう！リアルだと焼いてる途中で水を少しずつ入れると白身が美味しく出来上がるのですが、ゲームだとそこは無いんですね。ご都合感ありますねえ：

勿論ですが、卵を入れるタイミングで火を弱火に直します。焦げやすいからね。仕方ないね。ついでにこれで料理の一つ、料理ランク☆1【目玉焼き】も登録されます。一石二鳥だあ（感動）

……はい、焼けましたね。無事黄身は半熟、白身はちよち固め。☆5確定いただきました（お腹が鳴る音）

では続いてベーコンを投入。出来ればベーコン先に焼いておきたかったんですが、ベーコンの焼いた後の油が残らないとかいうクソ仕様が邪魔してたんですね。だから先に卵を焼いたんですよ。尚、料理中は順序次第で先に焼いた食材が冷めるなんてことは無いのでご安心！いつでもアツアツを美味しく食べれますねえ！（歓喜）

ベーコンはカリッカリに焼けるのが一番おいしい（偏見）

はいベーコンも焼けました。「焼きベーコン」なんて手抜き料理は流石に無いのでご安心。でもこのベーコンにさつき焼いた目玉焼きを乗せれば……「ベーコンエッグ」の出来上がりです。登録もされました。（システム面）ガバガバじゃないか！

……さて、本命のトーストの順番ですね。火は弱火のまままで調味料粹の「バター」をパンに塗り塗り……では投入！両面が狐色になるまで焼けば……はい、☆1料理「トースト」の完成です。

では「ベーコンエッグ」と今作った「トースト」を組み合わせれば……

……完成だ！我ながら美味しそうにできたと思う。

調理、完了です…（絶頂）

というわけで第一号は「ベーコンエッグトースト」でした！

さてでは実食…：飯テロはまだ終わらんよ…！

…：サクツ、とパンの軽やかな音と共にベーコンのジューシーな旨み、そして何より半熟に焼けた卵の甘みが口の中を蹂躪する…！

味わい深くも優しい風味で、ジューシーなのにしつこくない…控えめに言っても、とても美味しい…！

…：とても美味しかった。これはハナマルをつけても良いだろう。

やったぜ

その評価は☆5！やりますねえ！

ただの自己評価とはいえ、これは嬉しい…嬉しい…

といったところで今日はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその2 『おおきなおやま』

(胃袋を) 掴んで離さないRTAはーじまーるよー

自作の料理を食べて、うん、美味しい！(バフ大盛り)

そこから替えて、食堂に一直線で向かってるところから開始ですね。メシの力は偉大なりい(歓喜)

移動シーンを背景に今回のRTAの解説というか、注意点とかの説明をば。今回の目的のトロフィーの獲得条件ですが、300種もの料理を作る必要があります、どう頑張っても時間がかかってしまいます。(裏技なんて) ないです。

凶鑑で言うなら、今のところ計4種類埋まっています。少なくなあひ？

でもまあ、抜け穴(意味深)はありますあります。前回のベーコンエッグがそれです。形がそれっぽければ良いとかいうガバ判定なので、有効に活用しましょう。

して、気をつけるべき点としては、やっぱり野生の根源『ケオベ』ことケーちゃんです。ね。気づいたら素材を食われて「ごはんまだ!」とか聞かれるので頭に来ますよ!

(全敗)

なので、ヴァルカン姉貴にちゃんと管理して貰いましょう。それが無理ならグムちゃん。それも無理なら…ナオキです（満身創痍）

でもまあ、餌付けとか躰で抑制することは可能です。ただそれだとケーちゃんとの親密度とかの管理でガバが発生します。親密度イベとかサブイベはガバの主要因だって、ばつちやも言ってた（嘘）

あとは『イーサン』兄貴ですね。偶に良くつまみ食いされます。感想言ってくれるのは良いですけど、言わないときもあるのがいやー辛いつす（32敗）

でも『マッターホルン』マツマがいればモーマantai！（チエン姉貴感）ちゃんと止めてくれます。

…：到着しました。チャート通りなら厨房組の誰かが居るはずです。グムちゃんなら都合が良いですね。ご飯作るの手伝えるし。

「いっはんっー！」

あ“あ”あ“あ”あ“あ”あ“あ”ツツツ!!!

（邪魔するのが）早えんだよお前よオオオ!!!

はい、ケーちゃんに捕捉されました。なんか作って上げないと駄々をこねてヴァルカ

ン姉貴の親密度が下がります。つまりケーちゃんを見て貰えません。だからといって作ってあげるとケーちゃんの親密度が変な上がり方してストーカーされます。

ああっ！逃れられないっ！（絶望）

…仕方ありません、ご飯を作ってあげましょう。作るか否かで言えば、作った方がまだマシです。ヴァルカン姉貴基本的に工房に籠ってるので中々会えないんですよねえ。逆にケーちゃんはご飯があれば何処にでも現れてきます。

「ごはんっ、ごはんっ」

可愛いけどうるせえ！とりあえず、作り置きしてくれているであろう「ハチミツクッキー」を食べて待つてもらいましょう。（素材）食うなよ…絶対に食うなよ…（フラグ）

「ん！おいら、がまんできる！はやくはやくっ」

しょうがねえなあ（サイヤ人感）

では手軽にかつ多く、素早く作れる料理といえば……

……朝から重たいかもしれないけど、チャーハンでも作ってあげよう。

はい、☆2料理【チャーハン】ですね。ぱぱっと作る必要があるのですが味には拘らず、調味料は少なめに。後から来るであろうグムちゃんの方も合わせて作っておきましょう。

調理器具に食材、食器までを素早く用意しましょう。こ→こ←RTA要素。

【中華鍋】に油を注ぎ強火で温める。多く作るつもりなので油が少なすぎるとお米が焦げやすいので注意。おこげが好きな人もいるけど誤差だよ誤差！

温まったら冷やしてあつたご飯、【米】を投入、【塩】【胡椒】【醤油】を少しずつ加えて味を細かく調整。

こ→こ←でチャーハンで最も重要であろうパーツの【卵】とブロック状に切られた【ベーコン】も投入。米より先の方がいいかと思いますが、走者の作り方はコレです。なのでこれも正解なんです（暴論）

そしてシメに【長葱】を加えて炒める……

……完成だ！可もなく不可もなくといった感じだ。

ウーン、完成度は☆3ですかねえ……ままえやろ（手抜き）

さあ、お上がりよ！（食べたら服が脱げる漫画感）

おいら、がまんができるから、ずっとまっていたんだ。なんどもなんどもでそうになつて、かつてにたべちやいそうになつて、それでもがまんして、ずつとみてたんだ。

おながくうくうなつても、よだれがじゆるりつてこぼれても、おいらがんぼつたんだ。

そうして、ながいながいじかんがたつて、おさらにおおきいおやまができあがつたんだ！

おおきいおおきいおやまは、とつとつてもおいしそうなにおいがしたんだ！こおばしい？つていうのかな？

そうして、ヴァルカンおねえちゃんとかいかたをべんきよーした、スプーンをもつて、おやまのてっぺんをくずしたんだ！

『いただきます』つて、いうのもわすれて、がまんできなくて、ついついおやまをたべちゃったんだ。

そうしたらね！おくちのなかに、じゅわあくって！おにくのおあじがおいしくて！おやまももちもちしてて、すっごいんだ！

なんどもなんどもたべても、ずっとたべられるんだ！

いつもはたくさんありすぎて、とちゅうであきちやって、のこしちゃうんだけど……

このごはん！あきないんだっ！

とつても！とつても！おいしかったんだ！！

「ごちそうさまでしたっ！」

ありがとう！だれだかわからないけど、おいしかったよ！とつてもとつてもおいしかったんだよ！

こんどは、ヴァルカンおねえちゃんといっしょにたべたいな！

「ごちそうさまでしたっ！」

よし！なんか満足した顔してますね。気になる評価は……

……うせやろ？☆6!?!?これで!?!?スウウ……

いやー、頑張つて作った甲斐がありましたわ〜ガハハ（手のひらクルル）
ケーちゃんも満足したのか、帰っていききましたね。

と言ったところで今回はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその3『ふわとろオムライス』

金！暴力！S O X！より三度のメシが好きになるRTAはーじまーるよー

前回はケオベことケーちゃんに飯をキメてあげてお粗末！したところで終わってました。しかし今気付きましたがなんで調理中に一回か二回はちよっかいかけてくるはずのケーちゃんがただ凝視するだけで済んで、食ったら食ったでそそくさと帰ってったんですかねえ？

…もしや、躰がきちんとされた世界線のケーちゃんだったりしたんですかね？どんな乱数だよそれ。都合はすつごく良いので有り難いですが。

そんなもって時間は：05：00!?!早すぎんとちゃう？

知らぬ間にマッターホルン兄貴含むオペレーターやら職員やらが点々とですがいますね。ケーちゃんの件も見られてますねクオレハ…

「まさかまさか、あの問題児をこうも簡単にあしらってくれてしまうとは…いや、言い方が悪かったですね。流石は料理長、あの彼女を簡単に満足させてくれるとは、このマッターホルン、恐れ入りました」

お、おう。ありがとナス！（純粹無垢）

マッターホルン兄貴ことヤーカマツマがこんなにフランクなのは本人の性格だとか、あとはまあ出身からほぼお察しなんです……料理長てなに？あだ名か何かっすかね？これって、勲章ですよ……（不名誉）

ままえやろ（思考放棄）

さて本来の目的だったグムちゃんは……休みか寝坊ですかね？寝坊だとサブイベの『グムの習慣』が発生してしまうので、巻き込まれないよう気をつけたいところですね。言うて鬱イベの中ではマシな方ですしおすし。

あつ、今更だけどグムちゃんの分も合わせて作ったはずのチャーハンが無くなってる!? どういうことだつてばよ？（困惑）

「ああ、それなら冷蔵庫に入れておきましたよ。グムさんのことならご心配なく、俺の方から伝えておきますので」

兄貴い！ありがとナス！（サムズアップ）

さてさて、グムちゃんが居ないのは誤算ですが、早速料理フェイズだ！とは言え人の

流れが今の時点でもすっごいので、品揃えも多く栄養も勿論良く、というのがモットーなので、そこはレシピを頼りましょう。モブ共の感想聞くのも淡々と作ってるシーンもつまらんやろ？

なので早送りします（5倍速）

カットするのも良いですが、ちようど良いので今のうちに『固有料理』について説明しましょうか。

固有料理とは、一定のキャラが大きく関連し、ものによっては親密度にさえ関わってくるという、ちよつと不思議な仕様の料理の事です。例を挙げるなら、今回目的だった、 Gumちゃんの作る定食「Gum'sプレート」や、今マッターホルン兄貴が仕込んでいる「ヤーカのシチュー」などが有名どころですかね。

これらは先程言った通り、それらに関連するキャラ本人やその関係者の親密度やバフ効果の乗り方が他のと違うのが特徴です。Gumちゃんのなら、ウルサズ勢にバフが多く乗りやすく、ストーリーの進み具合次第でサブイベも発生します。ので食事系のイベントを通る走者兄貴達は気をつけよう！ガバに色々持つてかれるぞ！（注意喚起）

さて倍速が終わりましたが、時刻は07:50。流星にそろそろGumちゃん来るとは思うんですが……

「ごめんなさいっ！遅れました〜！」

ようやくですか待ちくたびれましたよ〜ホントによく。もし良ければですが、冷蔵庫にいい、ご飯作って入れてますんで、パパッと食べてから仕事に入って、どうぞ。

「ありがとう料理長！急いで用意するねっ！」

かわいい（ノンケ） ゆっくり食べてもいいゾ。

おっ、そうだ（唐突） ここで一品、グムちゃんにおま〇けしてあげましょう（意味深）
あつズイマー姉貴睨まないでお願いします（なんでもするとは言っていない）

さてグムちゃんが食べるのはケーちゃんにも振る舞ってあげたチャーハンなわけですが、温めて食べるまでちよ〜と待たせてもらって良いっすか？時間？大丈夫だって安心しろよ。ウシニキ、ちよ〜とだけ厨房の方任せるゾ

すんげー困惑した顔してますが受けてもらえたのでしばらくはヨシ！（適当）

作ってたのが「ケチャップライス」なら味の相性的にも合うんですが、やつちやつたもんはしょうがないね。

はい、お察しのいい兄貴たちならお分かりかもしれませんが、今回作るのは☆2料理

【オムレツ】です。流石に朝からは重たいと思うのでサラダもつけてあげましょう。栄養、大事。

では作っていきましょう。感覚的には【卵焼き】に近いかもしれませんが、温度調整が非常に難しく、火が弱すぎても時間が無駄に掛かるし、強すぎても硬くなりすぎたり焦げたりするので難易度が高めな、ある意味レア度詐欺のメニューとなっております。

ではフライパンに火を通し、今回は【バター】を少し多めに使って溶かしましょう。卵に一工夫入れたいので弱火で。

さて此処でリアルでも使えるかも知れない小技を。卵焼きを作る場合で、溶き卵に【砂糖】を入れると甘口になり、お子様も大変喜ばれると思います。

あと個人的な好みではありますが、砂糖の分量は卵2個につき小さじ1〜2杯くらいがほんのり甘くて好きですね。醤油も適量混ぜるのもヨシ！

さて、そうこう言ってる内にバターが溶けましたね。ではフライパン全体に馴染ませ、全部入れちゃいましょう。卵焼きの場合なら2回とかに分けて入れると厚みが出て好き。自分が作ると毎回ちっちゃくなりますが○

こゝこゝでフワトク感を出す為に卵を軽く混ぜるんですが、注意点としては絶対にゴムベラを使うことです。木ベラだと硬すぎて混ぜてる途中で底の方が抉れたり千切れたりして散々な目に遭います（1敗）

箸ならワンチャン生きれるかもしれない…多分。

さてでは、一番難しいであろう『包み』の工程です。端つこのコゲっぱいのを処理してから、ゴムベラで優しくちよつとだけ返しましょう。一気に半分もやつちやつたらオムレツじゃなくなります（2敗）

でも最後の最後まで巻き切らず畳み切らずに、なんぼかは残しましょう。そうした後に残った分を反対側から包み、更にそれをひっくり返して形を固定…

…完成だ！美味しそうに出来上がっている…いけない、ついヨダレが…ジュルリ

わくおいしそ〜（血涙）

完成しました。あとはこれに乗っければオムライスの完成です。サラダはレタスとかを適当に散りばめて終わり！

「えつと…それ、オムレツ？」

正直、困惑してしまった。

冷蔵庫に入ってた、チャーハンと思わしきものを温め終わったところで持つてきたのがオムレツ。あとは申し訳程度と言わんばかりのサラダ。

昼以降に食べるのなら喜んでいたが、今は朝一だ。はつきり言つて重たすぎると思つた。きっと、美味しいのは間違いないのだろうけど、胃もたれだとかが気になる。サラダも雑だし。まあ、量はどれも比較的少なめだから、パパツと食べれそうではある。

…文句ばかり垂れても仕方ないし、頂こう。

そんなことを思つた途端、「待った」と声が掛かった。

「…料理長？グム、早く食べてみんなの手伝いしなきゃなのに、どうしたの？」

すると、唐突に作つてくれたオムレツを、チャーハンの上に乗せてきた。

…なぜチャーハンの上にオムレツを乗せるのだろうか？別々に置いた方がきつと美味しいだろうに。もしやこれでオムライス、なんて言うつもりは無いだろうか…彼女には悪いけど、時間が時間だしあまり味わうことは出来なさそうだ。ちやつちやと終わらせよう。

すると途端に、彼女は包丁を取り出し、そして縦に切り込みを入れる。

するとどうか。オムレッツだったものは割れ、金色のカーテンが小さな山脈にかけられていく。

「わあ……！」

つい、声が溢れた。

これが夕食ならどれだけ良かったことか、と思ってしまうのはワガママだろうか。でもズイマーお姉ちゃんやイースチナお姉ちゃんは多分、進んで食べようとはしない。無論これは、『朝に』という条件ではあるが。

そして、オムライスとなったそれに、ケチャップの代わりにバジルが上からかけられていく。どうやらこれで完成みたいだ。

とりあえず、吐き出してしまいたい文句を呑み込み、今は食事というエネルギーチャージに専念しなければ。

置かれたスプーンを手に取り、手を合わせてお辞儀する。

「いただきます」

金色の山の一部にスプーンを割り入れる。思ったより柔らかいのかスツ、と抵抗なく掬うことができた。

そして一口……

「……美味しい！」

まず出てきたのはその一言。

卵から感じるほんのりとした甘みと、薄味で作られたであろうチャーハンが、想像の何十倍も絡み合っている。

雑に作られたサラダもつまんでみる。まあ普通だ。でも新鮮なものを使っているのが一瞬で分かるくらいにはシャキツとした。とてもみずみずしい。

そしてオムライス、サラダ、オムライスと交互に食べていると、気付かぬ内に完食していた。時間は……5分!? 流石の自分でも早すぎる。確かに急いでいたが、意図してガツガツ食べていたわけでは無かった。ただ無意識のうちに流し込んでいたらしい。

「……ちそうさまでした！ありがとうございます！料理長、美味しかったよ！でも今度は夜とかに食べたいかな？」

とは言ったが、前言撤回、これほどならまたご馳走になりたいと思った。

……さて、今度レシピを聞かないと。ズイマーお姉ちゃん達に振る舞つてあげたいからね！

お粗末！（コロンビアポーズ）

いやー流石に重すぎるかなとは思いましたが、グムちゃんも満足してるし、とりあえずヨシ！（適当）

さてさて気になる評価は……☆5？うせやろ？高すぎんとちゃう？ままええわ（満足）

さて、引き続き仕事行くど〜（サボり魔）

というわけで今回はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその4 『イエラグ風サンドイッチ』

(飯) テロ常習犯のRTAはーじまーるよー

前回はグムちゃんにスマイル(無料)貰って終わりましたね。今回はウシニキに預けてた厨房に戻って業務に戻ろうつてところなんです、グムちゃん来る前のアレとあんまり変わらないので倍速です。

さて、今言った例のアレ(意味深)で料理図鑑が、なんと30種も埋まりました! やつたぜ。

全体の一割程度とはいえ、なかなか順調に進めてますね。ご立派ア! (自信過剰)
正直言つて予定してたチャートより多く作れてた。

あと触れてなかったですが、やつぱりネームドキャラ達も沢山来てますね。ドベ教に始まり行動隊や予備隊、BSWやペンギン急便とかのキャラ達が揃いに揃って並んでるの見れてアムロ感激い!

カランド勢はまあ…ウシニキに構ってるんじゃないかな? まだ来てないけどさ。ホモちゃんがいエラグ出身だからって来ないよね…?

等速に戻りました。ということはプチイベかな?

「おつ、今日はアンタがいるんだね！ヤーカーおじさんもいるし、大当たりの日みたい！」

スウウ……（微かに感じるガバの気配）

はい、エンシアお嬢様こと「クリフハート」ですネ。

いや、銀灰兄貴じゃないだけマシだとは思いますが…兄貴相手だと最悪の場合、専属のコックとしてスカウトされかねません。確率的にはめっちゃ低いけど。でも連続的に高評価な料理出してるからなあ。

まあ、手を抜けばそれこそヤバイですが。特に評価☆1とかだとめっちゃ嫌われます（6敗）

なので、手を抜かずかつ最高評価は外しつつ…評価は☆4を目標にしましょうか。

「ん、じゃあアタシ、「サンドイッチ」が食べたいかな！いい？」

あ、いいつすよお（寛容）

ではオーダー通りサンドイッチを。映ってはいませんが先程他キャラからもサンドイッチを注文されたので、オートで作れます。

ですがオリチャーアレンジで満足感を与えましょう。さっきまで油っぽいというか、ガッツリした系の料理しか写してなかったからなあ。偶にはいいよね。

ではまず、野菜を水洗いしましょう。サンドイッチには「レタス」と「トマト」があれば大体ヨシ！（適当）

あとは「食パン」の耳を切り抜くように正方形に切り、更にそれを正三角形になるように切ります。ふつくしい：（自画自賛）

あとは先程のレタスにトマト、「ハム」をスライスして、切ったパンの上に丁寧丁寧に乗せて、あとおま○けに「ゆでたまご」をスライスしたものも乗せる。

そんでその上に、「マヨネーズ」をドバアーつとかけてその上にパンを乗せて挟んだら終わり！

あつ、そうだ（唐突）「ササミ」を挟むのを忘れてました。危ねえ危ねえ。無論加熱調理済みです。

これで調理、完了です…（ネットトリ）

因みに走者はトマト撲滅委員会の会員なんですが、皆さんはどうですかね？ トマトソース？ あれば万能調味料だから残してヨシ！（言い訳）

「ありがとう！美味しくいただくね！」

お粗末！まだ食べてもらってないけど。まあ行列はまだまだあるからええやろ。あと完成度は☆4でした。やったぜ。

クールに去っていくクリフ姉貴を横目に次のオーダーをパパッと片付けて終わりましょうか。

「……エンシア、そのサンドイッチは……」

「えへへへ、あの子が作ってくれたんだ。イエラグ^{あつち}で食べたのと全く同じ！流石アタシの好みをわかってるよね」

妹が上機嫌に戻ってきたかと思えば、見たことのある作りのサンドイッチを皿に乗せていた。

ヤーカーが作るそれとはまた別の、しかしながらごくごくスタンダードな作りのソレは、彼女しか作れないだろうと確信もした。

「……お兄ちゃんも食べる？ 一口ならいいよ」

「いや、遠慮しておこう。それはお前が頼んだのだ、それを食べる権利はお前にある」

よく見る普遍的な見た目でありつつも、何処か懐かしくも感じるパンの厚みに、これでもかと言わんばかりにかけられパンからはみ出たマヨネーズ。

思わず苦笑いしてしまう頭の悪そうな外観にも、なんとも言えない安心感を感じてしまふのはある意味重症かも知れない。

「ん、でもアタシがそうしたいから、じゃダメかな？」

……やれやれ。そんな事をそんな顔満面の笑みで言われてしまえば断れないことを知っているだろうに、困った妹だ。

「…わかった。では一口だけいただきます」

しかし、そのまま食いつくのも妹も不快だろう。故、備え付けられていたフォークと

ナイフを器用に使いサンドイッチの端の方を切って、自分の皿の上に持っていく。

「……じゃ、いただきまーす！」

妹がソレを手を持ち、ザクツ、という音と共にサンドイッチを口に含める。新鮮な野菜を使っているのだろうか。

そう思うのも束の間、ぱちつ、と目を見開く彼女にギョツとしてしまうも、幸せそうに悶える姿に安堵した。

「ん〜っ！美味しいっ！お肉も柔らかいし野菜もシャキシャキで、マヨネーズもそんなにしつこくない！量は多いはずなのに、不思議〜」

そんな事を言いながらも2口目、3口目と次々に食べ進めていき、その度に歓喜の声を上げる。

では、此方も一口。

……ザクツ！シャキシャキ……

先ず感じたのは、みずみずしいまでの葉野菜の新鮮な口当たり。そしてマヨネーズか

ら来る味の暴力。

そして、噛みしめれば先程切るのに多少ばかり苦戦した要因であろうササミ肉。の気持ちはいいまでの歯応え。そして申し訳程度のハムの旨み。

パンのモチモチ感もまた、食材達の味を大きく引き立てつつも調和している。

情報量としては少なめなもの、至高の一品だということはハッキリと感じられた。

「……彼女が我々の元を離れたのは、少し痛手だったかもしれない」

「そうかもだけど、今は一緒にしょ？」

前の方に座る妹がそれをあつという間に完食し、満足げに応える。

「だってさ、今はあの子もアタシ達も、ロドスにいるわけでしょ？なら、また再会できたいと思えばいいよ！」

「…確かに、そうだな」

そうだ。我々は再会出来たのだ。それを素直に喜べばいい。再度引き込むチャンスは幾らでもある。

出来なかつたとしても、我々は家族なのだ。それだけは変わらない。変えさせない。

「……ちそうさまでした」

…さて、エンシアのことも含め、感謝しなければな。

ふう（賢者タイム）取り敢えずラツシユは終わりましたね。長かったっすね。

まあおかげさまで凶鑑がこの時間だけで50種になったので、万々歳ですね。急ガバ回れとはよく言いましたよね（誰上手）

さて、一応オペレーターなので、訓練にでもいきましよう。外での料理も予定に入れているので、最低限の体力はつけないといけませんからね。

ウシニキい、あと昼担当のモブ供（失礼）、自分、用事あるんでエ、後オナシヤス！うん？もう一人お客様が…すいませえん、今閉店したトクオロでして…

「妹が世話になったな、メツジよ」

あつあつあつ………第二のガバの壁………

と言うわけで今回はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその5 『甘口ひとくち 前半』

実質的な国王様から逃れられない！なRTAはーじまーるよー

はい、お嬢様にご飯作ってあげたらお兄様が殴り込んで来ました（誤解を招く表現）

その銀灰ニキの後ろから例のお嬢様が来ました。なんとなく料理の評価を確認……☆6う!?!お前判定ガバガバじゃないか！わざと手エ抜いた（意味深）のに最高評価出してんじゃねーよバーカ！（全ギレ）

もーホント辞めたくりますよーRTA

「ごちそうさまっ、美味しかったよー！」

おう、ありがとナス！喜んでくれるのは嬉しいけど、ガバに繋がるなら別なんだよなあ…

「…お前が我々よりも先にロドスにいたという事は知っていたが、まさか此処でも厨房にいるとはな。フツ、ヤーカも世話になってるらしいな」

「そうだよ（便乗） とういかこつちが世話になる予定だったんだよなあ。ヤーカさんの固有料理、作るのに時間かかりすぎるし材料も多くてダルいから後回しにしてたんですが：これ予定より早くなりそう?？」

「因みに説明忘れてましたが（n番目）、固有料理は作るのを手伝うだけでも作った判定になるらしく、野菜などを切ったり、コンロ等の調理器具の調整をするだけでも良いみたいです。やつぱりガバガバじゃないか！」

「でも盛り付けだとかに拘る料理の場合は、盛り付けるだけでも手伝う判定になります。やつぱり（ry」

「正直、一人でイエラグを離れたお前を心配していたのだ。私も、妹達もな。故、再び我々の元に帰ってきてくれないか?？」

「嫌だよ（即答） だってまだまだやりたい事を沢山やりたいんだよ!というか始まったばかりだし。悪いけど諦めてもらって、どうぞ。」

「え、そんなこと言わないでさ、お兄ちゃんもお姉ちゃんもアンタに会えるの楽しみ

にしてたんだよ？」

「…カランド貿易に来てくれとまでは言わないんだ。ただ我々にとつてお前は大切な家族だと。シルバーアッシュ家の仲間であると。その赦しを得たいのだ」

えつ、まさかなんか鬱展開あるんです？ここで回想はやめてください！お願いします！

…とりあえず急にイベント始まるのは嫌なので、領いときましよう。その方が後々のガバは少ないはず。

あつ、いいつすよお！（寛容） 何があつたか知らんけどとりあえずヨシ！（感染者一般ネコ）

「っ、本当か？有難う」

「そうこなくつちや！アタシ達もまた世話になるから、これからも宜しくね料理長！」

オツスお願いしまーす！

…このやり取りで何となく察したんですが、ホモちゃんもしや銀灰ニキの家系列にいたヤーツ？極寒の地として有名なイエラグで、たった一人で家出とかお前精神状態おか

しいよ…

「……む、列が出来てしまったな。申し訳ない、貴重な時間を蔑ろにってしまった。また今度、ゆつくり話そう」

「またねー！お姉ちゃんにもよろしく伝えておくから！」

おつ、そうだな。またの〜。

よし、取り敢えずはロスは比較的少なめで済みましたね。ガバと鬱展開は心臓に悪いからやめて欲しいゾ…

「……料理長、いえ、メツジ」

あつ、ウシニキ。なあんか大人しかったですけど、どうしたどうしたあ？

「……先程、旦那様も仰っておりますが…我々は貴女を心配していたのです。強制までは致しませんが、今後、そのような事態が起ころぬよう、お気をつけて下さい。友として…約束して下さい」

また足止めか壊れるなあ（チャート）

まあここで首を横に振ってしまおうとそれこそガバに繋がりがねないので、YESとでも言つときましよう。

「……有難う御座います。しつこくはありますが、これからも我々のことを宜しくお願い致します」

オツスお願いしまーす！（ニッコリ）

さて漸く自由時間です。ちよつと長すぎんよう。

これ以上足止めされるとガバるので辞めてくれ…

じゃあ訓練室にイクツ前に差し入れ（意味深）でも作つてつてあげましょう。食料が足りないので購買で補充して、自室まで持つてつて、作つてから向かいましょう。

じゃあお疲れつした〜

「い）はんっー！」

またピネだ！またピネだ！

お前朝とはいえ沢山作って食わせてやったばかりだろ！は〜つつかえ！ふざけんな！（声だけ迫真）

おつ、そうだ。今はウシニキもグムちゃんもいるし、押し付けるか！

ほらほらほらあつちにご飯あるぞ〜、あつち行けば飯食えるから、ほら早くそこ退くんだよあくしろよ。

「ごはん〜！」

「あー!?ケオベちゃん待って！〜ご飯作ってあげるから待って〜！」

すまんこ（気軽な謝罪） 親密度？別に見られてないしええやろ（人間の屑）

じゃあ購買までいって、材料購入して、自室まで行くまでカットじゃ！

はい、自室まで来ました。今回作るのは「レモンのはちみつ漬け」です。ただ完成までは丸々一週間掛かるので、持ってくるのはスポドリだけにしましょう。

あつ、勿論ですがスポドリの制作段階はカットで。

では早速作っていきましよう。といっても作り方自体は簡単。とつても簡単です。

先ずは「レモン」を薄く輪切りにします。こ→こ←で注意点、中に種（意味深）が入つてるのですが、取り除かないと味のポイントがマイナスされます。時間は口スるけどちやんとしないと後々ダルいです。

薄切りとは言いましたが厚さは多少くらいなら厚めでも、ままえやろ。

で、切つたレモンをビンでもタツパーでも良いので入れられるだけ入れましよう。今回はレモンを5個使い、タツパーに詰めていきます。

そしたら、「ハチミツ」を満ち満ちになるまで入れて、常温で丸一日、冷蔵庫で一週間ほど放置して、たまくに上下をひっくり返すなりなんなりして終わり！

…なあんか物足りない…足りなくない？

よし！じゃあもう一品作ってやるぜ！

追加の一品は「クッキー」キミに決めた！

幸いにも材料は足りてます。余分に買った甲斐がありますねえ！

先ず【薄力粉】をふるい、【バター】はレンジで早めに溶かして、【卵】も溶いておきます。こ→こ←レンジの温度が高すぎたり、時間が長すぎるとテロテロになるので気をつけましょう(3敗)

本当は自然に溶けるのを待つのがいいんだけど、これRTAだから…(苦しい言い訳)
チーン(33-4)

溶けましたね。これで形を崩しやすくなりました。
やったぜ。

したら、溶けかけのバターをぐるぐるかき混ぜます。うん、溶けすぎだわコレ()

ままえやろ(適当) その後バターに【砂糖】を入れて更にかき混ぜる。その後にもまた溶いた卵を何回かに分けて入れながら混ぜていく。

こ→こ←で薄力粉をドバーツと入れて、ヘラを使って切るようにぐるんぐるんかき混ぜましょう。ああ、く、たまらねえぜ!

更にこ→こ←で走者流アレンジ!【チョコチップ】も入れて更混ぜ混ぜ。これでヨシ!(確信)

後は適当に整形して、クッキングペーパーの上に並べて、オーブン代わりにレンジを使って焼きましょう。多く作りたいので、分けて焼きましょう。

ウーン、取り敢えずは5回くらいに分かればいいか（適当）

く114. 514分後く

出来ました（確定勝利UC）

最後に焼いたのは試食出来ないの、冷蔵庫で冷やしつつ、最初に焼いたのを一つ頂きましょうk（ry

「いいにおいするっ！」

「…おいケオベ、勝手に入るな」

またピネだ!!あとなんだこのおっさん!?

あつ、「ヴァルカン」姉貴でしたか。

ヴァルカン姉貴が一緒なら今のうちには平和なんですが…はい、ケーちゃんに部屋を覚えられました。

（デ デ ド ン ！）

恐らく、毎朝此処に潜り込まれる可能性があります。

あと可能性自体は低めなのですが、銀灰ニキとかウシニキに早朝に訪問される可能性もあります。

つまり、毎日のようにガバが発生します（絶望）

スウウ……まあ、取り敢えず二人には試食に付き合っていただきましよう。全部は食うなよ???

「わかった！おいらがまんする！」
「…悪いな、私まで頂いてしまつて」

（遠慮する必要なんて）ないです。でも他の人にも振る舞う予定なので、一枚だけでオナシヤス！

後半へ続く……

メニューその6 『甘口ひとくち 後半』

「……お前がそう言うなら、頂こう」

「いただきますっ！」

何故、こうなったのだろうか。

「こつちから、いいにおいする！」

「走るな。転んだらどうする」

私が食事を終えた後、また厨房を荒らしまわつてたケオベを引き取った。厨房が開く前にも潜り込んで、人を待っていたそうだ。

そのケオベの面倒を見ていたのは…料理長、らしい。

私には誰のことか検討も付かなかった。

それらしい人物とさえ、マッターホルンとかいう重装オペレーターだったか。

それか、看板娘であろうグム。その何れかだが。

だが、その二人もケオベには正直お手上げだったらしく、尚更わからなくなった。

そんな問題児を連れて工房に戻ろうとした時、途端に周囲を嗅ぎ回るように鼻を鳴らすと、唐突に駆け出したのだ。

静止をかけながらも歩いていく私も私だろうが、走つてまで追いかけるのはつきり言つて面倒だと思つてしまう。

「…何処まで行くつもりなんだ？何もないだろ」

「おいしそうなにおい！するー！」

声をかけるたびにこれだ。いったい何に惹かれていつてるんだコイツは。

呆れながらも着いていくと、誰かの部屋の扉の前で立ち止まった。まさか盗み食いでもするつもりか？

「(イヤ)ー！いいにおいするー！」

そう言うと、扉に手をかける。自動ドアだったのか、勝手に開いてしまう。

「…おいケオベ、勝手に入るな」

…扉の先からは、確かに香ばしいような、優しいような、そんな香りが鼻をくすぐる。だいぶ歩いたはずだが、どれだけ鼻がいいんだ全く。

部屋の主がいたらしく、ソイツは頭を抱えていた。

…もしや、コイツか？ケオベの面倒を見ていたとかいうヤツは。

朝食の時、厨房の奥の方に見えたヤツに似ている気がする…

…いけない、いつまでも上がってては流石に迷惑だ。ケオベの首根っこを捕まえて、帰ろうとする。

…上がって。クツキーを焼いたんだけど、もしよければ試食、してくれないかな？

「………いいの？」

あつ！他の人たちにも分けるつもりだから、一枚だけ、ね？いい？

「わかった！おいらがまんする！」

……どうやら、『当たり』だったらしい。

「…悪いな。私まで頂いてしまって」

ううん、別にいいよ。さ、召し上がれ。

こうして、今に至る訳だが……

…決断は、食べた後にしよう。ちょうど最近、糖分が足りてなかった所だしな。

………サクツ、カリツカリツ…

口当たりはとても良い。軽く噛んだだけで崩れるように形が解けていく。その後にくるチョコチップの食感も良い。

そして特有の甘みとか風味とか、そう言ったものが口の中で心地よく広がっていく。

「んぐ、んぐ、おかわり！」

「ケオベ、一個だけだと言われただろう」

「おかわりっ！」

「……………はあ」

あはは……まあ良いよ。何個かあげるから、一個ずつ、ゆつくり食べてね？

「ありがとうっ！おやまのおねえちゃん！」

「おやま……？なんの話だ？」

「あつ、そうだ！ヴァルカンおねえちゃん！おいら、きょう、おおきなおやまをたべたんだー！」

「…嗚呼、聞いた」

「それでねっ、そのおやまをつくってくれたのが、おやまのおねえちゃんなんだっ！」

「……そうだったのか。悪いな、コイツが迷惑をかけたみたいで」

そんなことないよ。料理を作ってって喜んでくれるのは、私のシアワセだから。

……………どこか遠い目をしながら、小さなプラスチックの小箱にクッキーを詰めて、ケオベに渡す。

……はい、これで我慢。いい？

「わかった！おいら、がまんできる！」

……嗚呼、今確信した。

コイツなら、ケオベを預けても良い。

コイツなら、任せられる。

「……そうだ。名前、聞いてなかったな」

……私？私はメツジ。ただの料理人だよ。

「……オペレーターではなくてか？」

うん、ただの料理人。オペレーターは私にとって手段の一つだよ。沢山の料理を、沢山の人の人に食べてもらって、沢山、喜んで欲しいんだ。私の夢……笑っちゃうかな？

「……いや、誰も笑わないさ。立派な夢だよそれは」

参ったな。これでは立派な夢を持つ彼女に、大きな負担をかけてしまう。

うん、預けるのはやめよう。ただ、そうだな……

「…なあ、メツジだったか。もし、お前が迷惑でさえなければだか…いや、迷惑なんだろうが、そのだな」

「ケオベはまだ、知恵が発達していなくてな。その世話を、手伝つてくれないか？ 飯を作るだけでも良いんだ。頼めるか？」

……暫くの沈黙。流石に迷惑だったか。撤回しよう。

……良いよ。手伝つてあげる。勉強とか、訓練とか、そういうのは難しいかも知れないけど、ご飯を作るくらいなら、できるから。任せてくれて良いよ。

「……本当か？ ありがとう。これから暫く、宜しく頼む」

「……世話になったな。ありがとう」
「おやまのおねえちゃん！またね！」

……ハアア……（クソデカため息）

ふざけんなっ!!!

でもまあ、仕方ないかあ……あそこ断ったら、多分悪化するよなあ（ガバ）
取り敢えず評価は☆5。やったぜ。

ガバだらけでしたが今回はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその7 『犯罪的な旨さ?』

ガバの原因を二刀流することになったRTAはーじまーるよー

いやほんと…前回の情報量が太過ぎるツピ！銀灰ニキにスカウトされかけるし、ケーちゃんのママになったし（意味深）、ほんまアホくさ。

とは言え、ぶつくさ言ってもタイムロスになるだけです。なんとかしてリガバーしましょう。

…よし、じゃあ予定通りクツキー☆を持って訓練室にお邪魔しましょう。ケーちゃんもまた勝手に入らないように鍵も何重にもかけて、あとダクトとか天井裏とかもクツキー固めましょう。普通に侵入されます（19敗）

クツキー☆の感想は貰ったので、訓練シーンとかは全部カットで。淡々と走り込みする映像なんてつまらんやろ？

テン♪テレン♪テツテツテツ♪テレレン♪

く新宝島ダンスA1素材く

テン♪テレン♪テツテツテツ♪テレレン♪

終わりました（唯我独尊）

いやーみんな可愛いですね（ノンケ） フェンが若干困惑してたのも、クルースとビールが揃ってニッコニコだったのも、ハイビスがゲロマス健康食（バフ効果熱盛り！）を振る舞おうとするのをラヴァが静止（制止）では？とボブは訝しんだ）するのも、いいゾ〜これ。

その後のドベ教においてゴルルア！ってキレられたのも：最高やな！（なお訓練を熱盛り！された模様）

時刻は17：30、早いですが夜ご飯のお時間です。

このまま厨房に向かつて構いませんが、まずは腹ごしらえをば。厨房の方が材料が多く、多くの料理を作れますが、若干ながらも、『空腹』のバッドステータスを抱えてると、料理の成功率というか、完成度がマイナスしてしまいます。

あと流れる的に、厨房行って即「仕込み手伝って♡」って言われて、そのまま夕食ラッシュに突入してしまうので尚更です（9敗）

そう言えばまた説明してませんでした（n回目）

高評価を狙う理由なのですが、料理の評価が☆2以下だと料理として登録されない場

合があるからです。

この料理図鑑、実はくっそ面倒なシステムでして、料理の完成度と味の評価で総合ランクが決まり、それが上の☆2以下だと図鑑に登録してくれないというルールがあります。

なら☆3〜4狙えって？狙い通りに行かないからこうなってんだよ！（566敗）

「やっと見つけたっ！料理長っ！お願い助けて!!」

グムちゃんオツスオツス！助けてって……あっ（察し）

く厨房く

「ごーはーんー!!」

「で、ですが先程食べたばかり……」

「おやまのおねえちゃんのじやなきやいやだ!」

なにしてんだよオオオオオオオオ
!!!!!!

なあに厨房荒らしてんだゴルルア!入室許可証見せる!

「おねえちゃんっ!!」

オオン! (腹部強打) アオン! (転倒)

「ケオベちゃん!?ダメだよ飛びついたりしちゃ!怪我しちゃうでしょ!...料理長大丈夫?
?」

(問題) ないです。

しかし、腹パンならぬ腹ダイブをキメられるとは思わなかったですねえ。物理強度が
欠落だったら即死だったゾ。

「おねえちゃんっ!おいら、おねえちゃんのごはんがたべたい!ごはんごはんく!」

うるせえ!作ってやるから腹の上から降りルオ!あと腕掴まないで!流行らせコラ

！流行らせコラ！

「わかった！おいら、がまんできるっ！」

ホントかあ？（疑心暗鬼）絶対嘘だゾ（偏見）

……とりあえず、自分のメシも合わせて作りましょうか。今回はカレーだとかを含むスープ系を目標にしましょう。

おいウシニキい、すいませえんホモちゃんですけどお、まあだ（仕込み）時間かかりそうですかねえ〜

「は、はいっ……実は完成はしてあるのですが……」

うせやろ？全然匂わないんやが？（意味深）

「……全滅、しました」

ふあっ?!どうしてくれんの?また仕込み直しい?

「ええ、そうなります…俺がいておきながら、もうしわけないです…!」

(別にウシニキの責任じゃ) ないです

とはいえ、困りましたねえ。恐らく、全滅させた犯人がああの野生児な訳ですが…これからの分も考えると、時間が足りないっすね。でも厨房組全員で役割分担しながらやればワンチャンありますねえ!

よし、じゃあそうと決まれば作りましょうか!メニューは出来上がってからの楽しみ!(謎予告)

よし、ウシニキにグムちゃん、作戦会議だ!

あとケーちゃんも席に座って待ってて、どうぞ。暴れんなよ…暴れんな…あつ、そうだ(唐突) ケーちゃん暴れそうになったら、そのクツキー☆食べさせて3人で押さえつけろ!

「……………成る程、わかりましたよ料理長」

「うん!グム達なら出来るよ!頑張ろー!」

RTA 『3人で勝てる訳ねーだろ!』

わし 『馬鹿野郎俺は勝つぞお前!』

制限時間は1時間と30分ちよい、ファイツ!

ゴワアーン! (銅鑼の音)

じゃあ早速、ウシニキは野菜の洗いと仕込み、 Gumちゃんは肉を一口大の大きさに切ってから焼いてもらって、どうぞ。

「了解!!」

出だし数秒なのに流石に手際が良いですねえ! 作業スピードが早すぎるツピ!? 超スピード! (ベタ褒め)

じゃあ、こっちはその他諸々を担当しましょう。お米は……被害なし! ヨシ! なら、もう既に半分くらい切り終わってるウシニキの野菜を炒めておきましょう。数が多すぎい! なので、中華鍋を使います。

あとこのうちに別の鍋を温めておきましょう。選ばれたのは圧力鍋でした。

では鍋を温める工程はスキップして、スライスされた「人参」「玉葱」「マッシュル―

△)を、玉葱がしんなりするまで炒め…

たものが此方になります(3秒クツキング)

「料理長!お肉焼けたよっ!」

ナイスう!(タイミング)バッチエリですねえ!

では炒めた野菜と、グムちゃんの焼いてくれた【牛肉】を圧力鍋に、潜影蛇手!(リスペクト)

はい、ここまで来たらメニューはもうお察しですね。でも説明も面倒いのでこのまま続けます。

「こつちも完了しました!後は…!」

ウシニキい!取り敢えずその野菜ぜんぶ中華鍋にドバっといれて言いですよ!
!あつでも【馬鈴薯】は別だからオナシヤス。

「了解!」

あつ、そうだ（唐突）　グムちゃんや、その圧力鍋に赤ワインと水を入れて強火で沸騰させてクレメンス。

「わかった！アク抜きもだよね？」

そうだよ（便乗）　こつちも焼けたらブッチツパ！（比喻表現）するから、暫くは困りましたねえ…

「じゃあグム、もう一品作るよ！」

「俺も作りましょう。暇なのはいけませんから」

おつ、ありがとナス！

じゃあ此方もブッチツパ！（比喻表現）したらもう幾つか作りましょう。製作済みの料理なので、スキップで。こ→こ←貴重なりカバーポイント。

↳ p. m. 19 : 30

できました。(完全勝利)

はい、作っていたのは「ビーフシチュー」ですね。馬鈴薯と「デミグラスソース」「ケチャップ」を入れていたシーンは編集ミスで飛んでましたけど、完成度はまさかの☆6！やりますねえ！

本来ならもつと煮込んだ方が美味しいのですが、バグ技を使って時間を短縮しました
(直球)

あとおま○けの一品はいつぞやのチャーハンです。

因みにグムちゃんが「シーザーサラダ」、ウシ兄貴が「コーンポタージュ」でした。完成度は安定して☆5。やばない？

じゃあ、自分のメシついでにずーっと待ってたケーちゃんに食べさせてあげましょう。というかホントよく来なかったな。邪魔される覚悟の決めてただけだな…まあええわ(妥協)

あつ、そうだ(唐突) パンも添えて上げましょう(天才的発想)

犯罪的な旨さに震えるがいい（ニチャア）

「ごっはん！ごっはん！」

「焦らなくてもいいだろう。それに先程大量に食べたばかりだろうに……そこまでアイツのを……？」

「んっ！おいら、おやまのおねえちゃんをつくるごはんすき！」

「……メツジだ」

「めっじ？」

「嗚呼、アイツの名前だ。覚えておけ。これからも世話になるんだからな」

「わかった！」

またケオベが厨房を荒らしたそうだ。

慣れてしまったこととはいえ、その度に私に責任が降りかかるから、正直やめてほしいが、恐らく言っても聞かないだろうな。

ただ、何故かアイツの言うことは素直に聞いている。今回も、アイツ目的で厨房に潜り込んだらしいからな。

関わってまだ間もないはずだが、あそこまで懐くのは異質かも知れない。

いや、むしろただ単純に胃袋を掴まされただけかも知れない。それならまあ納得できる。

…アイツに世話の一部を任せたとはいえ、ここまでの騒ぎになるとは思わなかった。

「っ…すんすん…いいにおい！ごはんっ！」

「わかった。わかったからあまり揺らすな」

ケオベのいう通り、厨房から漂ってくる匂いが少し強くなった。もうそろそろだろうか。

「おまたせ〜！ごめんねケオベちゃん、こんなに待たせちゃって！」

Gumとメツジが料理を運んでくる。

成る程、思わずお腹が鳴ってしまいそうな香りの正体はビーフシチューだったか。他にもシーザーサラダ、コーンポタージュと次々にテーブルの上に並べられていく。

ただ、違和感を感じさせざるを得ないものが一つ、最後の最後に置かれる。

…それは山のように多く盛られた、チャーハンと思わしきなんらかの塊のようなものだった。

「おやまつ！おいらいこれ好きっ！」

…成る程、ケオベが今朝食べたというその『おやま』とやらは、コレだった訳か。

朝からこれは流石にどうかとは思うが、ケオベが嬉しそうに話していたものだから、アリではあったのだろう。

…私がどう思うかは別だが。

「…じゃあグム達は行くね！ゆっくり食べてね！」

二人が厨房へと戻っていく。

「…さて、食堂をご利用の方は此方にお並びください!」
「みんなの分も作ってるからね〜!」

そんな声と共に、いつもの喧騒が戻ってくる。

「いただきますっ!!」

「…ああ、いただきます」

置かれた料理の数々の殆どは、ケオベの為に作られているのだろう。でなければ、こんな偏った皿の配置にはならないはずだ。

とはいえ、コレを完食しきるつもりはケオベも相当なのだが。

その代わりか、私の元にはビーフシチューにコーンポタージュ。そしてあの山の代わりにコッペパンが2つ置かれている。

元より少食派なためコレでも多すぎるとは思うが、まあ、八割分くらいは食べれるだろう。

残すのは少し、申し訳ないと思ってしまうけど。

…そんな事を考えつつ、ビーフシチューに手をつける。スプーンでスープをすくい、

口の中へ運んでいく。

「……美味しいな」

「うん！おいらもこれ好き！おいしい！」

ケオベも同意見だったらしい。

口の中でコクの深い味わいというか、病みつきになりそうな風味というか、そんな旨みが暴れまわっている。

味付けはかなり濃いめだ。

具の方も口に放り込んでみる。

…意外にも、甘かった。

野菜がここまで甘いと感じるのは初めてだ。肉もとても柔らかく、食べやすかった。パンと合わせて食べてみると、汁がパンに染みてこれまた美味しい。

後に知ったのだが、スープとパンという合わせ方は決まって犯罪的なまでに美味しい。

犯罪的、という表現がイマイチ理解できなかつたが。

ただ、信じられないほどに美味しいのはわかる。

コーンポタージュもまた優しい味で、飲み込むと同時に息を漏らしてしまう。……気づけば、私もケオベも完食していた。

私自身、比較的多めの量をペロリと平らげたことに驚いたが、逆に、一般的に約3人はくならない数を私と同時に完食したことにもっと驚いた。

……兎に角、非常に美味しかった。感謝してもしきれない程には、良いと思った。

「……ちそうさまでしたっ！」

「……ちそうさま」

……また今度、コレの為だけに工房から出てくるのも有りだな。検討しておこう。

はい、というわけで圧倒的高評価、いただきました。

その評価、食べた全員が☆6でした！やったぜ。

今回のビーフシチューですが、本来なら最低でも煮込みで2時間はかかるはずなんです。料理中に別の料理を作る事で先に作ってた方の料理の放置・待機時間を丸々カット出来るというバグを使ってなんとかしました。何故かアーツを使った判定になるというのが難点ですが。いやーキツイっす。

でも取り敢えず、なんとかなつたのでヨシ！（適当）

というところで今回はここまで！ご視聴ありg

……うん？なんか視界がグニャってますねえ。あともう一つなあんか忘れてる気が……あつ（ガバに気づく音）

（ハチに刺された時の先輩の音声）（バッドステータス：疲労、空腹、ストレス）

（意識が）アークツ（気絶）

ステータス管理には気をつけよう！（12敗目）

メニューその8『自己満足食』

RTA的に痛すぎい！な大幅な足止めをくらうRTAはーじまーるよー

今回は自分の飯でテロされて自滅して終わりましたね（盛大なガバ）

時間は飛んで、病室のベッドからスタートです。時間帯は23:00、深夜ですな。

看病してくれるキャラ次第では即脱走出来ますが…バッドステータスの『目眩』が残ってますね。

これでは脱走しようにも、途中で倒れちゃうかも知れません。そうなると更にガバが重なります。

仮に無かったとしても、パトロールに出てる【アブサント】姉貴や【ヘラグ】爺ちゃんに捕まりドナドナされます。

なので、次の朝を待ちましょう。『急ガバ回れ』、これ某RTA走者の名言ですので覚えときましょうね（無駄情報）

ウーン（就寝）

（時刻10:00）

おつはー！（音割れ）

はい、寝たら（意味深）無事完治しました。やったぜ。

幸いにも今看病を担当してる人はいないみたいですね。因みに深夜に目覚めた時に居たのは意外にもグムちゃんでした。かわいい（ノンケ）

とりあえず、部屋を出て自室へ向かいます。前日の二の舞をするのは…ナオキです（戒め）

あと低確率で『安静にしちくり』みたいな内容の置き手紙があつたりしますが、ガン無視でいいです。イベント発生のフラグになっちゃうからね。（ガバを避けるのは）当たり前だよなあ？（説得力皆無）

何人かのオペレーターとすれ違ってなんか変な目で見られたり話しかけられたりしますが、これも無視。あつても挨拶くらいはしようね！アイサツは大事。古事記にもそう書かれている。

自室に着いたら即料理。少しでも凶鑑を埋めるために、作ってないメニューを作りましょう。

…ケーちゃんの侵入した痕跡ナシ！確認ヨシ！（確信）

また入ってこられるのも厄介なので、ドアだけでも施錠しましょう。前回の二の舞は
(ry

…なんだか今は沢山食べたい気分だ。

はい、というわけで沢山作りましょう。最低3種は有るとバフもいつもより多く乗っ
てくれます。

…よし、じゃあ今回は「春巻」「唐揚げ」「マカロニサラダ」の3つを作る事にしまし
う。料理工程や時間、材料の数が多すぎるので、料理シーンは倍速かけます。

超スピード!?(10倍速)

く時刻12:30く

成し遂げたぜ(某赤ハロ)

はい、完成です。わー美味しそう(ギョルルル)

見事にカロリーが爆盛りされていますが、(ゲーム的には太ら)ないです。(ご都合主義)ではホモちゃん、昨日食えなかつた分食つて良いゾ。おかわりもあるぞ！

……いただきます。

じゃあ自分はカップ麺食べながら待つてますね()

……とりあえず、春巻から食べてみよう。

…ザクツ！パリッパリッ…！

……いい具合に揚がっている。中身もホクホクしてて、食べていて気持ちがいい。

鶏肉や椎茸などの旨みが口の中で溢れ、美味しさのあまり涙が出そうになる。

ご飯も一緒に食べると、尚更美味い。

……続いて、マカロニサラダ。

……もきゅ、もきゅ……

……マヨネーズの味が濃いかと思ったが、案外ゆでたまごの味も感じられて、優しい風味が堪らない。やみつきになりそうだ。

マカロニ本体の食感も中々に楽しい。

……そして今回の主役であろう唐揚げだ。光に反射する衣がもう既に美味しそうだ。

……サクツ、ジュワア……!

肉汁が滲み出てくる……!

味付けは塩だけなのだが、それでも充分以上に美味しい。勿論ご飯ともよく合う。最高の組み合わせだと我ながら思った。

……箸が止まらない。満足感すらも無視して次々に料理の数々を口の中で運んでいく。

……この幸せが、いつまでも続けば良いのと思ってしまう程には、美味しかった。

……ごちそうさまでした。

寝起きから重たすぎるとは思うが、満足だ。自画自賛にはなるが、最高のひと時だった。……また、いつか作ろう。

畜生っ！俺も食べてえなあ〜あんな美味しそうなの〜

というか、食べ物の描画でこんな食欲を誘うのってある？歴代最高レベルには美味しそうだった。

そして案の定、完成度と評価は☆6。そら（あれだけ自画自賛してんだから）そう（高評価）よ。

と言うところで、今回は短めですがここまで！ご視聴ありがとうございます。

メニューその9 『ポトフラーメン』

まるでピクニックだな（白目）なRTAはーじまーるよー

はい、前回の飯テロ直後から再開です。自室から出た後もケーちゃんや銀灰ニキとエンカウントしないよう心がけましょう。前々回のでタイムロス痛すぎィ！だったので、ここからキツチリ巻き返していききたいですね。

とはいえ、今回の目標が、『オペレーターとして作戦に参加すること』なので、（ガバる可能性しか）ないです。

そもそも、今回のみたいな戦闘関連のイベントがガバの塊なので、後々に巻き返すことを前提に動く必要性がありますあります！

元から戦闘するつもりが一切ないから、尚更です。

あと、ドクター兄貴に呼ばれる事も普通にあるので、呼ばれすぎて過労死しないよう気をつけましょう（無敗）

……携帯端末から音が鳴る…招集の合図だ。

ピロピロピロピロwwwゴーウイwwwゴーウイwwwヒカリッヘーwww
というところで早速呼ばれましたね。
距離は……まあまあやな！移動シーンはスキップで。

着きました。入室済みの状態から始まる事もありますが、安定を取る為にドア前から開始です。最悪の場合、招集を無視してもまあ許されるので、ちょっと覗いて駄目なら帰ります（屑の中の屑）

おっ開いてんじやーん！

開けたんだよなあ（セルフツッコミ）

「あつ！メツジおねえちゃんだ〜!!」

「なんだ、お前も呼ばれたのか。先日倒れたとヤーカに聞いたが、もう大丈夫なのか？」

帰ります（即閉じ回れ右）

「…なんだ、入らないのか？」

「あつ！よく見たらウワサの料理長じゃん！もしかして呼ばれたりした〜？」

ふあつ!?! 「テキサス」姉貴に「エクシア」姉貴！しかし回り込まれてしまった!?! (ドラ○工感)

…もしや今回のドクター兄貴、成金勢かゾ？ (適當)
と、とりあえず撤退しなきゃ… (使命感)

「何処へ行く気だ？」

「ピイイイツ!!」

テンジン!!サン!?! 待ってつつつくのやめて! あー痛い痛い痛い! 痛いんだよ! (声だけ迫真)

…:…はい、入室済み状態から開始した方が早かったすね (ガバ) このチキシヨウめがつ! (八つ当たり)

まあこうなつては仕方ないです。こうなれば毒を食らわば皿まで、もといガバを喰らわば再走案件までです。やるとこまでやってまた再走する勢いでやりましょう。

さてさて、作戦を説明してるドクター兄貴を横目に、その作戦内容をこちらで説明しておきます

曰く、今ロドスは龍門の近くにいらっしゃるのですが、その付近でレユニオンと暴徒が暴れているらしく、それを鎮圧してほしいとの事。

また距離は遠くはありますが、レユニオンの別部隊が接近中らしく、泊まり込みでの作戦になるみたいですね。

泊まり込みとなると、食料も必要になる…そこで白羽の矢が立ったのがグムちゃんともツジことホモちゃんだったわけですね。

また、ホモちゃんには囹役も担当してもらうとか。お前精神状態おかしいよ…(確信) 実際、批判も多かったですね。特に銀灰ニキ。元とはいえ家族(?) だったらしいから当たり前だよなあ?

ですが問題ありません。今回のホモちゃん、戦場機動：優秀なので、囲まれさえしなければ基本的に逃げ切れません。

最悪の場合、銀灰ニキ達も近くに待機するらしく、囲まれてもエクシア姉貴がバラージュ！してきますし、捕まってもテンジンⅡサンが拘束を解いて助けてくれますし、負

ける要素が無いんだよなあ！

……ちなみにですが、メンバーはホモちゃん含め、銀灰ニキ、ケーちゃん、テキサスにアップルパイ！（愛称）あとグムちゃんにイフリータ、サイレンスの計8人編成となっています。

高コスト勢連れてくなら自称大將軍ちゃんも連れてけよオルルア！（過激派）あとクーリエ君どこ……ここ……？（お世話になつてる勢）

そういえばですが、各メンバーの昇進状況は……

シルバーアツシユ：昇進2・レベル30

ケオベ：昇進2・レベル30

テキサス：昇進1・レベル60

エクシア：昇進2・レベル30

グム：昇進1・レベル60

イフリータ：昇進1・レベル70

サイレンス：昇進1・レベル50

となっています。なんだこれはたまげたなあ（驚愕）

ホモちゃん？そりゃあ……

昇進なしのレベル1に決まってるんだよなあ（絶望）

そう考えるとホモちゃんいらぬい……いらぬくない？

クソザコ状態のホモちゃんの初陣が囮役とかヤベエよヤベエよ……（強調）

ままえやろ（適当）

とりあえず（飯テロ）作戦イクゾー！

デーデーデーデッ！ カーン（33―4）デーデーデッ！

『mission accomplished!』

初日の作戦完了したところまでカットしました○

ただ見てるだけだったので、（見所さんなんてあるわけ）ないです。

因みに時刻は19：30ですね。

…なんかあ、お腹空きませんか？

お腹空いたな〜（自問自答）

じゃけん料理作ってあげましょうね〜

というわけで料理フェイズです。

今回は【ポトフ】を作ります。育ち盛りなケーちゃんといフリータちゃんがいるので、【ラーメン】入りのをつくります。創作料理【ポトフラーメン】としても登録されるので、一度で二度おいしい！（意味深）

事前に持参しておいた【水】を二つの鍋にドバツツと入れて、片方は麺を茹でる用、もう片方はポトフ作る用です。因みにグムちゃんは、朝の方を担当してくれるらしいですね。手伝いは出来るので、遠慮なく恩を押し付けましょう（人間の屑）

ポトフ自体は簡単なので、ササーツ（迫真）つと作ります。

鍋に【コンソメ】とあらかじめ処理しておいた馬鈴薯やキャベツ、玉葱をブツブツパ！（比喻表現）して暫く煮込みます。目安は15分ですが、RTAなので8分で妥協します（料理人にあるまじき発想）

煮込み終わったら、【ウインナー】（意味深）と【ブロッコリー】を入れてかる〜く煮込む。

隠し味程度に【生姜】を入れるのもヨシ！（好み有り）

あつそうだ（唐突）

麵のアク抜き…アク抜き？も忘れずにやりましょう。やらないとアクみたいなのが
麵にくっついて、ヴオエツ！つてなります（リアル3敗）

あとは盛り付けて終わり！完成度は星4、普通やな！

「へえ、ポトフにラーメン入れるんだ？雑だけどちよつと美味しそうかも？」

「オレサマ野菜キライなんだ…食わなきやダメか？」

「たべていい？たべていい??おいら、もうまちきれないよ」

「また料理長の作った料理を食べれるなんて、グム感動だよ」

…絶対美味しいよ。さ、召し上がれ。

「「「いただきます!!!」」」

「……我々もいただくでしょう」

「ええ、そうね。いただきます」

「エクシアの言うウワサとやら……食べて確かめるとしよう」

……………

「……わあ！これ美味しいね！あっさりしてるのに濃厚というか……スープが麺に絡まつてるからかな？」

「なんだこれ!?なんだこれウメーぞサイレンス!!野菜が全然苦くねエ!!これならオレサマでも食べちまうぞ!!」

「(く)(く)(く)(く)……ぷはっ!このおみず、おいしい!ちゆるちゆるもすきーおいしい!!」

「「おかわりっつ!!」」

「気温が低いせいか、身体も暖かくなるな……いや、これは生姜か?」

「イフリータ、野菜なんていつも嫌がつて食べないのに……ん?これ、甘い……?砂糖でも

使ってるの…？違う？素材本来の…？そんなまさか…」

「見た感じ量は少なめだったが、もう腹が膨れた感じがする…もしや、わざと麵を延ばさせたのか？でもあのモチモチ感は…どう言う事だ？」

「優しい味がする…ねえ料理長、今度これのレシピ教えてもらってもいいかな？」

……満足してくれたみたいだ。

「「「」ちそうさまでしたっ!!!」」」

「また世話になったなメツジよ。この借りは明日返す。期待してくれていい」

「……ねえ、私にもこれのレシピ、教えてくれない？イフリータがあんなに嬉しそうに食べるの、久々だったから…頼まれてくれないかしら？」

「………美味かったよ。疑って済まなかった。…なんのことか？いやなんでもない、なんでもないんだ。美味しい飯をありがとう。ご馳走様」

お粗末！ということと総合評価は☆5！お前らちよろすぎイ！

因みにドクター兄貴もついてきてましたし食ってました。元から喋らないせいか、評価は拾えませんでした。なんで？（疑問）

ままええわ（妥協）

というところで今回はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその10 『祝杯』

レユニオオン！兄貴達にタコ殴りにされたり、仕返したりするRTAはーじまーるよー

と言うわけで前回の翌日からスタートです。ちな朝食の方は Gumちゃん作サンドイッチでした。うん！おいしい！（バフ大盛り）

前日の戦闘はその辺のゴロツキが相手だったので、今日の方が本命だったりします。

注意点としては、まあ純粋に幹部クラスの人に遭遇しない事ですかね（21敗） メガトンエンカ仕事しすぎなんよお（絶望）

マドロックさんならワンチャンありますあります。比較的穏便な人だし（ここ重要）

因みにですが、レユニオン兄貴達は基本的に資材が不足してます。なので潤沢な資材を持つているヤツを見かけたら、奪いに来る可能性が高いです。非感染者なら殺された上で奪われます。

それを利用して、ホモちゃん流行らせコラ！されてる内に一気に叩くとかいうヤリ方です。ドクター君お前さあ…（失望）

まあ今更悔やんでも遅いので、やるだけやりましょう。（ガバ以外）もう何も怖くない

！（フラグ）

とりあえず、熱したフライパンに【リード】を押し付け、肉を焼くフリをしましょう。音で釣るのが一番早いからね仕方ないね。

ジュウ〜…

わーおいしそー（棒）

可能ならここで【焼き肉】のメニューを解放したい所さんなのですが、それだと焼いてる途中で奇襲されてホモコロリされちゃいます。だから音だけで誘う必要があったんですねえ。

因みに場所はなあんかだだっ広い廃墟です。廃墟でメシを作るホモが一人、何も起きない筈もなく…（適当）

…：足音が聞こえる…複数人いるみたいだ。

というわけで来ました。すぐ逃げられるようn

「動くな」

「ファツ!? 潜入者サン!? いつのまにか来てましたねえ! というか捕まるの早すぎイ!
喉元にナイフを突きつけられて、身動きが取れませんね…: 暴れんなよ…: 暴れんな…:

「こんなところでお料理なんて、随分と余裕なんだな? 非感染者風情が、私たちの苦痛も知らないで…」

「世間を知らないお嬢様か何かか? 持つてるモン全部剥いでから殺すぞ」

「いや待て、このロゴ…: ロドスの連中のだ」

「オペレーターか? なら人質に使えそうだな」

「駄目だ。ロドスに中継を繋げろ。目の前で殺して、見せしめにしてやろう。何ならその前にキズモノにしてもいい」

ふええ…: こわいよお (幼児退行)

ただ、すぐに殺さないのが命取りでしたねえ! ここいらで合図を…: かけなくても来そうですね (急に上がる気温)

「…なんだ？急に暑くなったな」

「コイツのアーツか？なら今すぐ…」

「そこに並びやがれエ!!」

アツウイ！イフリータちゃんいきなりすぎイ！でもおかげで拘束が解けました。今のうちに脱出じやい！犬のように駆け巡るんだ！

しかし、直線一マス上でしか発動しないイフリータのバーナーが、RPGになると振り回したり範囲が見た目より広くなるんすねえ。しかも昇進2じゃなくて助かったゾ…（スキル3の灼獄の凶悪的性能）

「コイツらいつの間に…!!」

「逃がすな！あのヴァルポだけでも殺せ!!」

「させると思ったか？」

「ピイイッ!!」

出た！銀灰さんのマジックコンボ（？）だ！

見事に一網打尽ですね。まさか真銀斬とテンジンさんが別々に判定が有ると思わなかつたですね…

よし！とりあえずイフリータちゃんの後ろまで来れました！生きてる…

「昨日のメシの分だ！勘違いすんなよっ！オレサマは借りを作るのがキライなだけだからな！！」

あら～、天然のツンデレ良いゾ～これ。

次々に迫ってくるレユニオン兄貴達を火ダルマにしていますね。汚物は消毒さらるべき運命…（滑舌最悪）

「料理長の事はグム達を守るからね！」

「だから背中には預けちゃうから、頼んだよ！」

「えものめ！うごくなく！！」

みんな頼もしすぎて、涙がで、出ますよ…

そして気付けば敵は全滅。みなさんやりますねえ！

…当たり前なんだよなあ？（終始介護された人の図）

そしてロドスに帰ってこれたくはっはっは生きてる！

イフリータちゃんからの汚物は消毒ビーム（謎命名）でアツウイ！しましたが火傷も怪我もなく、安全第一！ヨシ！（猫）でした。

サイレンスさんに念入りに検査（意味深）されましたが、ままえやろ（適当）

無事作戦を終えれたし祝杯だ！という事でお料理タイムです。

バッドステータスの『疲労』が残ってますが、今回は Gumちゃんも同じですし、二人共々、厨房組の皆さんにお世話になりながら作るとしましょう。

今回は『ピザ』を作るとしましょう。本来なら【ミッドナイト】兄貴の回で作ろうか

など思っていました。予定変更していきます。理由？気分だよ悪いか（○）

ピザ生地は厨房組の方々にお任せして、まずは素材の仕込みをやりましょうか。

今回は【馬鈴薯】【玉葱】【コーン】【ツナ缶】【ベーコン】をピザ生地のにせましょうか。あつ、缶は乗せないよ？（当たり前前）

仕込んだら【ピザソース】を作ります。これも何気に図鑑に載ります。

【トマトソース】又は【ケチャップ】に【マヨネーズ】（にんにく）【醤油】を指定量入れ、あとの【マジックソルト】【乾燥バジル】【黒胡椒】を適量入れて、普通に混ぜ混ぜして終わり！

今回はトマトソースの方を採用しましたが、ケチャップの方が楽なので、そっちの方がオヌヌメだったりします。

∴ピザ生地を作り終わってくれたみたいですね。あとはそれっぽく伸ばして、形を作つて、生地がベタつくので、【オリーブオイル】を薄く塗つて、その上にピザソースに各素材をドバァッと乗つけて、オーブンで焼いたら完成！温度？時間？そんなんテキトウでいいんじゃない！最近のは基本的に勝手に調整してくれるからヨシ！（料理人の屑）

おっと、チーズを忘れちゃあいけねエ（ジヨジヨ風）

ま、まあチーズをかけるのが素材の先でも後でも大体は同じやろ（震え声）

…ええい！とりあえず焼く！これでいいんじやい！

「では！作戦の成功と、料理長…改め、医療オペレーターメツジの初陣の成功を祝って
！」

「「「「「「「「かんばーい!!!」」」」」」」」

…（人数）多くなあい？

エクシア姉貴がパーティっぱいのが好きなのはいいけど、作戦に参加したオペレーター以外の人が沢山いるんですがそれは…ロドスの資金壊れちゃ〜う

「…エクシア、何もこんな人数でやらなくても…」

「いいのいいの！これくらい賑やかなのが丁度いいって！ね、メツジ！」

お、おう。せやな！（現実逃避）

疲労回復の為に、とりあえず食べましょう。

……切り分けた直後なのにも関わらず、チーズが糸を引いている……！

これは絶対に美味しい（確信）

……遠慮なくピザにかぶりつく……！

……カリッ、ホクホク……！

溢れんばかりのチーズの芳醇な香りの中に、ツナとベーコンのジューシー感溢れる旨み、ホクホクに焼けたジャガイモの甘みに似た味わいが見事にマッチして、頬っぺたが落ちそうになる……！

所々に散りばめられたコーンもいい食感を醸し出していて、ピザ生地のもちもちした食感と実に絡み合っている……！

あゝ、堪りませんわ！やっぱり…仕事終わりに…最高やな！

「ウメエ！ウメエよこれ！なあ！もつと無いのか？オレサマまだまだ食べてエよ!!」

「おいらもたべたい！メツジのおねえちゃん！つくってつくって〜!」

「御安心を。今ちようど追加の分が焼けましたので、沢山と食べになつて下さい、お二人とも」

「よっしゃー！サンキューなウシのおっさん！」

「あつあつだ〜！おいしそ〜!」

ウシニキナイスウ！助かったゾ〜

「いえいえとんでもない。今日は貴女が主役ですから、ごゆっくりご堪能ください」

ウシニキも遠慮なく食べてもろて、どうぞ。

「ハハハ、俺はいいですよ。ただ、どうしてもというなら、後ほど頂きます」

本当かあ？ままえやろ（適当）

この感じだと、ちよつとした会話イベントがちよくちよくあるはずなので、全部スキップじゃない！暫くしたら勝手に終わるはずですので。

…終わりましたね。

後片付けもウシニキ達がやってくれるそうなので、遠慮なく甘えて寝ちやいましてよ。

キリもいいのでこの辺で終わり！閉廷！ご視聴ありがとうございました。

メニューその11 『バイクドチーズケーキ』

今日も今日とて優勝していく（意味不）RTAはーじまーるよー

今回はピザパして終わってましたが、今回はその数日後から開始です。

なんでって？見所さんもガバもなかったから（KONAMI）

ポトフの回以降、サイレンス姉貴が来そうかなくとは思ってたんですが一向に来ず、ケーちゃんもなんかすつげー大人しいし、銀灰兄貴は相変わらずだし、順調すぎて逆に不安なレベルですよ。何やってんだアイツら…（心配）

ちなゲーム内での経過日数は6日目となります。最初の数日間の内容濃すぎイ！つてなったのは多分気のせいじゃないと思うongo。

さてさて、改めて自室を出るからスタートですね。時刻は12:00と開始時間ちよつと遅かったんちゃう？

いつも通り厨房のお手伝いをして、ちよちよいと買い物して、料理イベもこなしつつ進めるのが理想なんです…イレギュラーもといガバ要員が多いねん…

珍料理、大発見！（即食ベ）のケーちゃんに、（身内に）しまつちやおじさん銀灰ニキ

に、通い妻さんサイレンス姉貴です。ね今のところ…特にケーちゃん。

…：ドアをノックする音が聞こえる。客人だろうか

おつ、これは珍しいつすね。キャラとの好感度が高いと稀に起こる『訪問イベント』です。ね。今RTAだと、好感度良し悪し関係なく「ジュナー」姉貴が来ることもあります。あります（おかしネット）

上のガバ三人衆だったらまあ…うん、ままえやろ（苦渋の決断）

待たせるのもアレなので、今行くど、

おつ開いてんじやーん！（開けた人）

「こんちわー！いきなりですみません！ここつてメツジさんのお部屋でよかったですかね？」

メイリイもとい「カーデイ」ちゃんオツスオツス！

後ろにちゃっかり剣聖「メランサ」ちゃんもいますね。人見知りかわいい（ノンケ）しかしチャート外です。ねえ…仕込みで忙しいんじやい！ので出直してきて、どうぞ。

(大嘘)

「そっかく…あつ、でもジュナーさんから伝言を頼まれてました！えっと、『貴女の料理の腕を見込んで、おいしいお菓子を作って欲しい』とのことです！以上ですっ！」

「あ…あのっ！その…ま、待ってます、から…！」

か“わ”い”い”な”あ”メランサちゃん（ネットリ）

というわけで、予想してた形とは異なりましたが、料理イベント『おやつネット』です
すね。

基本はジュナー姉貴から直接依頼が来るはずなんですが、なんらかの事情があったんでしようね。発情期かな？（めっちゃ失礼）

とりあえず依頼には頷いておきましょうか。

かしこまり！ぜってー美味しいモン作ってやるから見とけよ見とけよ

「やったー！よかったねメランサちゃん！」

「う、うん…！」

「それじゃあ失礼しましたー！」

じゃあの〜（ニッコニコ）

というわけで作っていくわけですが、材料の確保から始めましょうか。

ちなみに厨房で作ると、ケーちゃんに捕捉され一瞬で全滅します（2敗）

今回作る料理は、「チーズケーキ」の予定です。購買部で材料を揃えるまでいくゾ〜
（カット）

揃いましたので作りましょう。

まあ作り方は簡単なのでダイジェストです。

クリームチーズとバターを室温に戻して溶かしておきます。その間は暇なので、ビスケットを袋に入れて…

PON☆ CLASH☆CLASH☆ PAPPAPPA☆
 グルメスパイザー！（プラごみ）しておきましょう。

十分にCLASH☆できたら、バターを入れて全体が馴染むまで揉み込む。

馴染んだら型の底にラップを使って敷き詰め、底生地にしちやいましょう。

んで、今度はクリームチーズをボウルに入れ、クリーム状になるまで混ぜ込む。

そうしたら佐藤（誰だよbyピネ）と卵を入れて、さらに混ぜ込み：融合！（amk
 dr兄貴）

んで、生クリームを少しずつ入れながら混ぜ、薄力粉もサーツ！（迫真）とふるい
 入れ、ゴムベラで切るように更に融合！して終わり！

おっ待てい（極東弁）

レモン汁忘れんなよなオルアン！ドバーツと入れて融合！

：よし！ここまでできたら後は型に流し込んで、指定温度で40分ほど焼けば完成です
 ねえ！

さてここでオトクな豆知識！焼く前に数センチくらい上から軽く何回か落として
 空気抜きすれば形が綺麗になるゾ！（ネット情報丸パクリ）

チーン(33—4)

というわけで焼き上がりましたね。わー美味しそー

後はこれを冷蔵庫で冷やせば終わり!

時間はかかりますがいいゾ〜これ

あとジュナー姉貴の求めてた『おやつ』とは違うかもしれませんが、隠しメニューとか絶対食べたい…食べたくない?

じゃあバツチエ冷えたら納品しにイクゾー!

あゝ、というわけでジュナー姉貴の部屋の前まで来ました。どうも〜三〇屋です
(大嘘)

「はいはい。急にごめんなさいねこんなこと頼んで」

ホントだゾ〜大変だったんだからな〜？

ままええわ（寛大） というわけで約束のブツですぞ姉御（ゲヘヘ）

「言い方がアブナイからやめなさいソレ。とにかくありがとうね！今度ご飯奢ってあげるわね」

やったぜ。丁度金欠だったんで助かりナス！（嘘）

感想聞けないのがちよつと残念ですが、完成度は☆5だったので高評価は間違いないやろ。勝ったなガハハメシ食ってくる！

と言うところで今回はここまで！短いけどね。ご視聴ありがとうございました。

箸休め 『おやつネットワーク』

……オペレーター・メツジ

医療オペレーターとして活躍しており、医療のアイツを料理に組み込むというなかなか斬新な方法を用いて支援を行なっている。

ただ厨房での活動が非常に多く、どちらかで言えば『シェフ』だとか『コック』だとか、そのあたりの立ち位置にいる。

彼女が来たのは確か、3ヶ月くらい前だったか。

ドクター曰く「旅の途中で手元にある食料が尽きてしまったので、雇ってくれませんか」と言われ、厨房スタッフとして雇用したのが始まりだったとか。

そしてオペレーターとして厨房に立ち始めたのが、だいたい1週間だったはず。

その料理は私は勿論グムちゃんにマッターホルン、更にはあのカタブツで厳しい当時の料理長すらも唸り、笑顔を見せる程だった。

彼女が「料理長」の二つ名で呼ばれるようになったのは、そこからだった。

：厳密にはまだ例のカタブツの料理長が未だに正式な料理長の座に付いているのだが。

あのおじいさんが最近よく笑うようになったのは多分、私の気のせいだと思う。思いたい。

閑話休題。

ともかく、料理長ことメツジが凄腕の料理人であることは間違いないわけであり、私を含めた料理人が尊敬して止まない人というわけだ。

つまり、何が言いたいかというのだ：

「おやつネットワークに、あの子の作ったお菓子を取り入れられないかしら？」

まあ、そういうことだ。

「えっと、ソレ、私たちじゃないとダメですか？まあ嫌とは言わないですけど」
「ごめんなさいね。私これから外せない用事があるのよ。それに、あの子が休暇を貰ってる今しかチャンスがないの。お願い！この通りだから！」

「あつ、あ…だ、大丈夫、ですから…！その…頭を…あ、上げて…！」

それも、自分よりも若い子たちに頭を下げる必要性がある程には外せないのだ。目的おやつの為なら、手段は選べない。プライドだつて投げ捨ててやる。

「…みつともないとは私も思うわよ。でも貴女達も想像してみて？あの子の作る絶品料理…それが自分達だけが独占できる、そんな優越感を」

「…………くり」

「…………じゃあ、お願いできるかしら？」

…………こうして、現在に至るわけだ。

本当に、我ながらみつともないし、大人気なかった。

多分、暫くすれば恥モノの笑い話の一つとして酒の席に持っていけるかもしれない程だとは思ふ。

…まあそれはそれとして、今日の前にある『お宝』をどうにかしよう。

切り分け…は、無難に8等分にしよう。私が食べる分と、協力してくれた二人の分…

あとの5つは早い者勝ちと言うことにしておこう。

とりあえず、来客用のテーブルに椅子、そしてこの『お宝』に合いそうな紅茶を適当に手に取る。

後は二人を待つのみ……

コンコンコン

「…噂をすれば、かしらね」

コン、コンコン、コン

あの子達にはいつものとは違う合図を教える。後は…

「おみやげ3つ！タコ3つ！」

ピンゴ。

「待ってたわよ。さ、入って入って」

「いやー、お茶までいただいちゃって、申し訳ないです〜!」

「このケーキ…本来なら他の方達に配る予定だったんですよね? それなのにありがとうございます、ジュナーさん」

「ありがとうございますこっちのセリフよ。二人とも、無茶言っちゃったけど本当にありがとうございます。これは報酬。遠慮なく頂いちゃって」

「はい! いただきます!」

「…いただきます」

さて、私も『お宝』を堪能するとしよう。

…切り分けた際にも見たが、やはり焼き目が非常に綺麗だ。

特にチーズケーキだと膨れすぎて表面が割れたり、逆に焼き色がついてなくて中身が柔らかすぎる場合が多い。

切り分け時はナイフ、今はフォークだが、それでも柔らかすぎて中身がネッチャリし

てない。むしろフワッフワで、思わず口の中に溜まった唾液を音を立てて飲み込んでしまう。

正直、見ているだけでも美味しく楽しめてしまうのだが、そろそろ本命といこう。フォークで切り取ったケーキを、口に放り込む。

歓喜の声をあげたのは、3人同時だった。

「ん〜っ！あま〜い！それにフワッフワのモチモチだ〜！」

「底の方の生地も、サクサクで…美味しいです…！」

チーズの風味がよく効いてとても甘い。とは言っても味は濃すぎず、優しい甘さだと感じた。

底生地の方は…ビスケットを使っているのだろうか？サクサクした食感がとても楽しい。

紅茶も一口啜る…：ほんの少し辛いですが、これがまたケーキの甘さとよく合う。非常に堪らない。

箸が止まらないとは、正しくこのことだろうか。まあ持っているのはフォークなのだ

が。

「ごちそうさまでした〜!!」

「ご、ごちそうさまでした…!」

「お粗末様。と言つても作つたのはあの子^{メツジ}なのだけれどね」

そして気付けば一瞬で完食してしまっていた。これほどなら、また頼みに行くのもやぶさかではない。

「さ、もう遅いから早く寝なさいね。明日も訓練でしょ?」

「あつ! そうだった! メランサちゃん、行こう!」

「ま、待つて…! あ、あのつ、ありがとうごさいましたっ…!」

「此方こそよ。じゃ、おやすみなさい」

例のお宝は皿に分けたし、容器を返しに行こう。

ついでに、次のお菓子も依頼出来れば上々だろうか。

そうして、彼女の部屋に着き、ノックしようと扉に近づく。

自動で開く設定にしてたのか、扉が勝手に開く。

勝手に入るつもりはなかったが、開いてしまったものは仕方ないとして…

その光景は、私の目を釘付けにするには十分すぎるものだった。

…丸い目をして此方を振り向く。

蓋をされたフライパンから聞こえる『パンツ！パンツ！』という音をBGMに…

ポッポコーンを嗜んでいた。

「あく…その、ごめんなさいね？勝手に開いたものだから…その、容器をね？返しに来ただけなのよ」

「それで、なんだけど…ね？ついになつて申し訳ないのだけど…」

「…ソレも、明日あたりにでも作つて貰えないかしら？それも大量に」

あー！あー！いけませんお客様！そのようなことは！あーお辞め下さい！あー！あ
”――”

…え、はい。またガバですね。また増えましたよこのチクシヨウめがつ！（迫真）
と言うわけで、例のガバ三人衆が四天王にランクアップしました。お姉さん達許して
！チャートこわるるる！RTA壊れちゃ〜う！

暇だったからって追加で「ポップコーン」作ってたのがダメだったとは…というか部
屋の鍵をかけ忘れるとか言うガバ…これは痛い。痛すぎますね。

おやつネット、恐るべし…！

ま、まあとりあえずは受けちゃいましょう。

かしこまり！ほらほら任せとけよオルアン！（白目）

「いやホントにごめんなさいね。じゃあ容器は置いとくから…また、お願いするわね？」

お、おう！任せとけって！

…いや待て？逆に考えよう…本来意図しないイベントだけど、料理の機会が増えるという事…つまりこれはガバじゃないゾ！むしろ爆アドでは？

と言うわけでオリチャージャー発動！このガバをタイム短縮に繋げてしましましょう。未来を見据えるのって大事だなって（悟り）

と言うわけで今度こそ終わり！閉廷！

ご視聴ありがとうございました。

メニューその12 『名探偵のお気に入りなのだ!』

ガバったと思ったら爆アド取れて「俺、また何かしちやいました?」ムーブしたいRTAはっじまーるよー! (ソラ姉貴)

はい、前回のガバ枠だったはずのジユナー姉貴のイベントが、今RTAのMVPになるかもしれないところで終わってましたね。

b i i m一族の名言『急ガバ回れ』を身をもって体感していきましよう。

前回の翌日からスタートというわけで、「ポップコーン」は大量生産済みですので、ジユナー姉貴の部屋にデリバリーした後に食堂の方にお邪魔していきましよう。

因みに現在時刻は06:30。普通だな! (感覚麻痺)

カットしました（無慈悲）

だってジユナー姉貴も厨房組ですし？いないのは当然なわけで？まあつまり、勝手に侵入して逆泥棒（パワーワード感）しました。

デリバリーバッグを失ったのはちよつと痛いですが、まあえやろ。さて到着した途端に視線が集まってますが…

「料理長…もしかしたら今日から、すつごく忙しくなるけど大丈夫？」

グムちゃんオツス！（ウタゲ姉貴感）

（料理作れるなら別に問題）ないです。むしろオラわくわくすつぞ！

でもどうして急に忙しくなるゾ？

「あの人達、みんな料理長待ちだったんだよ」

うせやろ？あつでもよく見たらケーちゃんとか律儀に待ってるし、イーサン兄貴すらも透明感せずに並ぶってどういふことなの…？

「…とにかく！今日からいつもよりがんばろうね！」

ん、おかのした。また空腹でホモコロリしないように気をつけましょう。二の舞するのは流石に再走案件ですからね。

というわけでまたまたカットで。メニュー解放しまくって（凶鑑登録）荒稼ぎしてやるよオルアン！

く 1 1 4 5 1 4 1 9 1 9 秒後く

ぬわああん疲れたもおおん！ホモちゃん目的のヤツ多すぎイ！（意味深）

でもおかげさまで凶鑑は100種超えてくれたからままええわ、妥協したる（寛大）

ついでにグムちゃんに昼飯作ってもらえたし、パフもそこそこ多く貰えたしで、うん、

美味しい！（満足感）

「ようやく見つけたのだ、リヨウリチョー!」

【メイ】探偵(だれうま)ちゃんじゃないっすかオツスオツス! 飯は美味かったか〜?

「すつごくおいしかったのだ…♪じゃなくてっ!!」

メシの顔いいぞ〜これ(愉悦)

ところで、何の用ゾ?

「…コホン、リヨウリチョー! お前には、イホーヤクブツの取り扱いの容疑があるのだ! 大人しくお縄につくのだ〜!」

ええ…(困惑) ナニをどうしたらそんなケツ論に至るんですかねえ? 普通に飯テロしてただけなんですがそれは…(爆弾発言)

「それが問題なのだ! 普通に料理するだけで、あれだけの人たちを魅了できるわけがな

いのだ！思わず夢中になるほどの美味しきなんて、怪しきマントンに決まってるのだ！」

そんなに怒らなくてもいいだろルオ？顔赤くなってるんぜ？（挑発）

「う、うるさいうるさ〜い！とにかく！取り調べるからこつち来るのだ〜！」

（いか）ないです。大した推理もなくホイホイついてけるわけねえよなあ？あちよつと待って意外と力強い!?流行らせコラ！流行らせコラ！（レバガチャ）

あつそういえばですが、ゲームのシステムとして、拘束された時にレバガチャする事で抵抗できるんですが、キャラのステータスやパラメータ次第でレバガチャの難易度が大きく変わります。因みに筋力ステータス皆無で拘束されたら勝てるわけないだろ！つてなるので、その場合は諦めましょう（無慈悲）

とうか本当に力強いっすね。いつも通りなら誰かが混じつてきて、メイ探偵ちゃんに事情を説明（意味深）してくれて「勘違いだったのだ！」で終わるんですが…すいませえん木下ですけどお…（脱出できるまで）まだ時間かかりそうですかねえ？（ガチャガチャガチャガチャ）

ぐううく……

「…お、おなかが空いたのだく……」

シャオアラア! (脱出) なんとか抜け出せましたね。というかメイ探偵ちゃんご飯食べてたんじゃないん?

「じ、実は……お前を探すのに夢中で、まだ何も食べてないのだ…」

ええ… (困惑) 犯人探しもナニゴト (意味深) も腹を満たしてからってそれ一番言われてるから (嘘)

「そつ、そうだったのだ!?! 知らなかったのだ…!」

えつなにこの子チヨロすぎん? 言ったことをそのまま信じてとか、どつかのタイミン
グで詐欺られそうでおじさん心配になっちゃう (不審者感)

…可愛そうで可愛いけど（ノンケ）、とりあえずなんか作ってやりますか。例のヤクブツだのなんだのが気になるなら調理工程見てもらっていいですよ！（飯テロの準備）

「う……そ、そういうことなら世話になるのだ」

はい、じゃあ作っていきましよう。探偵モノの食べ物といえば【カツ丼】のイメージ強い…強くない？（偏見） てわけで【カツ丼】にしまーす。

えー、ただいま厨房にいるわけでごぎいますけれども、メイ探偵ちゃんめつつつちゃ凝視してくるの。調理工程じゃなくて顔を。（観察対象が）違うだろお？

「怪しい行動をするとき、人は顔がヘンになるって教わったのだ！それを見極めるのに
お前の顔を見ているのだ！」

いったい誰に教わったんですかねえ？顔の変化を察する前に不審な動きを察して、どうぞ。

「ぐぬぬ……！それも一理あるのだ……！でもこつちを見てるとお腹が……うう、まだできないのだ……？」

(飯テロに苦しんでる姿が) ああ、くたまらねえぜ！(畜生の中の畜生)

因みに今の工程は、カツを揚げてる段階です。もうちよい(大嘘)だから暴れるなよ……暴れるな……

よし、揚がったのでカツの油を軽くキッチンペーパーで拭き取り、一定の幅で切る。

先に煮込んでおいた玉葱だとか入った汁(適当)に、今切ったカツをぶち込んでやるぜ！

後は軽く解いた卵をドバーツとぶち込んで、蓋をして、卵が固まるくらいまで煮込む。大体1……2分くらいですかね(適当)

だいたい固まった！ヨシ！(ねこです)ってなったらどんぶりにご飯をよそって、その上に煮込んでたヤツを乗っければ終わり！完成！以上！全員解散！

つい、夢中になって見ていたのだ。

なんというか、ジワジワと嬲られて生殺しされてるような、欲しいものが届きそうで届かないような、もどかしい気分だった。

本来なら一挙一動に注意を払い、じっくり観察すべきであるべきなのに、それが出来ていなかった。

それに、感情に任せてありもしないような事ばかり口走っていた気がする。

今思えば、彼女の件も唯のこじつけだった。

いまだ私は探偵として未熟すぎるのだ。それを改めて噛み締める。もっと精進せねばと。

そうして席につくと同時に目の前に料理が運ばれてくる。私を未熟たらしめる、ある意味での凶器が。

私自身限界だったのか、いただきますの言葉もなくいきなり食らいついてしまった。これが後々にとんでもない羞恥と認識するのはまた別。

…一口目から情報量が溢れんばかりに湧き出てくる。

先ずはカツのザクザクとした食感。揚げたてでもあるためか非常に熱くて思わず声に出てしまう。それでも至高の味を堪能することは辞められず、口を動かし続ける。

次にジューシー感溢れる旨み、そして卵や玉葱の醸し出す風味。甘いようで、しょっぱいようで、でもやつぱり旨いようで。正にハーモニーを奏でているかのような味わいに、箸を止められずに次々と口の中へと吸い込まれていく。

そして、ご飯に染みたましょっぱ美味い汁。これ単体だと流石にしつこいが、上の二つと合わさる事で一気にその味わいが昇華していく。お米の一粒一粒さえ残るのが勿体ないと感じさせる程に。

「これが…敗北の味…!」

でも、悪い気はしなかった。

その証拠に、気付けばもう完食する寸前だったのだ。

「こ、今度こそお前の謎を暴いてやるのだ! 覚悟するのだ!」

「……あと、ごちそうさまなのだ!」

つい逃げるようにその場を後にしたが、今度からは普通に頼んで、普通に味わい、美味しいと伝えたい。

その日が来るなら、何か特別な日にしたいと思った。

例えば：私が大きな謎を解き明かすことができた時とか、事件を解決できた時とかがいい。

その為にも、もつともつと努力しなければ、なのだ！

逃げ帰ってしまいましたでしたが評価は☆6とかいう圧倒的チヨロイン。空腹は最大の調味料だって、はつきりわかんだね。

というわけで今回はここまで！あんま進んでないけどいいや。
ご視聴ありがとうございました。

メニューその13 『小さな小さな恩返し』

凶鑑の三分の一が埋まったRTAもう始まつてる！

さて前回は探偵ちゃんに飯テロして終わりましたね。アレコレ言ってくる兄貴姉貴達を飯落ちさせるのが最&高。あゝ、たまらねえぜ！

本日のロドス内の飯タイムも終わり近いですし、ジュナー姉貴のご依頼のお菓子をブチ込んでやるぜ！

というわけで自室に……

「なあアンタ！今ヒマだろ？オレサマに付き合え！」

おつとイフリータちゃん。というかイフリータちゃんいきなり告白ディスク！？
(トウUNK) おじさんまだ心の準備(意味深)が……

「ばっ……ちげーよ！いきなり変なこと言うなつての！兎に角、つべこべ言わねーでついて来い！」

先にご用件をお聞きしたいんですがそれは…（すつとぼけ）

まあ取り敢えず、手を引かれるまま行きましようか。これも料理イベントの一つにもなります。その名も『小さな小さな恩返し』

タイトルだけでもうてえ。

はい、もうお察しだとは思いますが、『イフリーたちやんがサイレンス姉貴に日頃の感謝を伝えたいとの事でプレイヤーに依頼する』というサブイベです。てえてえの過剰供給が過ぎる（限界オタク感）

因みにそのお返しの内容はなんでも良いです。折り紙でも手紙でも、無論料理でも（問題）ないです。

「……まあそういうワケだよ。だからオレサマになんか、料理を教えてください！ 今日中に完成しなくてもいいから、頼む！ この通りだ！」

あ良いつすよお！（寛容）

ちようどお手軽に作れるお菓子のレシピ知ってるけど…どう？ 作ってかない？

「ほ、ホントか!? ありがとなー! じゃあ早速教えてくれ!」

そんなに焦んなくても料理は逃げてかないゾ。時間は知らん（無慈悲）

「なっ!? 言ってる事がデタラメじゃねーかよ!」

わかった、わかったから暴れんなよ… 暴れんな…

と言うわけで、今回は「カステラ」です。ですが普通のカステラではちよつと都合が悪いので、たこ焼き機で作る「鈴カステラ」でイキましよう。

それじゃあ改めて自室へ行きますよ、行きますよ、イクイク!

ヌツ！（移動完了）

ご都合に合わせて、ついでに材料も揃えておきました。

イフリータちゃん準備はいいか〜? ?

「お、オウ！いつでも来い！」

エプロン姿かわいいね♡（ノンケ）

こういうキャラのレアな姿を見れるのもアークナイツRPGのいいところですね。

まだまだ沢山レア姿や見所さんが本編にあるのでみんなもアークナイツRPG、やろう！（特別意識：みんなもアークナイツ小説書くんだよあくしろよ）

では、早速作っていきましょう。

まずはボウルに、ホットケーキミックス、卵、牛乳をドバーツと入れて、よおしくかき混ぜましょう。

今回はイフリータちゃんもいるのでボウルは2つ、材料もその分2倍です。

自分はジュナー姉貴の分を、イフリータちゃんはサイレンス姉貴の分を作る。これぞ一石二鳥。やったぜ。

「…なあ、なんでオレサマと一緒に作ってんだよ？教えてくれるだけでもよかったんだぞ？」

あらやだいい子。でも駄目です。

教えるだけ教えても、間違えて解釈して失敗することかありますあります（リアルn敗）

なので、同時進行で調理を進める事で、自分を見本に真似させながら作らせる方ができます。見本があるのはマジで大事（個人差有り）

「なんだよ、オレサマが間違えて作っちゃうとでも思ってるのか？バカにすんじゃないよ」

ファーホーウ（萎縮）でも自分の経験談ですから、あとついでに自分も作りたかったからんだゾ。

「そ、そういうことなら仕方ねーな……勘違いして悪かったよ」

泣かないで（切実）

……んで気づけばいい感じに混ざりましたね。

次にハチミツ、みりんを加えて更に混ぜ合わせます。

「また混ぜんのかよ！メンドクセーな、なんで全部一気に混ぜねーんだよ手間じゃねーか」

そう簡単にいかないのが料理なんですわ。確かに誰もが最初は思う疑問だとは思いますが、まずけどね。

料理は足し算と同じとはよく言われますが、ただ全部を出せば想定のお答えになるとは限らないんですよ。今回の鈴カステラも然り。

自分は算数だとか化学だとか滅法弱い方なので詳しく説明することは出来ませんが、まあそういうもんだとお思い下さいな。

「な、なんか頭がパンクしそうだな…もしかして料理ってムズカシイのか？」

確かに、哲学的には難しいですね。でも頭がいい人だけが料理するのは違いますしおすし（意味不明）

さて、この辺で混ぜ終えて…

「やつとか？もうオレサマ腕がパンパンだぜ…」

（発言が）セクシー…エロい！

ふう…（賢者） さて今度はたこ焼き機の表面に油を軽く塗り、温めましょう。

「これで焼くんだな？オレサマに任せとけ！焼くのは得意なんだ！」

あー！お待ち下さいお客様！全部入れるのはいけません！お客様！あー！あー！

……ままえやろ（料理人失格）

一般的な鈴カステラってホントに鈴みたいな形してるし、まあ…なんとかなるやろ！
ヨシ！（現場ネコ）

……さて、此方はイフリータちゃんのととは違うやり方で、半分までさつき混ぜたのを
サーツ！（迫真）と流し入れましょう。

「…なんでそんな少ねーんだ？いっぱいいっぱいの方がいいんじゃないの？」

まあ、イフリータちゃんのやり方でもできなくはないですよ。火が通り辛くて時間が

無駄にかかるのとその分焦げやすいだけで。

「大問題じゃねーか！なんで先に言わねーんだよ！」

ええ…（困惑） だって言う前に入れちゃあ…ねえ？

「あーもう！オレサマが悪かったよ！だからその目止めろって！」

おっと沸騰してきましたね。意外と早い方がいいゾ〜これ。

では一個を取り出し、もう一個の方に合わせるように入れて、繋ぎ目がくつつくように転がしながら焼いていきましょう。

「おい無視すんな！てかこっちはまだ焼けねーのかよ…！」

草。

「笑うな！クソツ、焦ってーな…！」

せめて入れすぎても8割程度までにしよう！（教訓）

……よし！こっちは焼けてくれましたね。「鈴カステラ」自体はこれで終わり！ですが量産する必要があるので、残ってる分も全部焼ききっちゃいましょう。

「…おつしや！よーやくグツグツいいやがった！これをひっくり返して…で、いいんだよな？」

やりますねえ！（称賛） その調子だゾ。

さてこれ以上は同じ工程が連続するのでカットで。

完成です。やったぜ。

焼いた後にグラニュー糖を塗す工程が抜けてましたが、ままえやろ（適当）

「いやー助かったぜ！これでサイレンスも喜ぶよな？」

(イフリータちゃんが作ってくれたんだから) 当たり前だよなあ？

試食はしてないけど、焼き色が綺麗だから味はヨシ！ (適当)

「んじゃあな！今日はありがとな！」

「こちらこそありがとナス！」

あつ、そうだ(唐突) ちよつとサイレンス姉貴に渡して欲しいものがあつたんだゾ。

お使いして貰っていいっすかあ？

「世話になったんだ、そんならい安いモンだ！で、なに渡すんだ？」

やったぜ。この前頼まれてた例のポトフのレシピ、渡し忘れてたからお願いしナス！

あとついでだからそのエプロンもプレゼントするゾ！

「マジか!?サンキューー！有り難く貰ってくぜ〜！」

じゃあ自分もジュナー姉貴にコレ渡してくるから、早く寝るんだゾ。

「オウー！じゃあな〜！」

じゃあの〜

さて、ケーちゃんに見つからないように迅速に渡さねば…（使命感）

なおこの後普通に見つかって全滅しましたとき（ガバ）

この畜生めがツツツツツ！！（迫真）

「くああ…」

欠伸が漏れる。今日で三徹目だったか。とは言え自身の病状もあつて徹夜とは言えないが。

まともな食事もせず、ずっと部屋に籠りきりだった。

理由は無論、源石オリジニウムについての研究を続けていたからだ。

焦つてもいい事は無いとは分かっている。でもあの日、あの子の笑顔を見て元気を貰つたと勘違いしているのかもしれない。

それでも、それでも私はあの笑顔が、忘れられなかった。

あの笑顔を少しでも長く続かせる為に。あの子が幸せであり続けられる為に。

ガチャッ！

「なあサイレンス！お菓子もらったから一緒に食おうぜ！」

「……イフリータ？」

「……ンだよ、またオシゴトかよ。少しは休めばいいのによ、なんで無茶すんだよ」

「……ごめんね。今休むから」

そうして漸くデスクから離れ立ち上がる。

長時間座っていたからか腰が悲鳴をあげるように、パキパキ、と音が部屋に響く。

「お、オイ大丈夫かよ……」

「…大丈夫。心配かけてごめんね」

「…謝ってばっかだな」

「…ごめん」

「ほらまただ」

つい言葉が詰まる。

「そんな無理してまでオレサマの方を考えなくてもいいのによ。気持ち嬉しいけど
さ」

「それでも、私は貴女が大事だと思うから…」

「わかってる。オレサマもサイレンスのことが大事だと思ってる」

「だからそんなになってまでやる必要ないだろ。オレサマも、みんなも心配する。サイ
レンス一人じゃねーんだからさ」

「少しは頼れよ。オレサマでもなんでもさ」

「…：…うん。ありがとうイフリータ」

「…：…よし！じゃあコレ食おうぜ！名前は確か『スズカステラ』だったか？」

「カステラ……？」

そうしてイフリータが持っていた紙袋を覗くと、何やら球体のような、円盤のような、そんな形をした何かがあった。

感想としては、私の知ってるカステラと大きく違うものだということ。

表面には砂糖のような、半透明な何かが塗されていた。

恐らく、グラニュー糖だとは思いますが……兎に角、紙袋から取り出し口に放り入れてみる。

……先ず感じたのは、食感が今までに無いようなものだと感じたことか。

なんとというか、モチモチとも違う、フワフワ……モコモコ？というか……本当に、表現に困る食感だった。

兎に角、私の知っているカステラとは食感が異なる、不思議な感覚だった。でも味はカステラに近いものだった。

卵の特有のソレとグラニュー糖らしきものの甘味が噛み合つて、とても美味しい。一口サイズだから簡単に食べられるし、なんとなく、ちよつとしたご褒美感もあった。

「美味えだろ!? オレサマも作っただんぜ！」

「……うん、美味しい。凄いな、こんなに美味しいのを作れるなんて」

イフリータが照れたように頭を掻く。

きつと、彼女と協力して作ってくれたのだろう。

…また、世話になっちゃったな。

「あゝそうそう、アイツからコレ渡せって」

「なに？メモ用紙…？何が書いて…っ!？」

差し出された紙切れを見る。驚きのあまり、声が詰まった。

この前の、あのポトフのレシピだった。それも、非常にわかりやすく丁寧に書かれている。

「言った私もアレだけど…覚えててくれたなんて…」

「なんだ？頼んでたのか？」

「え、ええ…」

困惑もあつたが、何より嬉しいというのが本音だつた。

直接ではないにしろ、キツチリと教えてくれた事が。覚えててくれていた事が。とても嬉しかった。

「……偶には、休んだ方が良いよね」

「オウ！ そうだそうだ！ ついでにまたなんかつくつてもらおうぜ！」

「ふふつ、そうだね。美味しいご飯食べたいね」

また一つ、助けられた。

あの子の想いに。

あの子の笑顔に。

……あの子の、温もりに。

「恩返し、しないとね」

メニューその14 『「罪」なお味…?』

流行りに乗ってレッツツバクシン！していくRTAはーじまーるよー（大嘘）

前回はライン生命あつたけえなあゝ（過去から目を逸らし）つてとこで終わってましたが…ジュナー姉貴にお届けしようとしたらケーちゃんに全部食われました（白目）

今回はその続きです。ケーちゃんは帰ってつてくれました。これ以上チャート荒らすなよ…荒らすな…

時刻は22:00ともう遅いので、本来このまま寝た方が良いんですが、ちよつとしたサブイベ狙いに食堂に向かいます。

着きました（3秒クツキング）

やっぱり消灯されてますね。足元で光ってる薄暗い蛍光灯が唯一の目印です。予想通りなら…

「どうして食堂は24時間やってないの…?」

いましたね。自称大將軍こと「テンニンカ」ネキです。いつもお疲れ様ですつ！（テンニンカ酷使勢）

とりあえず話しかけてきましょう。ちなサブイベ名は「大將軍の食事事情」です。

ん〜…（コソコソ）

マ。ツ！（背後奇襲）

「うびゃああ?!?!?!」

あつ、ずっこけた。大丈夫か〜？（他人事）

「び…ビックリした…！話しかけるにしても驚かさなくてもいいじゃんつ!!」

すまんこ（気軽な謝罪）

というわけでご事情は把握してますねえ！お腹空いてると思つて、お夜食作りに来たゾ。

「それは嬉しいケドさ…驚かされた理由が分からないよ私は…」

謝ったダルルオ!!? だからお前も許せよオルルアン!!? (豹変)

ままええわ (反省しない層の中の層)

では早速テキトーにでも作っちゃいましょう。夜間の見回り組もここを通るので。
【アブサント】姉貴とか【ヘラグ】オツジとか。

とりあえずテンニンカネキはその辺に座っててくれよな〜頼むよ〜すぐ作るから安心しろよ〜

「は〜い…はあ、お腹空いた〜…」

大將軍様もこう言ってるから早く作って差し上げろ。かしこまり! (自問自答)

厨房にスタンバったら早速作っていきましよう。

今回は【ホットドッグ】を作ります。簡単なのでね。

先ず、お太おい!ソーセージ(下ネタ)を焼きたいところですが、無いのでウインナー

数本で妥協します。仕方ないね♫

焼いてる内に、コッペパンを縦に切れ目を入れて、具材を挟めるようにしておきます。深すぎると詰めてる途中で千切れるので気をつけましょう（無敗）

野菜は：レタスを一枚でええか（適当）これを水洗いしてから手頃な大きさに千切つて、先に挟んでおきます。

：ウインナーが焼けましたね。わー美味しそー！

ではこれを挟む：前に『スライスチーズ』を挟みます。パンからはみ出る場合は千切るなりなんなりして調整しましょう。

その上でウインナーを挟みます。

はいこれで完成！終わり！ファストフードはやっぱり簡単に作れるので好きですねえ！

あたしは今、限界を迎えていた。

不意打ちされた時はつい怒りが有頂天だったが、空腹に負けて怒る元氣も抜けてつた。

そして気付けば照明が消えて暗くなった食堂の席に座って、灯りのついた厨房を見つめて、ヨダレを垂らしていた。

はしたないのはわかってる。でもしようがないじゃん！今日も今日とてドクターに使い回されて、いざ終わると深夜帯でさ。無論食堂は誰もいないから閉まつてる。

ちようど蓄えていた携行食も尽きたし、本当に辛い、と思った時にあの不意打ちというわけだ。

確か、最近話題になつてるリヨウリチョーって人だっけ？アレがただのお茶目ならまだ許せると思う。多分。

「お待ちせ、こんなのしか作れないけど、召し上がれ」

なんて考えてる内に料理が運ばれてくる。見た目はホットドッグだ。ただ余分にナカが挟まれている。辺りが暗いからその正体が分からないが…

でもまあ考えたところで解決しないので、取り敢えず一気にかぶりつく。

……その瞬間、目を見開いた。

パリツとしたウインナーの食感、そしてジューシー感溢れる旨み。レタスの新鮮な

シャキシヤキ感。パンのフワモチ感も堪らない。

そして何より、余分に挟まれてたナニカ：これは、チーズだ！チーズの濃厚な風味と
うか旨みというか。そんな美味しさが口いっぱいに広がっていく。

二口、三口とドンドンと食べ進めていく。本当に病みつきになる味わいだ。

あたしの食事情のせいもあって、深夜遅くに食べてしまっているが、その事実がま
た、なんだが悪いことをしてるみたいでなんだか楽しい。

例の彼女はそんなあたしを見てニマニマしてた。

「どうかな？美味しい？」

……その顔はちよつと気に食わないしちよつと悔しいけど、そんなの即答に決まっ
てる。

「メチャクチャ美味しいよ！ありがとう！なんとなく、『罪』な味って感じがして好きだ
なくなんてね」

はいお粗末!というわけで評価は無事☆6、やったぜ。もつともつと相手の胃袋を掴んで差し上げろ。

「いや〜ありがとね〜!美味しかったよ!」

ご利用ありがとナス!次も期待してもらって、どうぞ。

「……次は驚かさないですよ?絶対だからね??」

大丈夫だって安心しろよ。僕は悪い走者じゃないよ。

…よし!無事終われました。テンニンカネキも満足して帰って行きましたね。

というところで今回はここまで!またまた短いですがね。ご視聴ありがとうございました。

メニューその15 『クリームパン』

もう始まつてる！と言うわけで続き行くよ。

今回は確か大將軍ちゃんに背後奇襲（意味深）してましたね。んでその翌朝からスタートです。

自室スタートは（見所さんが）無いです。ので厨房からお届けしております（某番組感）

そしてカウンター側に大量の列が。うーんこの。

「料理長、この列どうしよう〜」

Gumちゃんは安定かわいい（ノンケ）

まあ取り敢えず、ホモちゃん料理しますんで、その間はそっち側がキツチリ持たせてくれよ〜頼むよ〜

てな訳で早速お料理タイムですじゃ。

本日のメニューはく…「クリームパン」じゃい!

パンの中のカスタードクリームを作るのに時間をめつつちや使うのがマズ味ですが、カスタードクリームのメニューを解放するだけで、後々が楽になります。パン生地
の発酵にも時間使うので、寧ろちようど良いです。

大量生産するつもりだし、一個作ったら短縮機能もつうずるっこんでやりましょう。
じゃあ作るよ〜

先ず最初に、ボールに砂糖をドバーツとぶち込んで、その後薄力粉コーンスターチと
スキムミルクをサーツ（迫真）と払い入れましょう。

あつ、そうだ（唐突）パン生地メニューもピザ回で一応解放済みなので、パパッと
短縮して作っておきましょう。これがあると無いとじゃタイムの伸びが段違いです。

さて続きをば。鍋またはフライパンにバターと少量の牛乳（意味深）をブチ込んで弱
火にかけます。アツツウイ！（低温火傷）

んでバターが溶けたら最初の白い粉（規制）をちよいとずつ加えて、粉気がなくなる
までぐるんぐるんかき混ぜてイキみましょう。一気にドバーツとやったら作り直しです

（無敗）

そしたら、別の鍋に用意した牛乳の残りをドバーツとぶち込んで、これが沸騰したら上のヤツを加えて手早くかき混ぜてしましましょう。

馴染んできたら火は消さずに、そのままなめらかにつやが出るまで混ぜ続けます。

出たので（3秒クツキング）、火からおろしてバナラエツセンスを6〜7滴くらいいいですかね？を入れて：

これを、ラップを敷いたバットにつうずるつこんで、更にラップを密着させてから冷蔵庫で冷やしましょう。10分はあれば：ままえやろ（適当）

はい、これでカスタードクリームのメニユーを解放できましたね。

あとはこれをパン生地に入れて焼くだけなのでカット。

因みに焼いてる間にまた作るとアーツ判定謎加速バグが発生するので、あの時の二の舞をしないよう、キツチリ栄養補給は挟みながら作りましょう。メニユー解放は済んでるので、丁度よくRTA的にも時短できてうん、おいしい！

焼き上がったら即出しましょう。大食い代表のケーちゃんがいるので、その分は残るようにしましょう。だいたい：10個もあれば足りるやろ。ヨシ！（慢心）

厨房組の皆さんが【ポテトサラダ】と【ミックスジュース】を作ってくれてたので、活用しちゃいましょう。わざわざありがとナス！

時刻は……調理してから約1時間半くらいですかね。ちよつと遅かったんちゃう？

(反省)

「漸く出来上がりか。随分と手によりをかけたんだな」

「へえ、結構美味しそうじゃん」

【スポット】兄貴に【カタパルト】姉貴オツスオツス！元気してつか？

「おかげさまでな」

「あ、アタシ2個お願い！一個は袋に包んでね」

(袋なんて) 無いです。ままええわ、持ってけドロボー！

とりま後ろつつかえてんだから(意味深) 取ったら行つてくれよ頼むよ

「ちえー、わかってるって」

「…ウチのバカがすまん。じゃあな」

じゃあのへ

…よし、じゃあ次いくよ〜

「……遅いわね」

「おやおや、2人が心配かいオーキッドさん。心配せずとも、俺がいるさ」

「アンタは黙ってなさい」

「おっと相変わらず手厳しい」

食堂のとある一席。行動予備隊A6隊長「オーキッド」は頭を抱えながらメンバーを待っていた。

問題児2人と共に。

「えつと…ケンカは、良くないよ?」

「わかっているよポップカルさん。これも愛情表現の一つ…」

「だくかくらく…」

「悪い、待たせた」

「いやあ大人気だね、ウワサの彼女」

そんな喧騒に水を差すかの様に、いや今回は助け舟と思うべきか。兎も角、待っていた2人がトレイに朝食を乗せて現れる。

そしてカタパルトの言うウワサの彼女とは、つい最近オペレーターとして活躍し始めたメツジとかいうヴァルポのことだろう。今もなお並んでいる長蛇の列がその証拠だろうか。

「それに関しては俺も色々と聞いたことが。なんでも、今までの常識を覆すかのような美味さを誇る料理を幾つも作っているんだとか」

「…それが、そのパンなわけ？」

「だろうな。据え置かれたようなポテトサラダと比べても段違いだ」

ミッドナイトの言葉へのオーキッドの疑問に、スポットが答える。

言われてみれば確かに、他とは何か違うと思わせるモノを感じる。

なんというか、艶というか香りというか。言葉ではとても説明できないが、素人の目から見ても違いがわかる程には、『違う』と思わせられる。

「なんなら食べて確かめてみる？アタシは追加で一個しか貰えなかったから、ポップカ
ルとはんぶんこね〜」

「わっ、ありがとうカタパルトお姉さんっ」

「いいのいいの。ほら隊長〜、感謝に咽び泣くなら今のうちだよ〜」

「ポップカルには有り難く思うけど、アンタには感謝しないわ。そんな言われ方したら尚
更ね」

「ちえ〜」

カタパルトはそんなことを言いながら、パンを食る。

そしてポップカルがカタパルトから受け取ったパンを半分に割って、それをオーキッド
に差し出そうとしたその時だった。

「…ツツツ?!?んつま?!?なにこれ!?!」

「ちよつと、何よ急に立ち上がったたりして」

「いや、食べればわかるって！後でおかわり貰うか…」

今までにないくらいに興奮した様子だった。正直、初めて見た様子で一瞬ギョツとした。ポプカルも驚いてパンを落としかけたくらいだ。

そんなに美味しいというパンの正体を知ろうと千切られたパンの断面を見る。

「……見た感じは、普通のクリームパンね？」

「うん、でも美味しそう。いただきますっ」

ポプカルの言葉と同時に、クリームパンを齧る。

瞬間、ポプカルと同時に目をかっぴらく。

「おいひい…おいひいよオーキッドお姉さんっ」

「え、ええそうね…ちよつとナメすぎてたかも…」

パンのサクツとした食感に、中のクリームの程よい甘味。そして後からくるモツチリとした食感。

情報量としてはこれだけだが、これだけに収まるには勿体ないくらいには、美味しいと感じた。

ついペロリと完食した頃には、問題児ミッドナイト一号が物欲しそうな顔で此方を見ていた。

「そこまで美味しいなら…俺も是非頂きたいね」

「どこを見ていつてるわけよアンタは」

「それは勿論、オイシイものをだよオーキッドさん」

「…そろそろ訓練時間だ。残念だったなナンパ師」

「うへ…アタシ、もう少し食べたかったんだけど…よし、サボってでも食べよう。そうしよう」

「誰がそれを許すのよ」

ピシヤリと問題児カタバルト二号に言い放ちつつ、2人はガックシと項垂れる。

「さて、今日も今日とて楽しい訓練だ。精々クソツタレな時間を有意義に過ごそう」

スポットの号令と共に、一同は訓練室へとその足を進める。

オーキッドもいざ行こうとした時、スポットが呼び止める。

「後ほど、話したいことがある。今日のメシを作ったアイツの件でな」

「…何か不審な点でもあった？」

「俺の目で見ればな。アンタ次第でもあるが、ドーベルマンにも話すつもりだ」

「多分アイツ、とんでもないアイツを持つてるかもしれない。それも複数だ」

この疑問が後にロドス内だけに止まらず、テラ中に影響するとはとても思ってもいなかった。

なにせそれが鉦石病を根絶できるかもしれない代物だったのだから。

メニニューその16 『懐かしい味』

続き行くよ

とりあえずは大量の行列を捌き終わったところから開始しましょうか。

同じ光景が連続するだけの動画なんてクビだクビだクビだ!

んであれから…1時間!?!うせやる? まあゲーム内での時間経過なんで別に良いですけどねっ (ツンデレ構文)

ともかく、一先ずはなんとかなったのでここからは自由行動ですね。

今のところ親密度上げて得するキャラは思い当たらないので、とりあえずドクター兄貴んとこにお邪魔しましょうかね。

(ドクター兄貴だけは買収して損は) ないです。

この辺にいい、理性ゴリゴリ削られまくって氏にかけてる人がいるらしいんすよ。じゃけん差し入れに行きましようね

!?! (情緒不安定)
と言うわけで早速自室まで戻って来ました。勿論お料理タイムに決まってるよなあ

負の遺産でもあるクッキー☆でも良いんですが、今回は創作料理の一つ『ビスケットケーキ』なるものを作っていきましよう。作り方自体はすんごおおい簡単（語彙力）なのでリアルでもサツと作れておすすめめゾ。

パクパクですわ！（某お嬢様）

材料は大量の「ビスケット」、リアルで言う母さん〇ツトです。あれ美味しいよね（感傷）

あとは作りながら紹介します。

取り敢えず、円形の大皿を用意しましょう。最悪タツパーとかでも良いです。

この皿ツ！（底が）深いツ！

んで「牛乳」につけたビスケットを一面を埋めるような形で並べて、その上に泡立てた「生クリーム」を塗りたいくり、またビスケットを並べての繰り返し……で、蓋が有れば蓋から溢れない程度の高さになったら蓋をして冷蔵庫にシユウウウ！（超☆エキサイティン！）

本来ならこれで丸一日以上は放置するんですが、今回は冷凍庫を使って時短します。

1時間はあれば……ええやろ（適当）

というわけで完成です（3秒クッキング）

じゃあ早速デリバリーしましょうか。ケーちゃんに遭遇するのだけはヤメテクレ…
(トラウマ)

移動シーンは勿論カットで (U M m s m 時計カットイン)

おっ開いてんじゃーん！ (開けたんだよなあ (n 番煎じ))

「…メツジさん？ どうなさいましたか？」

CEOちゃんオツスオツス！ 糖分足りてるか〜

うわドクター兄貴の方が反応してて草ア！

「そのガラスの容器…差し入れですか？ わざわざありがとうございます…ごきいますっ」

すげーニコニコしてて可愛い…可愛くない？ (ノンケ)

取り敢えずはウーバー〇ーツしに來ただけなので、トンスラこきましよう。その笑顔もつと見てたいけどすまんの…これRTAなのよね…

「あつ、すみませんっ！ ちょっと待っててくれますか？」

あつ (ガバの予感)

「…まさか今来るとは思わなかったな。オペレーターメツジというのはお前だな」

ケルシーネキ!? いやドクター兄貴んどこに来るのは別に不思議じゃないけども、なんでメツジちゃんの事知ってるゾ? それにその言い草…なにかご用件?

「察しが良くて大変助かる。お前のアーツについて聞こうと思っていた」

……………なんて???

えっ、メツジちゃんアーツ使えたん? ちょっと待っててくださいね…(メニュー操作)

「…自覚がなかったのか? ドーベルマンから聞いた情報だとお前はアーツを有していると聞いたのだが」

ちよ、ちよつと待っててください! 今確認してるんですよ! 待って! 助けて! 待ってくだs……………うせやろ?

えー、はい。今調べた所ですね。とんでもねえアーツを取得していたことが発覚しました。それも二つほど。

詳しくは事が落ち着いてからの方が良さげですね。今は現状を脱するのが目的になりますね。

チャートくん暴れんなよ…暴れんな…(ラプトルを静止するポーズ)

「ケルシー先生…?メツジさんがなにを…?」

「それを今聞くとところだ。それにこれはお前や全世界の人々の未来に関わるんだ。貴様もだドクター。決して聞き逃すなよ」

あながち間違いないのが怖いなあ…それにこの感じ、今更ですが大幅なガバになりそうですね。これは流石にリセ案件…ファツ!?

リセボタンが壊れてるやんけ!?

どうしてくれんのこれ?これももうRTAじゃないやんけ。はーつつかえ!つつかえんわーマジで。

…まあ、こうなった以上は仕方ないので、このまま現状で最速を目指していくことにしましょう。再走はまた別の時に…

で、今はなんか尋問じみたことをされそうなんです、取り敢えずシラを切るしかないですね。自分もさつきまで知らなかったのだから(○)

「……成る程、事情はわかった。時間も遅いから今日はもう戻れ。だが後ほど徹底的に調べ尽くさせてもらう。明日は食堂での勤務は無しだ。執務室に直行して来い。いい

な？」

生きてる〜！一時的にだけ。じゃあもう用事は済んだしもう逃げるんだよオオオ
〜！（ジヨジヨ風）

……先程のケルシーの言葉……どういう事なのだろうか？全世界に影響するなんて情報、真つ先に自分の元に来るはず。いや、タイミングが悪かったのだろうか。それなら合点はいく。それもケルシーからの情報なら信憑性もある、かもしれない。

「ケルシー先生、先程のメツジさんか何か……？」

「言つただろう。これからの未来に関わると。詳しい説明はまだできんが、確かな事だ」
「……それはどういう……」

「……オペレーター・スポットがいただろう。彼の源石融合率を再測定した。その結果……」

「源石融合率が著しく低下していた」

思わず荒々しく立ち上がってしまった。アーミヤも啞然としている。

正直、現実味が無い。源石融合率の上昇を【抑制】する薬はロドスで作られているが、まるでワクチンのような…否、それよりももっと…

「つまり、感染者の人々を救えるということですか!？」

「…平たく言えばそうなる。あくまで仮説だがな」

「それでもこの事実は大きいですよ!これで私たちロドスの目標の完遂に大きく近づけるんですよ!!」

確かにそうだ。そんなアーツをあの少女^{メツ}が使えるというのが事実なら、鉱石病の恐怖から人々を救える。これが成せるというのなら、意地になつても掴み取るしかない。無論あの少女には大きな負担をかけることになるが。

「…今日はもう遅い。お前たちも早く休め。せめてそれでも食べてな」

「…メツジさんの作った、料理……」

「ついでに、私もそれをサンプルとして頂こうとは思っている」

「あつ、そうですね！ケルシー先生もお疲れですもんね！」

「私のことはどうでもいい。今はお前たちだ」

「そう言わずに、ケルシーも休んだらどうだ？過労で倒れられても困る」

「……………そこまで言うなら仕方ないな」

そう言つてケルシーは席につく。アーミヤは近くの筆筒から来客用の小皿やフォーク等をテキパキと取り出しテーブルに並べる。

切り分け…はメツジが既に済ませてくれていた様で、品が並び終わるのはすぐに終わった。見た目は完全にケーキだ。だが断面は…これはビスケットだろうか？何重もの層になつてて食欲をよく唆る。

「美味しそうですね…！」

「一般家庭でよく作られているようなものだな」

3人同時にフォークでケーキを割る。思ったより感触は硬かった。そして切り分けたのにも関わらず、その重みがその手に伝わってくる。

そしてそれを口に放り込む。

…とても、優しい味がした。

「なんだか、ホッコリしますね…」

「母の味、というやつだろうか。食べたのは初めてだが…」

ビスケットをミルクが何かでふやかしたような食感に、クリームの優しい甘さが何処となく「懐かしさ」を思い出させる。

いつのまにかアーミヤが入れてくれたであろう紅茶とも良く合って、とても美味しいと感じた。成る程これは元気になれる。

噂程度には耳に入れていたのだ。曰く彼女の料理は食べると元気が湧いて出てくると。

…もしや最近、重症患者だった老人が急に元気になったというのは、彼女の仕業だったりするのだろうか。

「…アーミヤ、身体に違和感を感じるか？」

「ケルシー先生？いえ特には…むしろ身体が軽くなつたような…そんな気がします」

「……やはりか。いやありがとう。成る程な……」

「明日が楽しみだな」

メニューその17 『希望を掴む』

いつのまにかエンジンジョイブレイになったRTAはーじまーるよー

前回はデリバリーしたら勝手にガバりました(○)

どうして???

で今は自室で待機中です。

えー、はい。前回発覚したアーツに関してですが、正直いうとチャートどころかシナリオが壊れちゃ〜くうレベルのヤツがありますあります。

先ずは比較的どうでもいい方から。いやまあヤバイんだけど。

その名も『タイムアクセラレート』。安心院みたいな名前だあ(小並感)

内容としては、『空間内の時間を大幅に加速させる』というものです。範囲指定型のクロックアツプみたいなもんですね。

これは多分、料理中に他の料理を作った時に発生する時間跳躍バグの事ですね。だからアーツ使った判定になったんですね(例のアレ)

因みにこれ、効果値としては攻撃速度が+100もされます。真銀斬がヘラグおっじのクソはや剣速でブツパできます(デデドン!)

まあ効果時間切れるとクツソ重たいデバフ乗るけど。じゃけん封印しましょうね（使わないとは言っていない）

で本題の方。名称は『アンチ・オリパシー』。簡単に言えば素質みたいなモンらしく、効果が『感染者への回復量が10%上昇する』というものです。

んで重要なのが、『回数を重ねる事でバッドステータス〔感染者〕を解消できる』という効果があることです。要は鉱石病を文字通り直せるって事です。圧倒的シナリオプレイヤーカーです。ねえありがとうございました。

さつきケルシーネキの言ってた世界中のウンタラってやつはこれのことです。ねえ間違いない。

まとめでは見ましたが、何が言いたいかって言うと、こんなヤベーアーツ持つてるんだったら呑気に料理だけできるわけ無いんだよなって。

おかしいなく？そんな片鱗見せたことなかったんだだけどなく？

まあ今回はもうリセできないんで、取り敢えず回数をこなすことだけ考えましょう。もう手段なんて選んでられ（ないです）。

と言うわけで、モルモットにならない程度にケルシーネキたちに協力することにしましょう。

あつたーらしいーあーさがつきつた♪

と言うわけで早速ドクター兄貴の元に行く…前に料理をこさえときましょう。もう自由に料理を行えなくなる可能性が非常に高いので、今のうちにコツコツと積み重ねておきましょう。幸いにも凶鑑はもうちよいで200いきそうですしね。

んで今回はジャンクフードとして名高い『ハンバーガー』で行きましょう。でもカロリー的に重たすぎるのも問題なので、『グラコロ』にしてみました。十分重たすぎるって？まあ、ノーコメントで○

では就寝前に仕込んでおいた「パンツ」を半分に切り分け、その間にまた仕込み済みのエビを使った「グラタンコロッケ」、千切りにした「キャベツ」を乗つけて、その上に「ウスターソース」をパンツに染みない程度にかけて、挟んで終わり！

味見も兼ねて食べることにしましょうか。

—— キャベツのシャキシャキした食感に、コロツケの甘味やソースのすっぱい風味が
とてもよく合う……!

—— パンの厚みもあつてかとおってもポリユミーで満足感あふれる一品だった。

絶対美味しいやんそんなん（よだれの垂れる音）

あつそうだ（唐突） どうせなら【ポテト】も作ろうぜ！時間も割とあるしすぐ終わるし。

良くある真つ直ぐな棒状♂のヤツで。

作り方は簡単！

馬鈴薯洗う！切る！油で揚げる！塩で味付け！

終わりっ!!!

じゃけん量産したら全部持って執務室に行きましようね。

というわけでね、無事到着しました。早速トツツゲーキ！（サベージ並感）しましよ
うか。こんちやゝすmkw屋でゝす。

「……来たか、メツジよ」

なんで銀灰ニキがいるんですかねえ？

それどころかカランド御一行様がみーんな揃ってらっしゃいますが：あつよく見たらライン生命組までおるやんけ。密集しすぎイ！ソーシャルディスタンス守つてもらつて、どうぞ。

で、ドクター兄貴の隣にいる「エイヤファイヤトラ」姉貴もといエフィちゃんは秘書担当かな？おつすおつす！

「いや、エイヤファイヤトラは被検体…と言うと聞こえが悪いな。おぬしの患者じゃ。サイレンスの後ろに隠れてるイフリータも合わせてな」

「ワルフアリン」姉貴までいるんかいっ。まあケルシーネキが情報を共有したとかなら分かるけども。

というか患者？ 鉍石病治せるかもつていう相手なら感染率高めの二人を選ぶのは良いんだろうけど、失敗したらどうなるんですかねえ？ ままええわ（寛大）

ああわかったよ！ 治してやるよ！ どうせ後から強制労働させられるんだ。（今より明るい明日に）連れてきやいいんだろ！

…今もしかして良いこと言つた？（台無し）

「おい、勝手に話を進めるな。お前もだメツジ。二つ返事で答えるのは此方としても都合は良いが……」

ケルシーネキすまんこ（気軽な謝罪）。

しかし患者がイフリータにエフィならライン生命組がいるのはまだわかる。ただカランド勢がいるのはコレガワカラナイ……（語録用途間違い）

「それ、多分アタシの仕業かも。昨日偶然執務室の近くを通りがかったんだけど、その時にちよつと……いや盗み聞きするつもりはなかったんだよ。でもアンタのことだと思いとさ……お兄ちゃんもお姉ちゃんも、もちろんアタシも心配になるから」

なんということ……（戦慄）

ま、まあなつちやつた以上はしようがないので、話を進めましょうか。難しい話はわからないので、適当に流しましょう。

あつそうだ（唐突） もしよかつたらクリフハートネキも治すぞ。ただ条件だとか効果値だとかが確証されたらだけど（ホモは嘘つき）

「……うん、ありがと。頼りにするからねっ」

ここで一枚絵が出てくるのはズルいつて。ちよつと儂い感じの真正面カットインは

涙がで、出ますよ…

え、改めて、取り敢えずは話をパパっ進めてしましましょう。少しでもガバを減らすんや…！

なんかすぐ終わりました（勝利確定UC）

被験者として協力してくれたイフリータとエフィに料理食わせたり、よくわからん機械にホモちゃんのアーツをブチ当てたりとか、本当によくわからん実験が多かったっすね。意味あるの？ってヤツまであったし…なんだよ運動後にアーツ使わせるって…

で前者のヤツですが、あのお二人、なんとですね…

感染率とかが劇的に下がってました

うっそだろお前？いくらなんでも効力強すぎイ！こんなチーターやチーター！今までのロドス御一行の努力と労力返せ！（理不尽）

イフリータは体表に出てた源石がホモコロリみたいに落ちてたし、エフィに関しては

鉋石病の影響で死にかけてた聴力が回復してましたしね。

えー、つまるところですね、ホモちゃんこれからそういうお薬を大量生産するだけの機械になる可能性があります。この畜生めがツツツ!!!

(勿論そうはなりたく) ないです。ので俺は対抗するで。拳で。

じゃけん厨房行きましょうね(???)

本来ならもう休んでおくべきなんです、もう料理ができなくなるかもしれないので、少しでも多く作って凶鑑を埋める必要があります。のでホモちゃんがホモコロリしないように体力管理を徹底しながら行きましょう。

ほらいくど、。

【実験報告書】 page 1

概要：オペレーター・メツジのアーツによる感染者の治療。

被験者：鉍石病患者オペレーター二名（署名希望有り）

―オペレーター・メツジ、調理済みの食料を被験者二名に提供。アーツの使用痕跡は無し。―

―指摘するが、オペレーター・メツジは「既にアーツは使っている」と発言。―
被験者二名、疑わず食事を開始。食事中の会話等は全て省略。―

―完了後、念の為被験者二名を対鉍石病患者への精密検査を実施。―

結果：被験者二名の源石融合率及び血液内源石密度の低下を確認。

サルカズの被験者：源石融合率が3.9%低下。血液内源石密度が0.11u/L低下。また体表に現れている源石が幾つか消失。後に地面に落下していた事が判明。

キャプリニーの被験者：源石融合率が2.9%低下、血液内源石密度が0.09u/L低下。また鉍石病の影響による聴力の低下が解消されていることが確認された。

あのメシが美味い上に病気が治るんだったら、不味いだけの薬とかレーションよりも断然マシだな。これならサイレンスにも……

―サルカズの被験者

あの方、つい最近見かけた厨房の：そうだったんですね！処方されたお薬、というより料理：とても美味しかったですし、何より耳の聞こえも良くなりました。身体もちよつとだけ軽くなった気がしますし。先輩が紹介してくれて、本当に良かったです！

—— キャプリーニーの被験者

以上の結果により、実験は成功。次の実験を考案し次第実行に移す。

筆記担当：ワルファリン

箸休め 『おりようりやさん』

あたしがあの『おりようりやさん』に出会ったのは、ロドスって言う動くお城に入つてしばらく後だった。

——先生、この子も既に症状が…

——分かつてる。だが生きる事を諦めさせるのが我々の仕事じゃない。

——ですが…

——無駄だ、なんて言わせないぞ。絶対に治す。それが我々の、私たちの仕事であり使命だ。

その時はとつても苦しくて、とつても痛くて、とつてもとても、辛かったな。身体中のそこかしこから黒い石みたいなのも生えてて。多分この石がイジワルしてたんだなと思って思った。

——同時に分かつてたんだ。もうすぐ死んじやうんだって。

あたしのいる場所は、ロドスってお城の中でもずっとずっと奥の方の、とつても静か

な場所だったんだ。せんせいの話だと、あたしみたいな人たちが沢山いるんだって。そして、そんな人たちもすぐに何処かに行っちゃうんだって。

きっと、あたしはその人たちの、みんなの仲間になるんだろうなって、思ったの。

だったらせめて、美味しいものを食べてから行きたいなって、思ったの。

そんなある日、あたしの所に来たのが、あの『おりょうりやさん』だった。

——こんにちは。気分はどうかな？

『おりょうりやさん』はニコニコして挨拶してくれた。他のせんせい達はみんなつめたい顔をしてたから、嬉しかったんだ。でもでも、せんせい達がこわい訳じゃないんだよ？いつもいつも話しかけてくれたから。

そして銀色の板みたいなのに乗せられた何かが見えた。いつものおくすりの時間。味なんて無い。この時だけは退屈だった。退屈で、窮屈で、イヤだった。

でも出されたのは、違うものだった。黄色っぽい色で、よく分からないあみあみがあつたかな。もう覚えてないけど。

——他の人たちには内緒だよ？

そんなことを言いながら、人差し指を口に当ててきた。あたしは元気に頷いた。

そうしてあたしは出されたそれをパクリと食べた。

その時、世界が変わった気がしたんだ。

クッキーみたいなカリカリした感じと、パンみたいなモチモチした感じ。それにとつつつても甘かったんだ。

つつい食べ進めちやって、すぐに食べ終わつちやった。それで足りないって言ったらもう一個くれた。

その日はそれでおしまい。おくすりも無かった。後から来たせんせいには怒られちやったけど。

それで、次の日も、その次の日も。毎日毎日あたしの所に来てはあの『黄色いの』を持ってきてくれる。あたしはそれがすごくすごく、すーっごく嬉しかったんだ。

それから、そこかしこにくつついてた黒い石もポロポロ落ちて、重かった身体もすっかり軽くなって、すごくすごく元気になったんだ。ホントにあつという間だった。せんせい達はすっごく驚いてた。あたしも今なら驚くと思う。それだけすごいことができると、駄目だと思われてた人たちを助けられるんだって、あの人に憧れた。

それであたしがロドスの奥の方から出れたら、あの人にデシイリ？しようと思うんだ。それであの人が来た時、名前を聞こうとしたんだけど……

——私はただのお料理屋さんだよ。

つて言つて、教えてくれなかつたんだ。

でもいつか治つたら、あの人に：『おりょうりやさん』にデシにしてもらうんだ！あたしもあの人みたいに、沢山の人を治して、元気になつてもらうんだ！

それがあたしの夢なんだ。どうかなおじちゃん？

「……嗚呼、とても良い。素晴らしい夢だ。その夢を私は応援しよう。だから、早く治して元気に笑おう。君と、そのお料理屋さんと一緒に——」

メニューその18 『メロンパン』

ロドス春のパン祭り（季節感ガバガバ）なRTAはーじまーるよー！

前回は泥を泥で洗ったみたいなどんでもねえガバを連続でかましてましたが、ここから一気に挽回してイキましようか。

というわけで現在は厨房に向かっている最中ではい。またガバらないようにしたいけどなあ…オリチャーはもう勘弁しちくり。

うん？向こうから走ってくる人が…オッスオッス！（気さくな挨拶）

「見つけた…！貴女、メツジさんよね？」

なんだよ早速ガバかよ。モブ相手ですが話は聞くだけ聞きましたよか。もしかしたらもしかするかも知れないですしね。

ういゝ→つす、どうも〜シヤムです（大嘘）

「よかった…それで早速なのだけど、貴女の力を借りたいの！今すぐ料理を作って欲し

いのー！」

これって…もしかするかもしれませんが…？（期待の目）

「ワルフアリン先生には聞いたわ、貴女の料理が薬にもなるって！だからお願い！もう後が無いの!!」

親族でも居るんすかね？（無関心）ままええわ。しょうがねえからやったるわ！（医療従事者の屑）

して、誰に食わすんやろ。後が無いとかなんとか言ってたんすけど。

「重症棟の子供たちよー！」

なんて???

というわけだね、重症棟、別名『自殺用エリア』なんて呼ばれるガチの危険区域に逝くことになったんですがね、その子供たちに料理を振る舞うそうです。因みに職員さんはガチガチの防護服とか着てる人しか居ないレベルです。

それでなんですがね、一応料理としては、何時ぞやのパン生地レシピを活躍して、量が比較的しやすい【菓子パン】を大量生産してやる感じですね。

題して『ロドス春のパン祭り』です！（投稿時期：秋）

……メロンパンが菓子パン枠なの解せんのは自分だけやろか？

はい、というわけで来ました重症棟の厨房。素材は職員さんが用意してくれました。やっただぜ。

じゃけん作っていきましようね。今回は種類が多いので、メロンパンの製作工程だけ映しますわ。パクパクですわ！（メジロ並感）

パン生地はメニユー解放済みなので自動作成させて放置で良いです。問題は上のクッキー生地の方ですね。

まあ取り敢えず作りましょ。まずはボウルにバターと砂糖をドバツとぶち込んで、泡立て器で白っぽく（意味深）なるまでぐるぐるんぐるんすり混ぜてしましましょう。ああ、〜！堪らねえぜ！（ストレス）

次に溶き卵を入れてぐるんぐるん混ぜて、それに薄力粉を入れてさらに混ぜましょ

う。相変わらず混ぜてばっかやなコイツ。

それが出来たら今作った生地を纏めて、だいたい直径3センチい…ですかね？そんなくらいのお大きさになるように棒状♂にして、ラップで包んだら冷蔵庫で20分ほど寝かせましょう。

その間暇なので、自動作成で作ったパン生地のガス抜きをしましょう。そしてら八等分の彼女して(?)丸めて、濡れた布巾を被せて休ませてあげましょう。チカレタ:(パン生地ニキ心の声)

棒状♂くん「おまたせ。」というわけでコイツを八等分に切り分けて、それにラップを挟んで麵棒(意味深)でだいたい直径8センチくらいの大きさになるように広く伸ばしましょう。

…と、此処でパン生地くんをさうきまで棒状♂くんだったので包んであげましょう。寒かっただろうしね(意味不明)

そしてら上からグラニュー糖をまぶしてやって、スケツパーとかいう道具を使って模様を入れます。生地切るんだよ90度。

んでこ→こ←まで来たらもうほぼ完成です。あとはちよつと発酵させてから焼くだけだからね仕方ないね。じゃけんこれをクッキングシートを敷いた鉄板に乗せて、ラップと濡れた布巾を被せて、オーブンの発酵機能を使って発酵させていきましようね。

だいたい、10分くらいでええやろ（ガバガバ）

その後はオーブンから出して、室温でまた10分くらい発酵させます。空腹でもう気が狂いそう！（情緒不安定）

これが終わったら今度こそ焼きの工程です。まずは180°Cで焼くんですが、必ず室温での発酵中に予熱を完了させてから焼きましょう。じゃないと上手く焼けずにもちもちよになります（リアル1敗）

あと焼き時間は180°Cで10分、160°Cで5分です。これでクッキーがサクサクになったら調理完了です…。

ぬわああああん疲れたもおおおおん！ハラヘッタ…

じゃけん味見がてら食べてしましましょう。イタダキマース！

——クッキー生地のサクサクした食感に、パン生地のモチモチ感がとても楽しい…！

——まるでクッキーでも食べてるかのような甘さもよく合っていて、満足感たっぷりだ…！

——自画自賛だが、これは満点をあげても良い！

びゃ”あ”あ”あ”う”ま”ひ”い”い”い”！（なお走者は腹ペコ）と言うわけで勿論満点の

星6です。やったぜ。

というわけで、いろんな菓子パンを量産したら配りに行きましょう。防護服？そんなの必要ねえんだよ！ワイルドだろお？（sgちゃんスタイル）

あつ勿論手数が足りないので他の方々にも手伝って貰います。RTAなんだから当たり前だよなあ？（数少ない時短要素）

はいではお仕事のお時間です。先ずはこの部屋。

こんちゃへ〜sふあつ!?

全身源石だらけじゃねえか！これはもう永くないっすね…おいたわしや…南無南無（不謹慎）

えーっと、情報は…ざっと8歳くらいの、ヴィーヴルの女の子っすね。可愛い。

あつそうだ。（唐突）笑顔を忘れちゃいけないーってばっちやが言つてた（言つてない）気がするから笑顔だ笑顔。ふへへっ（不審者）

では早速、メロンパンを差し出してあげましょう。おあがりよ！

「……う？これ、なあに？」

…うん？なあんか反応薄いつすね…あつ

うわー！忘れてたー！録画ミスで映ってないけど、入っちゃダメだつて部屋があつたんだつたー！それが偶然ここだったと…やべーよやべーよ…まあいいか（反省ゼロ）最期くらいは美味しい飯でも食わせてやるかつ！

これ他の人にバラしちやダメだぞ♡

「……うん」

かわいい（確信） これもうお母さんになっちゃうー！（狂言） しかも食べ方もかわいい。ほっぺがぷにぷにしてそうで最高（圧倒的ロリコン）

…うん？完食したと思つたらなんかすげーこつちをチラチラ見てるんだけど。

「…もつと、ほしいな」

よろこんでっ！

…走者^{コイツ}もう通報されるべきでは？通報しましたわ。ご苦労様です（自演）

おっと今RTAの途中なの一瞬忘れてしまっていましたわ。いかんいかん。じゃけんそろそろ次行きましようね。

…帰り際にあの子なんか言いたげだったけど無視だ無視！エンジョイプレイだったら構ってあげてたんですがねえ…

ほら行くど。

はいというわけでね、一部写しはしませんでしたがちよいとした裏技を使ってちやっちやか配り終えちゃいました。これ以上のガバは本当に取り返しがつかないので当たり前だよなあ？

まあちよつと失敗して結局タイムはプラマイゼロですけどね（フラグを即回収する走者の鑑）

てなわけでは後は流石にメツジちゃんお疲れだと思うのでね、マップ移動使って自室まで行かせて、そこで休ませたら今回はここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその19 『ぬくもり』

夜這いされるRTAはーじまーるよー!

前回は重症棟のロリシヨタ達を餌付けして終わりましたね(意味深)

それで寝るところの筈なんですが…なかなかカットが入りませんねえ…もしやまたガバ?プチイベですか??どっちでも良いけどやめちくりい(切実)

——コンコンコン。

——ドアがノックされる音がする。

——こんな遅くに来客だろうか?

駄目みたいですね(諦め)

はいはい今イキますよ、イキますよ、イクイクっ

ヌツ!(解錠)

「……こんな遅くに申し訳ありません…プラマニクスです…エンヤ、と言った方が伝わ

るかしら…?」

うっそだろお前!?

いや流石に貴方が来るのは予想外が過ぎるんですわよ。しかもこんな遅くに。知らねーよこんなイベントあつたなんて（ガバ）

…はい。というわけでエンヤ様こと「プラマニクス」が乱入してきました。だから睡眠カッツが入らなかつた訳ですね。プチイベなら回避出来る筈なんですが…まさかまさかの強制イベ?

ま、まあともかく歓迎するとして、目的はなんなんすかねこの箱入り娘…

「…その、ですね…少々、寝付きが悪くて…その…甘いものを食べると良く眠れるという話を聞きました…貴女なら“そういうの”を作れるかなと…」

まさかの料理イベかよお前エ！（確定勝利演出UC）

そうと決まれば作って差し上げましょう。しかしメツジちゃん体力的にちよつと怪しい…怪しくない?

じゃけん夜（食作つて）行きましようね。

とは言え時間的にも余裕を作りたいので、ドリンク系を作るとしましょうか。効果はほぼ迷信に近いですが、「ミルクココア」を作ります。

まあ作り方はホントに簡単ですね。牛乳を弱火〜中火くらいで温める事から始めましょう。まあRTAなので強火にしますが。因みにこ→こ←で「ホットミルク」のレシピを解放できます。

で、グツグツ言い出したら火を止めて、ココアパウダーを入れましょう。市販で売ってるアレです。

はい完成です（3分未満クツキング）

したらケーちゃん襲来用に備蓄していたクツキーと一緒にあがりよ！（急な食戟のソーマ）

私は、嘘を吐きました。

本当は寝付きなんて悪くない。多少の悪夢には魘されたが、それでも毎日、朝に目醒ます度に憂鬱になる程なんかじゃない。

甘いものを食べたなら良く眠れる、なんていうのもきつと迷信なのだろうとわかつてい
る。一定のルーティーンをこなせば眠気なんてすぐにやってくる。

貴女がそんな料理を作るのも知っている。だからこそ道に迷いながら此処にやつ
て来た。

——そう、私は嘘を吐いた。

唯、貴女の顔を見たいが為だけに。

カランド
故郷に居た頃の貴女はいつも優しかった。

『一緒に本を読もう』と言えば、嫌な顔一つすらせず笑顔で付き合ってくれた。そう
してお兄様やお父様達によく怒られていたのを未だに憶えている。

エンシア
妹と揃って『遊ぼう』と誘えば、その都度お兄様すら巻き込んで一緒に外を駆けてい
たのを未だに憶えている。

そして何よりも、お父様とお母様を喪った時に一緒に泣いてくれて、皆の傷ついた心
を、冷え切った身体を暖めようとしてくれたのを、私はずっとずっと憶えている。

——そう言えば、貴女が家を出たのは丁度あの日の翌朝でしたね。

お兄様はあの時、貴女を一瞬疑ったものの、それでも皆が貴女を信じて、涙ながら送

り出したのも懐かしい。

私がかランドの巫女になる決意をつけたのも、きつとかランドを離れた貴女の決断に魅せられていたのかもしれない。

そうでないにしても、貴女が皆に与えた影響はとても大きかったでしょう。私がその最たる者だったのだから。

——お待たせしました、巫女様。

「その呼び方は辞めてください。私と貴女の関係ですから、もっとラフにいきましょう？」

——であれば貴方も、敬語なんてお辞め下さい。

「ふふ、それもそうね」

そうやって会話を弾ませながら、テーブルの上にお菓子と、“あの日の温もり”が並べられる。

「ミルクココア…懐かしいわね」

——お熱いので、お気をつけて。

「ええ。では、いただきます」

先に手をつけたのは、あの日に貴女がくれた暖かさ……ミルクココアだった。それは火傷しそうな程に熱くて、猫舌な私には少しばかり優しくなかった。

ふう、ふうと息を吹きかけて冷ましては、それを少しだけ口に含む。

……ミルクのまろやかな口当たりと、ココアの、チョコのようなしつとりとした甘みが口の中を優しく撫で回す。

それは、熱が冷める程に鮮明になり、より優しい甘さを感じさせる。

——嗚呼、本当に懐かしい。

あの日のミルクココアも、とつても熱くて、何処の何よりもずっとずっと、暖かかった。

ふと思い出して、添えるように置かれたクツキーを手に取り、そつと口に運ぶ。

……口に入れた途端にほろりと崩れて、まるで溶けるかのように胃の中に消えていく。しかしその旨さはしっかりと、爪痕を残すように私の舌を塗りつぶす。

再度ミルクココアを口に含む。少しぬるくなっていて、とても飲み易いと感じた。

本当に、優しい味だった。

クツキーを食べる。ココアを飲む。交互に繰り返す度にその温もりは消えていくが、

それでも確かな温もりが、身体に、心に、染み込んでいく。

——嗚呼、本当に……。

「……貴女は、優しいのね」

——……？

「いえ、なんでもないの。美味しいお菓子を有難う」

明日、私が抜け駆けしてしまった事を妹エンシアに謝ろう。きつと拗ねてるだろうから。

「……」馳走様。いつかまた遊びに来るわね」

お粗末！

というわけでプラマニクスさんが無事帰って行ってくれました。評価は☆5。

バラ読み感覚でイベント見てましたが、すんげー重々しいな……大丈夫？これから先料理すらできないとかいう状況になつたりしない？

まあ、リセ出来ない状況なので、しょうがないね。それにまだ凶鑑半分も埋まってないですしお寿司。

ぶつちやけまだまだ先は長いので、なるべく元チャート寄りで行進して行けるとは思います。俺たちの戦い（RTA）はこれからだ！

次回、走者死す！デュエルスタンバイ！

と言うわけで今度こそお休み！すんごい短いけど、ご視聴ありがとうございました。

メニューその20 『賑やかで明るい朝』

おっはー！！！（開幕鼓膜破壊）

と言うわけでいつもよりハードなスケジュールで凶鑑を埋めていくRTAはーじまーるよー！

前回はカランダの巫女様に夜這いされて終わりましたね（意味深）

てなわけで大雑把ですがオリチャー組んできました。先ずは朝イチ食堂でお料理作って、その後にワルファリンネキんとここで実験させてもろて、その後に重症病棟及び末期症状棟でお料理タイム、最後に深夜帯の夜食という流れで行けたらいいな〜と。まあガバるのはしようがないよね（諦め）

と言うわけで食堂までカットじゃい！

到着しました（3秒クッキング感）ので、早速作りましょう。

「あつー！料理長！おはよー！今日も忙しいけど頑張ろうねっ！」

「…早速来たわね。さあて、みんな張り切って行くわよー！」

グムちゃんにジュナーネキおっすおっす！みんなに迎えられる職場…なんてあつた
 けえんだ…（感動）

…よし（賢者タイム）ではちやつちやか済ませちゃいましょう。新メニュー解放の
 為沢山作る事になりますが、今回は作成シーンは一部だけ抜粋します。

取り敢えず、【肉じゃが】に【焼き魚】【味噌汁】の和風セットですね。ただ焼き魚と
 味噌汁は超簡単に作れるので、肉じゃがだけ見せます。

先ず馬鈴薯と人参を大きめの乱切りにして、玉葱をくし切り、白滝は適当にスパア！
 （迫真）つと切っちゃいましょう。

したら中華鍋に油を大きじ2杯くらい入れて、挽肉をドバアつと突っ込んで強火で炒
 めましょう。ボウツ！（着火）

入れる挽肉は豚でも牛でも羊でも問題ないです。なんなら挽肉じゃなくてもなんと
 かなります（適当）

して肉の色が変わったらさつき切った馬鈴薯だとかを全部突っ込めっていつてんだ

よ！（豹変）白滝だけは後で入れますので（ご注意下さい）（遅すぎる注意喚起）

これを軽く炒めたら、水を400cc（唐突の正式な分量）に醤油・酒（ビール・ビール）・砂糖・みりんを大きじ4杯、ほ○だしを大きじ1杯を混ぜた煮汁の材料をドバーツとぶち込んであげましょう。

沸騰したら灰汁を取り除いて、白滝を入れてぐるんぐるんかき混ぜて、中々強火で落とし蓋をして煮汁がなくなるまで20分くらい煮込んで：

あつそうだ（唐突）

20分煮込むって言ったけど、10分経ったら途中でまた混ぜ込んで、落とし蓋をまたしてまた10分煮込むので実際はちよつと違うね（ホモは嘘つき）

終わり！完成！以上！全員解散！

というわけで無事肉じゃがが完成しました。評価は星5！やったぜ。

：なんで肉じゃががって無くなるの早いんだろうね？

あと結構作つといて今更なんだけど、どうして『気まぐれセット』なんてメニューがあるんだろうね。都合良いから何も言わないけどさ。

ままええわ。次の料理行くヨ～

「……アンセルさん、今日は和食なんですね……？」

「はい。今日は件のメツジ先生がいらつしやるとの事で、気まぐれセットを頼んでしまいました」

「おお～！羨ましいな～！アタシも今度頼んでみよ～つと～！」

「カーデイ、喋るなら口の中の食べ物全部飲み込んでからにするんだ。行儀が悪いだろう？」

「まあまあ、いいじゃないですか。メツジさんの料理、凄く美味しいみたいですし。あ～あ、オレも頼めばよかつたな～」

行動予備隊A4の朝はいつも賑やかだ。だが最近はいつも以上に活気に溢れているように感じる。

いつもみたいにカーデイがムードメーカーとして賑やかしているのもあるかもしれない。それを程々に抑えてくれるスチュワードさんの活躍もあってホッコリとした雰囲気になるのもあるかもしれない。

しかし、いつも奥手で控えめなメランサさんが、ほんの少しだけ、明るい雰囲気になっている気がしないでもないし、アドナキエルさん…は、いつも通りかも知れない。

無論、暗い雰囲気よりは断然マシだが、チーム全体…否、このロドス全体がよい意味で賑やかになっている事に不思議と疑問を感じてしまう。

確かに最近のご飯がとても美味しい時があると私も認識している。最近で言えば先日のクリームパンがそれに該当するだろう。

……今思えば、こんなに美味しそうな料理を毎日作って下さっている、件のメツジ先生が来てからロドスは少しずつ変わっていつているような、そんな感覚があったかも知れない。何か、秘訣が有るのでは……

「……く……セル……アンセルくんっ！」

「…はっ、ごめんなさい…少し考え事をしてました」

「悩み事？オレ達で良ければ相談に乗るよ」

「そうだよ、僕たちはチームじゃないか」

「あ、えと…私達じゃあ…頼りない、ですか…？」

「皆さん……有難うございます。でも大丈夫ですよ。たった今解決しましたので」

いけない、ついつい考え込んでしまった。思考に耽つては折角の時間が台無しになるし、ご飯だって冷めてしまう。チームメンバーの視線がちよつとだけ痛いのが早く食べしまわないと。

未だに慣れない箸を不器用ながら持って、スープの入った容器を手に取る。此れは確か、極東の伝統料理の一つ「味噌汁」と言うのだっただろうか……兎に角、これを唇を濡らす程度に啜る。

「……………美味しい」

つい、言葉が溢れてしまった。それくらいには美味しいと感じた。カーデイが興味深そうに此方を見ているが、それをスチュワードさんが抑える。もはや見慣れた光景だ。
 ……兎に角、この味噌汁は凄く美味だ。味噌の深くありつつと優しいコクと味わい、そして具材として入れられたであろう海藻やキノコもとても良い歯応えだし、それを噛むたびにまた味が変わっていく。とても面白い…改め興味深い料理だ。

味噌汁の入った容器を一旦置いて、次に焼き魚に手をつける。香ばしい匂いを漂わせながら綺麗に焼かれたその身を箸で割ると、食欲を更に誘うような香りが漂ってきた。曰く「サンマ」という魚を使っているのだからか。

「ねえねえアンセルくん！それ私も欲しいな〜！」

「こらカーデイ！急に立たない！それに周りにも迷惑だろう？」

「まあまあ、オレもそれ欲しいし…そうだ、全員でシェアしようよ！」

「まあ、私は構いませんが…この魚、骨が多いみたいなので気をつけて下さいね」

「やったー！いただきまーす!!」

「あーもう…ごめんなアンセル、迷惑かけて…」

「いえ、気にしないで下さい。大丈夫ですので」

想定外の事ばかり起きるのも、慣れっこ…だとよかったのだけど、やはり慣れないかも知れない。そんな事を思いながら、使われてないフォークを器用に使ってサンマの身を切り分けてみんなの皿に乗せる。カーデイは勝手に取ってしまったのでその分だけ除いて。

そして5人全員が同時にそれを口に入れる。奇しくもその後の反応もほぼ同じだった。

「わあ〜！おいしいっ！濃厚だ〜！」

「ジューシーな風味が強いね…魚の肉じゃないみたいだ」

「…けど、単体だと味が濃すぎるね」

「はい…ちよつと、しつこい味付けかもです…」

他の4人も言ったが、魚の身とはとても思えない程に脂身が多くとてもジューシーな味わいだ、しかしその味があまりにも濃すぎる。これも噛めば噛むほど味が更に滲み出てくる。

ふと、目の前の容器を手に取り、それに入っていたライスを箸を使って口に運ぶ。

「…いやこれって…」

再度サンマの身を割って口に入れる。すかさずライスを口に入れて同時に咀嚼する。するとどうだろうか。ジューシーで濃厚なサンマの風味がライスで中和されて、むしろ絡み合って程よく口の中で旨味が溶けていく。成る程つまりはそう言うことか。

「…本当に凄く考えられていますね……」

味噌汁で口の中をリセットしてはそう呷く。濃すぎるのなら薄くすれば良い。単純明快だが盲点でもあった。本当に美味しくて飽きが来ない。

そしてそう言えばと、もう一つだけ、口にしていないものがあつたのだつた。そうしてその容器に、肉じゃがに手をつける。

箸でジャガイモを掴もうとすると、柔らかすぎてすぐ割れてしまう。なんとか箸を器用に使いながら人参や何らかの挽肉などを掬い上げるような感覚で掴む。そうしたら漸くご対面だ。それをゆっくりと口に運ぶ。

……成る程、これは先ほどのサンマと打つて変わつて落ち着いた優しい味だ。はふはふと口の中で冷まさないといけない程には熱く、かつ柔らかく。そして煮汁がとても染みついてその旨みと甘みが同時に口の中で広がっていく。

人参や玉葱も柔らかく、そして何より美味く。こつそりと入れられた白滝もいい食感でとても食べ応えがある。挽肉の旨みだつてジャガイモによく馴染んでとても美味だ。

本当に美味しすぎて、周りの話し声、ましてやチームメンバーの声にすら気づく事なく黙々と食べ進めていた。我ながら恥ずかしい限りだ。

でも、つい我を忘れる程には美味しいものであり、今までの人生で最も充実した時間だつたとハッキリと言える。

そして完食した頃には、チームメンバーの視線が、何とというか、生暖かいものだつた

というか、ともかく物凄く恥ずかしい思いをしたのは確かだった筈だ。

「本当に申し訳ないです…まさか周りの声が聞こえなく成る程夢中になってしまおうとは……」

「オレ達は気にしませんよ。寧ろいいのが見れたって感じで」

「アンセルくんホント美味しそーに食べるんだもん、流星の私も邪魔できないよ〜♪」
「途中でカーデイが張り合って大食いしそうになったのはみんなまで止めたけどね」

「え、へへ…メツジさんの、料理…とつても、美味しい…ですもんねっ」

凄く、いたたまれない気分にはなったが、朝の気力を補充するにはまあ十分な刺激だと思えばまだ楽だ。美味しいご飯を食べて、活力もいつも以上に湧いてきた。

「さあ、今日も一日頑張っていきましょう！時間は有限ですからね！」

「「「おー!!!」」」

さて、今日も頑張ろう。時間はあつという間に流れて終わってしまうのだから、自分に出来ることを出来るだけこなししていかなければ。

「……頑張ろう、私」

メニューその21 『牛丼』

続き行くよ。

前回は酷く短かったのですが、今回も立て続けにお料理タイムです。相変わらずメツジちゃん目当ての人多いけど、グムちゃん達もいるし長蛇の列作れるほどロドスも暇じゃないってのはつきりわかんだね。

…おっと何気ない面でケーちゃん came しましたがその辺はジュナーネキ達にお任せするのが一番早いです。もう慣れたもんですわ、対策しないのはもはや甘え（イキリ陰キャ並感）

あつそうだ（唐突）。話題ズレるけど皆さん最近食べた中で一番印象に残ってる料理って有りますかね？ 走者は近所のスーパーで売ってたスペアリブが印象的です。量はしては値段高い…高くない？ とはなったけど、実際食ったらうん、おいしい！ ってなった（語彙力） どのかのタイミングで作って…な…作りたくない？（語録乱用）

「おつ、ホンマにおった！ おうい！ メツジはくん！」

【クロワツサン】ネキことわっさんじゃないか！オツスオツス！基本他の誰かといることが多いのに一人でいるのはかなりレアですね。

「今月ウチ危ないんや、なんか安くて腹持ちのいい料理作れへん？」

作れるっちゃ作れますが、どんくらいかにも寄りますね。値段の目安を聞いたときましようか。

…というか此処の料理って、経費で落とされてるのでは？って思うのは解釈が浅いからなんだろうなあ…（唐突のメタ）

「500…いや400や！どうにかできへん？」

安すぎイ！（半ギレ） そんなん儲けるわけないやんけ！作れるけど！

「ホンマか!?じゃあそれで頼むわ！どんなのでもかまへんで！」

かしこまり！じゃけん作っていきましようね。

んで今回は「牛丼」です。サラリーマン達も意外とお世話になってるのではと思ってる料理の一つです。個人的にはサンドイッチとかの方が安くて腹持ちもまあいいと思うのですが、あの感じだと急いでる感じでもないみたいなので、ちよつとだけ豪華にでも安く。それも朝から食べるやつでマシなやつが牛丼だったのでこうしました。

さて先ず初めに、鍋に水、醤油、酒、砂糖、味醂、顆粒和風だし、しょうがを適量入れて、くし形に切った玉葱をぶち込んで中火で5分くらい煮込みましよう。

その次に、薄切りの牛肉をほぐしながら加えてイキます。アクは…取らなくてええか（料理人失格）

んで更に15分くらい煮込んだら、どんぶりにライス盛ってコレを乗つけたら終わり！完成！

紅生姜や卵はお好みで適宜ぶち込んでいただいて、どうぞ。

しかしまあ作り方が簡単で時間もそんなに取らない牛丼、嫌いじゃないわ！

「おお〜！美味そうやな！…でも朝から重すぎへんか？」

まあまあ、騙されたと思って（詐欺師口調）

「…まあそういうなら、頂くわ！おおきに〜！」

チヨロい（確信）

あとめつちやルンルンなのかわいい（ノンケ）

よし（現場猫） 取り敢えず続きイクゾー！

デッデッデデデッ！カーン！

「料理長！そろそろ休憩に入っちゃって！」

「また貴方に倒れられたらドクター達に見せる顔が無いしね。後は任せて頂戴！」

： Gumちゃんとジュナーネキからストップが入っちゃいましたね。前例がある以上従うしかありません。まあ凶鑑も半分超えてくれたし、ままええわ。

じゃけん今作った牛丼を持っていきましようね。

サラダバー

「…さあて、お手並拝見といかせてもらおうわ」

先日、エクシアから「腕の良い料理人がいるから是非訪ねてみて」と言われ、ロドスの食堂に訪れてみてからはや二日。漸く見つけたと思って注文したら出てきたのはまさかの肉料理。それも朝から。

騙されたと思うって遠慮なく頂いて欲しいと言われ受け取ったものの、少しばかり、重すぎるのではと思わざるを得ない。

ミノス人としては朝からのエネルギーの吸収は非常に重要ではあったりするが、しかし朝イチでコツテリしてそうな料理は流石に受け付けない気がする。

そうやってスプーンで丼に乗せられたそれを突いて一分と少しあたり。件の彼女が現れた。自分と同じものを丼にのせたトレイを持って。

「お？メツジはんも今食いはるん？」

「休んでって言われちゃってね」

「成る程なあ、やっぱ料理長言うんは忙しいん？」

「それは勿論。この後も色々お仕事があつて。実はちよつと急ぎ気味なんだ」
「ああ、せやつたら早く食わなやな！」

そう言つては目の前の肉塊から目を背けつつ、正面に座る彼女の様子を伺う。スプーンで肉ごとライスを掬つて……そのまま食つた。

「……うん。我ながら美味しく出来てる」

自画自賛しながら黙々と食べている。本当に美味そうに食うなとついつい観察してしまう。そしてその視線に気づいてか、此方をチラチラと見てくる。

流石に見過ぎだったか。そう反省しては再び井と向かい合う。

そして意を決して、メツジがしたようにスプーンで肉とライスを掬い上げて、口の中へ放り込む。

——瞬間、口の中で爆発が起きたような錯覚に陥る。

口に含んだ途端に弾ける牛肉の肉汁、噛むたびに濃くなる肉そのものの深みと呼ぶべき味わい、柔らかくなるまで煮込まれた玉葱から出る甘み、そして極め付けはそれらの

エキスを大量に吸い込んだライスの酸味とも塩味とも感じ取れる旨み。それら全てが一気に身体中を駆け巡っては、暴力的な情報量となつて脳裏に撃鉄が叩き込まれる。

安い言い方をすれば『美味しい』。だがそんな言葉ではあんまりにも粗末過ぎる。凡ゆる言葉を精いっぱい使つて褒め称えたくなる程に、とても美味だった。

そしてその魅力にいつ囚われてしまったのか、ふと気がつけば完食してしまつていた。ついおかわりを求めてしまいたくなるくらいには夢中だったのだろう。

……正直、ナメてた。すぐくナメてた。自分の勝手な固定概念に引つ張られ、とんでもない偏見で彼女を見下してしまつていた。

実際、今食べた料理も意外と胃に重たいという印象は無く、すんなりと完食できた。恐らく栄養バランスも大きな偏りも無く作られているのだろう。

成る程、これは確かに料理長と呼ばれるわけだ。

そう思いながら感謝を述べようとしたその時だった。

何処に置いてあつたのか、メツジが生の卵を割つて小さな容器に入れ、醤油をかけてかき混ぜたものを牛丼にかけようとした瞬間を目撃してしまつたのだ。

「……め、メツジはん？なんや、その…卵かけて…」

「…あ、これ？これかけたら味わいがマイルドになつて、胃に流し込みやすくなるから好

きなんだ」

……なんや、その情報…ウチは知らん…

「……お、おかわりやツツツ!!」

そんな美味しそうな食べ方、今すぐにも実践しなければ!

そう思っ駆け出そうとしたその時、そういえばと思い出した。思い出してしまったのだ。

ウチ、もう金無いんやったな……

……『ミノススラング』!!!

こうして、ウチの有意義でありつつも虚しい朝食が終わったのだった。

さらに後日、『オンタマ』や『紅生姜』、『チーズ』などのトツピングの無限の組み合わせに酔いしれ、半年近くはずっと牛丼を食べ続ける事になり徐々に増える体重に苦しむ

羽目になるのはまた別の話である。

なんかわっさんがめちやくちやギャーギャー言ってたけど、満足してたみたいだしヨシ！評価も☆6だったし、タカキも頑張ってたし、良いよね（詠唱キャンセル）

…冷静に考えたらフォルテに牛丼で、もしや共食いさせてる？（カニバリズムを催促する人間の屑）

ま、まあ取り敢えずはヨシ！（適当）次はワルフアリンネキんとこに突撃！貴方に晩ご飯（押し売り）する感じですね。本来はもうちよつと進めたかったですが、尺がたりねえんだワ。

本当に申し訳ない（反省はしない）

と言うわけで今回は残念ながらここまで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその22 『カスタードプリン』

おまたせ。(白目)

と言うわけで続きです。前回言つてた通りワルファリンネキんどこ行つてお料理したい所さんなんです。が、重症病棟にも顔を出しておきたいので上手く話を通してあげたいですねえ。

じゃけん携帯端末から連絡しましょうね。

因みに前回の実験で連絡先は交換済みです。やったぜ。

(流れる名淫夢MOD)(着信音)

『——ワルファリンだ。妾に何の用じゃ?』

繋がりましたね、では早速要件をば。長くなりそうならカットで。

『——嗚呼なんだ、実験か。此方は準備出来ておる。端末の方に位置情報は送つておくから其処に向かつてくれ』

と思つたら意外と早く終わりましたね。でも重症病棟のお話してないんやが…ま
ま ええか（適当）

んで場所の確認を：ファツ!?（目的地：重症病棟）

うっそだろお前www

ここに来てナチュラルに有り難いですねえ!

やつぱりここまでのガバはこの為にあつたんやなつて（釣り合つてない）

てなわけで早速向かしましょう。一度行ったことのある場所にはマップ移動で一瞬
で迎えるので遠慮なく使しましょう。

シュワッ！（urtrmnの鳴き声）

というわけで到着しました。と同時にイベントですね。ワルファリンネキオツス

オツス！（フライング）

「来たか。ワルフアリンから話は聞いている」

どうしてケルシーネキがいるんですかねえ？

「…私か？唯の代役だ。そもそもな話、崖つぶちにぶら下がっている命をあんなのになに任せられる訳も無いだろう」

おかしいな？ワルフアリンネキも立派な医師なんだけどなく？（普段の奇行から目を背けて）

あとホモちゃんも割と一般的な医師以上に素人なんですがそれは…。

「——実験、という名目ではあるが、今回は治療が目的だ。お前を待つ患者は多い…早く準備を済ませてくれ」

しょうがねえなあ（悟空）

何度も言うことにはなるけど、重症病棟にも調理スペースがあつて本当に良かったわホントに。

と言うわけで、今回は量産も楽々な「カスタードプリン」を作つてイキたいと思います。(早く終わるとは言っていない)

まずはゼラチン5gを大きじいの水でふやかして、その間に耐熱ボウルに30gのハチミツと卵黄2個分を入れて泡立て器で軽くかき混ぜます。時短の為本当にサツと混ぜる程度にしておきます(申し訳程度のRTAアピール)

その後300ccの牛乳を加えて更にかき混ぜましょう。こ→こ←はキツチリ混ぜましょう。完成度に影響します(無敗)

混ぜたので今度はこれをレンジに入れ500Wで2分40秒加熱します。こ→こ←でも加速アーツで時短します。想定外のヤツですがこう言うところでは怪我の巧妙ですね。

チーン(33-4)

したらさっきのゼラチンも混ぜ合わせて、ゼラチンを溶かしちやいます。

してこれを茶こしでこしながら、用意した容器に入れて冷蔵庫で冷やせば完成です。

が今回は時短目的でチルド室に入れます。勿論加速アーツも使います。結構な量作るんだから当たり前だよなあ？

因みに今記載した分は2〜3人分の量なので、爆速で量産したいなら使う材料や加熱時間も調整する必要があります。まあレシピ解放したのでゲームシステム上はいい関係ありませんけど（メタ要素）

〜114. 514秒後〜

ぬわあああん疲れたもおおおん！

と言うわけである程度量産できたのでいつの間にも用意されてたガラガラやつ（語彙力）に乗つけてケルシーネキんところに戻りましょうか。

「……完成したか。早速だが行くぞ」

イエッサー！（ホシグマ感）というわけでただ配るだけなのでカット。

「それと言い忘れていたが、サンプル用に幾つか残しておけ。後で作るのも構わないが手間は極力作りたくない」

要は自分も食べたいんですね。かわいい（ノンケ）

てことで今回もやたらと早いですがここまで。ご視聴ありがとうございました。

【実験報告書】 page 2

概要：オペレーター・メツジのアーツによる感染者の治療。

被験者：重症病棟の患者30名。

オペレーター・メツジ、調理済みの食糧を被験者に提供。アーツの使用痕跡は無し。

(後に確認後、調理過程でアーツ反応を確認。)

―被験者30名、それぞれ食事を開始。食事中の発言等は全て省略。―

―完了後、全員に対鉍石病患者への精密検査を実施。―

結果：被験者30名全員の源石融合率及び血液内源石密度の低下を確認。その内3名に鉍石病の完治を確認。

源石融合率：完治者を除き、平均1.4〜3.0%低下。そのうち数名は壊死しかけていた臓器の機能回復を確認。

血液内源石密度：完治者を除き、平均0.07〜0.11u/Lの低下。その内7名の被験者の壊死していた神経系の機能回復を確認。

以上の結果により、実験は成功。次の実験を考案し次第実行に移す。

筆記担当：ケルシー

【備考】当実験終了後、今回のものと全く同じの調理済みの食糧をサンプルとして、更なる実験及び検証を行う。何れも失敗。まだ早計が過ぎるが、此処で一つの仮説を立てる事とする。

—オペレーター・メツジの扱うアーツは、アーツでありながらアーツでない全く別の何かであると。—

メニューその23 『バタースコッチ』

最近ずーっと実家のカルピスよりもうっすい内容になってきてるRTAはっじまーるよー。

いやーなんででしょうね（自業自得）

という事で前回は逝きすぎイ！（予定調和）になるはずだった感染者を飯テロしましたね。ケルシーネキがあれこれ言ってきましたが結果は知らんな（現実とうひ）

今回はその翌日まで一気に飛ばしてからのスタートです。もちろん向かうのは調理室。恐らくケーちゃんが出待ちしますが、それ込みでいろいろ作ることにしましょう。

なんだかんだで最近使ってない気がするワープ機能を存分に使って時短しましょう。ロード時間も割と短いのでいいゾ〜これ。（数少ないRTA要素）

お邪魔するわよ〜（裏声）

「ごはんっー！」

「あつ、料理長！ちようど良かった、ちよつと手伝つて〜！」

ケーちゃんどころかグムネキ…その他諸々までいるじゃんジョン。(誰) どうしてくれんのこれ？

…ま、まあ料理イベントは意外と大事ですからね。回収して損はない筈です。

さて今回はセ〇ンのやつが美味かったので(意味不明)、『バタースコッチ』でも作りましょうか。今回も時間加速アーツが猛威を振るいそうですね。

「(誰)はん…(誰)はんっ!!」

うるせえ！(辛辣) 今作るから待ってるほらほら。

…では改めて、『バタースコッチ』作りといきましょう。

まずは強力粉、小麦粉、塩、牛乳、無塩バター、砂糖をボウルに指定量入れて混ぜ込んで、まとまったら40℃で30分発酵。ここ→←で時間加速アーツを全開で使いまししょう。

最大で何倍速までいけるのかは知りませんが、まあ完全感覚DREAMER(名曲)で行けるでしょう(適当)

発酵が終わったらベンチタイムです。これも時間加速アーツで解決します。ついでに真銀斬を打てテンニンカ(唐突な無茶振り)

「まだ？まだだめなの？」

うるへー！はちみつクッキーでも食べてるオルアン！

「むぐつ、おいひい！」

こうして見るだけなら全然可愛いんですがねえ：（ノンケ）

さてそろそろガス抜きも終わりそうですし続きをば。今度は生地を広げて16×12センチにカットしましょう。厚さは知らん（料理人失格）

切り終えたらこれら全部にコンデンスミルクと有塩バターを塗って重ねていきましよう。

塗るのに筆使ってるから実質スプラトウーン（??）

そしたらこれを6等分の花嫁にして（意味不明）、パウンド型に切れ目が見えるように詰めます。

こ→こ←でポイントなのが、型の1/2×2/3になる程度に詰める事です。あまり詰めすぎると火が通り辛くなつて評価点が下がります（リアル2敗）

できたらまた発酵だ！また発酵だ！！今度は25分です。が時短のため20分で妥協

します（料理人にあるまじき発言）

終わったら180℃で15分焼きます。前工程のも併せて加速アーツが大活躍です。料理系RTAを走る走者たちにはほぼ必須となるスキルです。ねクオレハ：（再確信）

と言うわけで完成です。評価は星4：普通だな！それでは量産しながらみんなさんに試食してもらいましょうか。

「わあ…美味しそうな匂い！料理長、これ食べていいの？」

当たり前前田のクラッカー（激マブ語録）

おっそうだ（唐突） ホモチちゃんもちやんといっばい食べて♡食べる（迫真）

——味が変だと大変だ。自分も試食しよう。

——ぽふっ、もきゅもきゅ。

——パンとケーキの中間のような柔らかい生地 of 食感が心地よく、バター特有の優しい香りが鼻から抜けていく…。

——我ながら美味だと感じた…！

絶対美味しい。絶対美味しいやんこんな（重要な事なので2回言った人）

「ふわふわ！もちもち！すごくおいしい!!」

「なんだか安心する味だね！グムこれ好きかも！」

「食感のパウンドケーキに似てるかも…これワンチャンおやつに…」

大変好評でウレシイ…ウレシイ…というかこれ星4の反応じゃないでしょ（今更）

ままええわ。取り敢えずこっそり侵入してきたイーサンニキをシバいたら量産続行です。

「げっ、なんでバレるんだよ…っーか俺にだっていいだろ…？ケオベも食ってる事だしよオ」

おっそうだな（しかし絶許） 朝飯の時間まで待つててクレメンズ。

「ちえっ、こんなのエコヒイキだろ。俺ア納得しねえぞ」

なんとでも言ってるカス（超辛辣）

さて量産作業に戻ってる間、暇なのでちよつと謝罪でもしておきましょうか。

先ずは、投稿が遅れて大変申し訳ございません。ほぼ失踪してたみたいな感じでした

が、この通り元気してます。

楽しいゲームが多すぎるのか悪いんだ。俺は悪くねえ！俺は悪くねえ！

あと自分自身が飯テロされ過ぎてて食っちゃ寝しまくってました（意味不明）

これからも頑張つて更新していくので、みんなも殺伐とした世界で平和に生きるアー
クナイツRPG、やろう！（勧誘）

※世界が平和とは言っていない。

おつそうだ（唐突）

これ、見ろよ見ろよ（ゴールデングローをチケットで単発引きする動画）

ほら、飯ウマ（当人限定）だぞ嬉しいだろお（煽り）

あつ待つて低評価はやめて！やめてくださいなんでもしますから！（何でもするとは
言っていない）

あつ等倍速になりましたね（逃亡）

はてさてどんなイベントが来るんでしょうね。

「龍門近衛局のチェンだ。メツジという人物はここに居るか？」

…んん？何故チェンさんが来たんですかねえ？（ガバの予感）

「……お前だな。唐突ですまないが同行願いたい」

スウー……ハアアア（クソでか溜息）

多分、アレですね。ウエイ長官に呼ばれたヤーツですかね。

「ほう、案外鋭いな。その通りだ。ロドスでのお前の噂を聞きつけたらしく、是非その手前を見せてほしい、と」

先ず情報が何処からどう漏れたのかを知りたい所さんですが、素直に従いましょう。このイベントは拒否すると無理矢理連れていかれるガバが発生します。つまり強制イベントってわけですね。この畜生めがっ!!!（声だけ迫真）

と言うわけで Gum Ne Ki、その他諸々（適当）、後はやらしく（???）

「う、うん……気をつけてねっ!」

おっすお願いしまっす！（会釈）

と言うわけでそろそろ終わりましたようか。一応ドクターニキに連絡を入れて、と。それではご視聴ありがとうございました。

メニューその24『フルコース（前編）』

お偉いさんを飯で墮とすRTA、はーじまーるよー。

さて早速ですがチェンさんの計らいで龍門に行く羽目になりました。実はこれトツプレベルでの再走案件の一つです。

何故かと言うと、今回の龍門に限らず各国のお偉い人に料理を振る舞う場合、高い評価を出しても専門料理人として引き抜かれる。低い評価だと不快だ！とブチ切れられてガメオペラります（理不尽）。感染者なら尚更です。差別社会だから当たり前だよなあ？

因みにヴィクトリアとウルサス帝国に目をつけられたらその時点で再走です（9敗）
わかりやすい話を言うと、振る舞うのは振る舞う。だけどワイはロドス専門コックなので、スカウトマンは諦メロン（中古ネタ）

…という事です。

では、そろそろ龍門に出かける準備を済ませましょう。

先ずは人事部へ行き龍門の観光ガイドブックを貰いに行きましょう。これを買うだけで龍門のいたい場所へワープ機能を使って移動出来ます。ロドス所属のメリツトがここで生きて来ましたね。やったぜ。

まあ龍門近衛局に行くだけなら、チェンさんの案内があるだけでワープ機能を使えるんですけどね、初見さん（ご都合案件）

あと、ボディガードも連れて行った方が安全です。多少のガバはもう許容します。

ライダー助けて！（ボディガード集めの合図）

「おねーちゃん！おいらのことよんだ？」

「あつ、もしかして噂のコックさん？もし良ければ私も一緒に行ってもいいかな？」

ということで今回来てくれたのはケーちゃん何気に初登場のマリアちゃんこと「ブレミシヤイン」ネキですね。遠くの方で真銀斬ニキが見てた気がしないでも無いですが、ままえやろ。

とにかくこの二人なら充分過ぎるくらい安全です。約一名手間がかかりますが、まあヨシ！（現場ネコ）

最悪の場合でも、最強セコムの「ニール」が光の速度で飛んでくる（直喩）筈です

のでどうにかなってくれます。そう考えると最高レベルの上振れですね。特大ガバの暗示かな？

まあともかく、報酬は料理しか出せないけどちゃんと守ってくれよな頼むよ。

「ん！わかった！おいら、おねーちゃんのことまもる!!」

「護衛任務は経験少ないけど、安心してくれちゃって良いからね」

ほんとお？（失礼）

なんて冗談はさておき、マップ移動機能で龍門へ行きそのまま近衛局に向かってしましましょう。チェンの元へ行っても最終的に近衛局に行く事になるのでガバになりません。イベントもちゃんと進みますしね。

因みにですが、マップ移動を使わない場合は確率で龍門で酔っ払い共に絡まれ戦闘になったりします。勿論そうなら再走です（無敗）

あとエンジョイプレイなら、ここに他走者ニキたちが遺したアイアンマン…（比喻）が援護に来てくれたりくれなかつたりします。

雑談はここまでにして、早速イクゾー！

はい到着しました龍門近衛局です。時間も惜しいので早速厨房に案内して貰いましょう。挨拶とかいらねえんだよ！こちとらRTAなんだよほらあくしろよ（無法者）

「待て、せめてウエイ長官には顔を出しておけ。態々お前を名指しで呼び出した意味をよく考えろ」

クウーン…（ガバ）

…まあこうなった以上は仕方ないです。多少のガバは許容すると逝ったのは自分ですからね、責任くらいは取らないと。

という事で龍門のラスボスみたいなヤツの「ウェイ・イエンウー」に会いに行きましよう。高確率で「フミツキ」さんもいますがタイムには関係ないです。

お邪魔するわよ。

「おお、よく来てくれた。私がこの龍門を統率しているウェイだ。貴殿のロドスでの活躍を聞いては居ても立ってもいられず…とにかく、掛けてくれ」

ウェイ長官オツスオツス！隣にはちゃんどフミツキさんもいますね。この人妻がバイク乗ってブイブイ言わせてたとかうっそだろお前？

あつそうだ（唐突） ホモちゃんの活躍を報告したのは誰なんですかねえ？そこだけずっと気になってたんですよね。

「それでしたら、ユキちゃんからのお土産で頂いてますよ。大変良いお手前でした」

いやお前かい！なんの料理かはともかく結構お茶目だなあのニンジャ。あと高評価

についてはありがとナス！（社交辞令）

「……それで、メツジシェフの料理をお二人が頂きたい、という話で宜しかったんですよね？ 部外者の私が言うのも何ですが…」

「嗚呼、そうなるな。多少無理矢理だったかも知れないが、頼めるだろうか？」

この場所にいる時点で拒否権無いからやるしか無いに決まってるんだよなあ…（強制イベント）

とかブレイクミシヤインが代理で話進めてくれてるのはちよつと助かりました（コミュニケーション障）

「ふふつ、私にできるのはこのくらいだからね。あつ、もしアレなら味見役とかしちやつても…？」

カーッ！ 見んねケオベ！ 卑しか女ばい！

…さてさて、ネタに走るのはここまでにしておいてそろそろ料理したいんですが…。

「……嗚呼、話が長かったな。すまなかった。では早速頼めるだろうか？」
「期待していますよ、ロドスのシェフ様」

よっしや任せろバリバリー！（豹変）

よし、じゃあフルコースぶち込んでやるぜ！

「ほう？それは腹を空かせて待たねばな」

「フフ、楽しみですね」

というわけで早速厨房に案内されましたね。さて今回は宣言通りフルコース式で料理を出しますが、前菜・メイン・デザートのみで行きます。

調理シーンは…尺が無いからカットでええか（料理系走者にあるまじき所業）

「ごはんっ！ごはんっ！」

「へえ…こんな感じの料理なんだ…意外と、家庭的というかなんというか」

ま、まあ高級料理出されてもあつちは食べ慣れてるはずだからねしょうがないね。

「そんなもの、かなあ……？」

「ねえねえ、もう食べていい？おいらもうおなかぺこぺこだよ……」

腹ペコケーちゃんは相変わらずやねんな（大安定）

まあついでですし、皆さんにはどんな料理を出すつもりなのかを、二人のリアクションを見て当てるて貰いましょうかね。偶にはこう言うのも良いですよね。

……腹ペコで待つてる皆さんを飯テロするのも楽しいですからね（ゲス顔）

と言うわけで調理シーンをカットした上で、音声だけ垂れ流しで皆さんに色々ご提供しますので、予想してみてくださいいね。

まあ、当たるわけ無いですけどねガハハ！

先ずは前菜……。

「とーめーなちゆるちゆる！おだんごおいしい！」

「うわあ……ロドスでも似たのを食べた事あるけど、こつちもすつごい美味しいね！なんと言うか、コクが違うというか……」

続いてメイン……。

「さくさく！うまうま！おいしい！」

「肉汁が滲み出て……その中にほんのり甘みがあつて……！卵にこんな使い方があつたなんてね……」

最後にデザート……。

「ふわふわ……あまあま……とろける……」

「うっそ、これサンクタの人でも試した事ないんじゃないこれ……!?どんな発想があればこんな代物が……」

……はい、皆さんには分かりましたか？（鬼畜）まあヒントは多めでしたので意外にも全問正解する方が出てくるかもですね。

そして早めですが今回はここまで。答え合わせは次のパートで！ご視聴ありがとうございました。

メニューその25 『フルコース（後編）』

ことの始まりは数日前に遡る。

いつもは立ち寄らない場所に妻を見かけたところ、彼女がシラユキと共に何かを食べているのを確認した。それはいわゆる菓子パンと呼ばれるものであったと記憶している。

唯の菓子パンであったなら大して気にはならなかった。毒味もシラユキが済ませている事だろう。だが私にはどうも彼女たちが食べているそれが普通には見えなかった。

『気になるのでしたら貴方も食べますか？』

そうして差し出された菓子パン：クリームパンを受け取り口に含むと、あり得ない程の芳醇な香りと味わいが口内を支配した。

冷めていてもなお柔らかく、何処かから“ぬくもり”を感じるような、そんな不思議な感覚があった。

シラクキ曰く、ロドスに優秀な料理人が現れ、食文化が急激に発展したのだとか。

“食”とは、人が人として生きる以上切っても切り離せない重要な要素の一つだ。その発展とは即ち、民の繁栄を指し示す。逆に発展無くば、衰退していくしかないのだ。

無論、龍門も食文化を含めた問題を多く抱えているのは否定出来ない。その問題を解決する何かに特筆した人材が一人でも居れば、そのまま龍門が繁栄していくのだ。それが例え、些細なものであったとしても。

可能であれば、それを……。

「……難しい顔をしていますよ」

「……む、失礼。気に障っただろうか？」

「いえいえ。それだけ楽しみにされているのでしょうから、私も胸が膨らむものです」

思考の海に浸っていると横から愛妻たるフミツキが顔を覗かせていた。それに気づけば彼女はクスリと笑って、遠くから僅かに漂ってくる香りを楽しむ。

こちらもそれに倣って大きく息を吸う。匂いだけで腹の虫が鳴きそうだった。

今回は客人を呼んだ上で料理を振る舞わせるといふ相当な無茶を言った上での会食となつてゐる。後ほど改めて謝罪をいれておかなければと思いつつ、どんな逸材が出てくるのかと期待を隠せずにいた。

品性がないとは思ふが、料理を待つ間、今か今かと急かしてくる子供のようにソワソワと挙動不審になつてしまつた。後の反省点だ。

暫く待つと客人たる例の料理人、メツジが入室し、料理を運んでくる。その後ろを二人の女性が付いてきていた。十中八九ボディガードだろう。

その片割れは少々幼すぎるように見えたが、気にしたら負けだろう。

「——お待たせしました。先ずは一品目、鱗獣シヤンタンの上湯でございます」

「ほう……？」

前菜として出てきたのは、シーフード風スープとでも表現できそうなものだった。類似するものとしては魚団子スープといえは伝わるだろうか。

上湯は龍門でも広く親しまれてゐる炎国料理の一つだ。かつては貴族層に振る舞われていたそうだが、今では家庭料理として伝わつてゐる。

手をつける前に先ずは香りを楽しむ。

鮮やかな潮の香りがなんともたまらない。そこから味を想像するだけで涎が垂れそうになる。

「では、頂こう」

「ええ、頂きます」

ここで漸く匙を手に取り、中のスープを掬いひとすすり。

「……っ!？」

—— 一言で言えば、一瞬だけ海が見えた。

表現があまりにも大袈裟であったが、実際にそう思わせるまでに濃厚なコクと味の深みがこの一匙にあつた。

「ハハ、まさかスープだけで満足させるだけの皿があるうとは」

「本当ですね。これでまだ具材があるので、驚きです」

その一言で、まだ口につけていないものがあつたことを思い出し、その具材の一つ：鱈の肉で作られた団子を口の中へ放り込む。

そしてそれを噛めば、次々に肉の汁が溢れ出ではスープと絡み合い、脳裏に映つた海が次々に彩られていく。今自分がシエスタにいますと言われれば一瞬だけは信じるほどに。

それだけでは無い。野菜類も柔らかく煮詰め仕上げられており、エキスとでも言うべきものがスープに滲み出ている、実にたまらないものであつた。

——ここまで素晴らしいものがあつて、まだ二品も残っていると考えると末恐ろしいものだ。

「本当に、本当に素晴らしいな」

「……欲しくなりましたか？」

「嗚呼。私は早計なだけでなく欲張りなところがあるらしい」

そう笑い合いながら、料理を食べ進めていく。

上湯を完食した頃合いで、一際強い香りが漂ってくる。メツジが二品目…メイン
ドイツシユを運んできた合図だった。

「……前菜はお楽しみ頂けましたでしょうか？」

「嗚呼、大満足だったとも」

「前菜でこれなら次に期待が掛かりますね」

「全くだ。ハハハ」

「それなら何よりです。では本日のメインを……」

「……こちら、スコッチエッグになります」

「……………ふむ？」

そこに置かれたのは、赤いソースがかかった茶色の衣を纏う球体であった。いや、その名前の料理は知っていた。

スコッチエッグ。かなり大雑把に言えば、茹で卵入りメンチカツといったような料理で、記憶が正しければヴィクトリア辺りで親しまれていた筈だ。

ただ今出されるとは思っておらず、申し訳程度に供えられたライスの乗った皿も合わせ、少しだけ拍子抜けしてしまった。

「……炎国料理ばかりではつまらない、と思い……ご不満でしたでしょうか？」

「ん？ いいや、そんな事は無い。少し予想が付かず驚いただけだ。では頂こう」

「ふふ……ええ、頂きませうか」

横^{フミツキ}から飛んでくる視線が気になるが、取り敢えずはフォークとナイフを器用に使い球体を真つ二つに割る。

すると割った中から、たつぷりと詰まった肉汁と半熟卵の卵黄が溢れてくる。この光景だけで腹の虫が鳴き喚いてしまいそうだ。

意を決して、スコッチエッグを一口大に切り分けてそれを頬張る。

「んんっ！なんとまろやかな……！」

「肉汁に反して脂がしつこくない……なのに食べ応えが抜群と来ましたか……」

サクツとした食感の中に、噛むたびに滲み出てくるジューシーな肉汁と卵の優しい甘

み。これにトマトソースの酸味が絶妙にマッチしていて、手がまるで止まらない。

ライスと合わせて食べるとこれまた合う。まさしく最高の組み合わせだ。

うおん、今の私は人力火力発電機だ。

……うん？今の誰だ？私か……いやまさか。

そのままあつという間に完食してしまつて、名残惜しい感覚を残しつつ最後の皿を待つ。

さつきからフミツキの視線がずっとニヨニヨしてて非常に気になるが……食べカスでもあるのだろうか？口元は柔軟に拭いたと思つたのだが……。

兎に角、そうして最後に出てきたのは……。

「お待たせしました。こちら、デザートのスフレ風プディングでございます」

パツと見はスフレケーキにしか見えないものだった。

試しに匙を持つてそれを軽く叩いてみた。するとプルプルと震えて、それがプリンである事を示していた。

暫くその感覚を楽しむと、匙でそれを削り取るように掬い、そのまま口の中へ。

「…………成る程、面白いな。だから『風』か」

口に入れた瞬間、スフレケーキによくあるシユワつとした食感が来ると同時に、まるで柔らかいプリンかアイスクリームのようにトロリと蕩けていく。

山のとっぺんに添えられたカラメルもまた程良い苦味があつて、匙を進めるのを助長してくれる。

まさしく新感覚。スイーツ大国として名高いラテラーノにもギリギリ置いてなさそうな料理だろう。

愛妻もこれをいたく気に入ったらしく、土産としてもう一つ作って欲しいとメツジにねだっていた。

——彼女の腕なら、龍門の発展に繋がるに違いない。

「…………馳走様、非常に美味だったよ。唐突で悪いがメツジシェフ、龍門の専属シェフとして仕える気は無いだろうか？」

彼女ならきつと、将来の龍門を平和にする糸口を握ってくれる事だろう。確信は無いが、そう思わせるだけの魅力が彼女にはあつた。

しかし彼女は、首を横に振つた。

曰く、自分は料理人である前に医師であると。

曰く、自分を待つ人は此処以外に沢山いると。

曰く、見たい笑顔はまだ沢山あると。

そう語る彼女の目は、とても真つ直ぐだつた。

「……分かつた。急に申し訳なかつた、君自身の事を考えてなかつた。本当に申し訳ない」

「君も、戦つていたんだな」

急に呼び出した謝礼金を払い、彼女はチェンらと共にロドスへと帰つていった。

「……我ながら、惜しいことをしたな」

「あら、それにしては満足げですね」

「当然だとも。あれほど気持ちの良い少女はなかなか居ない」

「……女というのは、強いのですよ」

「全くだな。ハハハ！」

願わくば、彼女のような強き人がより良く、より強く生きていきますよう。

遠くなつていく彼女の背に向け、小さくも敬礼を送った。

勝った！第三部完ッ！！

と言うわけで無事ロドスに帰って来れた〜！生きてる！

ケーちゃんもブレミシヤインネキもボデイガード役ありがとナス！二人ともいなかったら多分なあなあで龍門に取り込まれてましたね。まあその場合はその場合でオリチャー組みますけれど。

「どーいたしましてっ！おいらもおいしいのたべられてよかった！ありがと、おねえちゃんっ！」

「右に同じく、かな。いや〜、まさか龍門のトップと話し合うとは思ってなかったけど、何事もなくて良かったね！」

今思えばなんだかんだこの二人で良かったですね。遠くから見えた真銀斬ニキだとよく分からん舌戦してたかもしれないね。それでタイムが伸びたり……あああ考え

たく無い（〇）

と言うわけで視聴者ニキの皆さん、料理の予想は当たったかな？

わかるわけないだろ！いい加減にしろ!!という先輩たちのために、台パンボタンを用意しました。

バン！バン！バン！

→此方になります……（クソ雑）

というわけで是非是非押してつてくれよな。

では今回はここまで。ご視聴ありがとうございました……

「メツジ！此処にいやがったか!!」

うん？イフリータちゃんじゃないっすか。どうしたゾ？そろそろ動画締めるところだったんですがそれは……

「なあ頼むよ！オレサマを治したみてえに、ダリアも治してくれ!!」

ファッ!?

メニューその26 『アイスクリーム』

その幻想をぶち壊す！RTAはーじまーるよー。
トラウマ

という訳で今回は公式コミカライズから参戦したダリアちゃんを治してくれよ頼むよとイフリータちゃんにお願いされた所から再開です。どうしてこうなった()

取り敢えず移動とイベントは倍速かけて、その間に件のダリアについて解説をば。

ダリアちゃんは上記にもある通り、公式のコミカライズから参戦したウルサスの女の子で、スペランカーもビックリないっ死ぬかも分からない重度の感染者です。アークナイツくんホントさあ…。

コミカライズの方でもサイレンスネキを筆頭とした医療チームの奮闘虚しく亡くなってしまっています。イフリータから伝え聞いた砂漠のオアシスで最期を迎えられたのは唯一の救いだったりするかもしれませんが、推したい子が無慈悲に逝きスギイ！なのは、やつば辛えわ…。

そんなお気に入りで大好きなお友達を亡くしたくないイフリータの一心で、白羽の矢がたったのが、鉱石病を確実に治せる唯一の存在であるホモちゃんだったわけですね。

ただハツキリ言います。これとんでもねえ大ガバです（○）

理由は言うまでもなく、この類のイベントは必然的に長期的なものになるからです。ホモちゃんの治し方なら尚更の事。どうして食べ物経由しないと治せないんですか？

（医療従事者フェリーン）

ライン生命勢の好感度自体はそんなに必要無いので無視しても良かったのですが、間接的にケルシコネキの好感度も下がる事があります。結果ケルシコネキからありがた〜いお話を頂く頻度が高くなります。まあお察しの通り、タイムロスに繋がります（3敗）

無論再走案件ですが、リセットボタン壊れてるんだよなあ……まあ個人的に今回のホモちゃんがとても気に入ってるので辞めるつもりはありませんが。

あとこのRTA走ってるのワイだけだからどんなガバ起こそうがワイが最速なんや……！（暴論）

それに何より、曇らせの大バーゲンであるアクナイでちよつとでも甘い夢見たい……見たくない？（ハピエン厨）

等速に戻りましたね。現在地は医療部の一室、いつぞやのヴィーヴルちゃんの時と似たような構造ですね。因みにガラス越しに見えるロリがダリアちゃんです。サイレン

スネキが目を丸くしてビックリしてるの可愛いね♡

カルシウムアクリクイパパこと「サリア」ネキが居ないの、悲しいなあ（適当）

「メツジ……ごめん、イフリータが迷惑かけたみたいで」

ええんやで（寛大）でも再走確定要因の一つを持って来たのはゆる”き”ん”!!（豹変）

……ままええわ（妥協）

「なあサイレンス！メツジならダリアのこと治せるよな？オレサマの身体だつて良くなつて来たんだからさ!!」

「…確信は無い。だけどケルシー先生から貰った資料と実績を信じるなら、可能性は高い、と思う」

「っ、本当か!?!ダリアは助かるんだな!?!」

（実質）初見イベで特大フラグを乱立させるのはやめちくり。プレッシャーになるんじゃない！

と言つても料理作つて食べさせるくらいしかできないんですけどね。

というわけで厨房を借りるとしましょう。医療部にも最低限の食料はある筈ですからね。

「分かった。ダリアの様子は私が見ておくから」

「オレサマは絶対に子分を見捨てない。だからオレサマも残る。だからオマエも、ダリアに美味しいもん食べさせてやってくれ！」

ん、おかのした。

という事で早速厨房に移動して料理の時間です。本来なら一応凶鑑にもある【お粥】を作るのが一番良いです。実際作りますし。

でもそれだけじゃ味気ないじゃないですか（医療従事者失格）

そんなわけで今回は【アイスクリーム】です。

通常プレイで作ろうとすると某ラグナロクさんが湧いて出て来ますが、それはグムちゃん達がいる方の厨房です。なのでこつち側に湧く事はあんま「今アイスクリームと言つたか」ヒエツ

「……なんだ、私がいる事が不満なのか？」

ツスウウウ……はい、何故か「スルト」ネキが湧いて来ました。お前なんているんだよ（語録無視）

「定期検査の帰りの道中で近くを通りすがった所、お前の独り言が聞こえた。それだけだ」

ホントお？（疑心暗鬼）

まあ見つかった以上は仕方ないので、作るだけは作りましょう。勿論ダリアちゃんに作るのがメインです。名目上は医療食だから当たり前だよなあ？

因みにスルト関連のイベントでアイスが食べられ無い状態がある場合、状況次第ではスルトにシバかれます（無敗）

これも全部デイクェ○ドってやつのせいなんだ（風評被害）

「……まあいい。あまり待たせてくれるなよ」

アツハーイ（白目）

では早速始めましょうか。用意する素材は牛乳、卵黄、生クリーム、砂糖の4つのみと初心者に優しいです。

（リアルだと卵が手に入りにくいですけど）

さてまずはボウルに卵黄と砂糖を入れて、泡立て器でかき混ぜます。アイリーニS3のイメージで大丈夫です（浮遊状態）

しばらく混ぜ続けると全体的に白っぽい感じが出てくるので、そこまでは頑張りましょう。おめえも頑張んだよ！（情緒不安定）

その次に、牛乳と生クリームを鍋に入れて弱めの中火にかけて、鍋の周りがフツフツと沸くまで加熱します。今回は時短の為にアイリーニ（動詞）の前に加熱します。

で沸いたらこれをボウルの方に少しずつ加えながらかき混ぜましょう。勢いよく入れるのはNGです。理由？知らわなwいwよw

出来たらこれを別容器、可能なら金属製のものに移して、ラップなどで蓋をしてから冷凍庫に入れます。まだ熱ウイ！状態のこれを氷水などで人肌以下くらいに冷ましてから冷凍庫に入れるのが出来が良くなりますが、RTAなので速度重視で冷凍庫に直行します。

だいたい3時間後くらいに容器の周りが少し固まってくるので、これを泡立て器など

でサツとかき混ぜて、また冷凍庫に。これを30分置きくらいの頻度で何度か繰り返して行けば完成です。

そしてここでも時間加速アーツくんが大活躍です。主に冷凍時間の短縮で最低でも4時間かかる所を、なんとゲーム時間内で30分で完成してしまいました。

やったぜ（BGM：英雄の証）

「出来たのか？」

アツ、そう言えばいましたねあなた（失礼）

しいたけみたいな目しやがって：涎まで垂らして可愛いね♡（ノンケ）

「とはいえこのまま全部渡してしまうと作り直しというロスが発生します。最悪の場合スルトがアイスのおかわりを要求してきます。無限ループかな？」

とにかくそれではダリアちゃんの分が残らず、どっかのタイミングで覗きに来るであろうイフリータがスルトに喧嘩売るまでが見えてるので阻止しなければなりません。

そういう訳だから一部だけにくれよ頼むよ。

「……………料理で治す、とは眉唾モノだが…私の分があるなら良い。後は厨房の連中から

貰う事にする」

やったぜ（BGM：英雄の証 3rd ver.）

完全勝利確定したのでスルトの持つてる容器にアイスを入れてあげて、残りをダリアちゃんの所へ持って行ってあげましょう。

というわけで一気に飛ばしてダリアちゃんのとこに到着です。サイレンスネキの様子を見たところ丁度終わった見たいですね。噴き出るように流れる脂汗がセクシー…エロい！（性癖晒し）

「……あ、メツジ…ふう、完成したんだね。ありがとう」

中居さんありがとう！（誰）

では早速ダリアちゃんに食べさせてあげましょう。おっ開いてんじやーん！（自動ドア）

「あつ！やつと来やがったか！大丈夫だからなダリア、オレサマが話したメッジつてのがコイツだ。だからすぐにでも治してくれるからな」

「……ほんと？」

「嗚呼、本当だ！ボスが言うんだから絶対だ。なっ？」

そっだよ（便乗）

と言うわけで餌付けタイムです。モチモチしてそうなほっぺが可愛い（語録無視）

でも身体の内側から貫くように出てきてる鉱石がなかなかグロいねんな…これは閲覧注意ですよ（遅すぎる注意喚起）

「……おいひい…ボス！おいしい！」

「だろ！メッジの作る料理はいつだって美味えんだ！これからも沢山食べれるからな！」

「うんーうん!!」

あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ!!!
”!!! (号泣)

失礼、取り乱しました。

いやこんな泣きますやん、イフリータとの2ショットスチルが眩しすぎるんよ。オタクを殺す気か? (実況放棄)

……はい (賢者タイム)

残りはイフリータに押し付けて撤退しましょう。忘れてましたけど龍門を飯テロした直後なんですよねこれ。また疲労でぶっ倒れてガバ重なるのも問題ですからね。

それに評価もちやんと星6貰えたからヨシ!

「メッジ!おいしい、ありがとう!」

好きイイイイ!!! (CV: 上田晋也)

でもまあこれも意外とゲーム内のパラメータに影響したりするので万々歳です。主に精神面での影響が大きく、僅かでは有りますがバフも貰えます (唐突に明かされる追

加要素)

これから毎日重症患者に感謝されていこうぜ!

「……今日は本当にありがとう。無茶を言ったお詫びはいつかするから、また……また、頼つてもいいかな」

当たり前だよなあ? (建前)

ガバは嫌だガバは嫌だガバは嫌だ……! (本音)

まあボケはそこそこに、凶鑑の残りも気付けばあと100種類を切ってるので、タイムに影響が無い程度に利用させてもらいましょう。

では自室にマップ移動して休息を選んだら今回はここまで。ご視聴ありがとうございます
いました。